

初 秋

世界の山旅 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

紅葉のベストシーズンにロッキー・オーロラライトハイキング3日 夜中に輝く神秘のオーロラ。秋のカナダの魅力を満喫する 紅葉のベストシーズンに、山岳探検の醍醐味を満喫

**秋のカナディアン・ロッキー・
満喫ハイキング 8日間**

大阪・東京
●9/17●9/25●10/2発 ¥420,000
●10/9発 ¥370,000

紅葉満ちた風景、雄大な自然、秋の豪華アルプスを満喫

**秋のイエローナイフ・
オーロラウォッチングとロッキー編 8日間**

大阪・東京
●9/13●9/20発 ¥506,000

コンパクトな日程で効率的に遊べる4,000m峰に登頂

**ロッキーの聖地「レイクオハラ」と
カナナスクス・ハイキング 9日間**

大阪・東京
●9/21●9/29発 ¥499,000

サービスに定評のある3ミレーツ地区、アフリカ風自然を満喫

**秋のドロミテと
オーストリア・ハイキング 9日間**

大阪・名古屋・東京
●9/25発 ¥524,000
●10/2●10/6発 ¥502,000

エベレスト山脈を歩いた中の留宿ホテルを満喫

**マレーシア最高峰
Mt. キナバル登頂 6日間**

大阪・東京
●9/20発 ¥236,000
●11/8発 ¥198,000

5,000m級の山脈を歩いた中、マウントクックも満喫

**キリマンジャロゆったり登頂と
サファリ 11日間**

大阪
●9/27発 ¥538,000

高原から植生へ、歩きごたえのあるロングコース

**エベレスト・パノラマ・
トレッキング 13日間**

大阪・名古屋・福岡・東京
●10/17●10/24●10/31●11/7●11/14
●11/21●12/12●12/19発 ¥370,000

ゴラビニ川に2度ほど仲どりの宿、ボカラにも宿泊

**ミルフオード・トラックと
マウントクック 11日間**

大阪(月・火発着を除く)・東京
●12/7発 ¥520,000
●12/20発 ¥668,000
●1/27●1/27発 ¥646,000

ニュージーランド唯一の湖と6花畑を楽しむトレッキング

**大雪山縦走と
秘湯・登山溪温泉 4日間**

大阪
●9/19発 ¥109,000

紅葉の3名山を一日一山登る効率の良いプラン

**アンナブルナ・ダウラギリゆったり
トレッキングとボカラ 12日間**

大阪・名古屋・福岡・東京
●10/22●10/29●11/5●12/10発 ¥362,000

ゴラビニ川に2度ほど仲どりの宿、ボカラにも宿泊

**ルートバーン・トラックと
マウントクック 10日間**

大阪(月・火発着を除く)・東京(10/25、10/29発着を除く)
●11/21発 ¥554,000
●12/6発 ¥572,000
●12/13発 ¥626,000

ニュージーランド唯一の湖と6花畑を楽しむトレッキング

**羅臼岳、斜里岳、
雌阿蘇岳登頂 4日間**

大阪
●9/27発 ¥172,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

山岳探検大賞受賞旅行代理店 400社 / 山岳探検旅行協会 正会員 600社 旅行代理店
アルパインツアーサービス株式会社

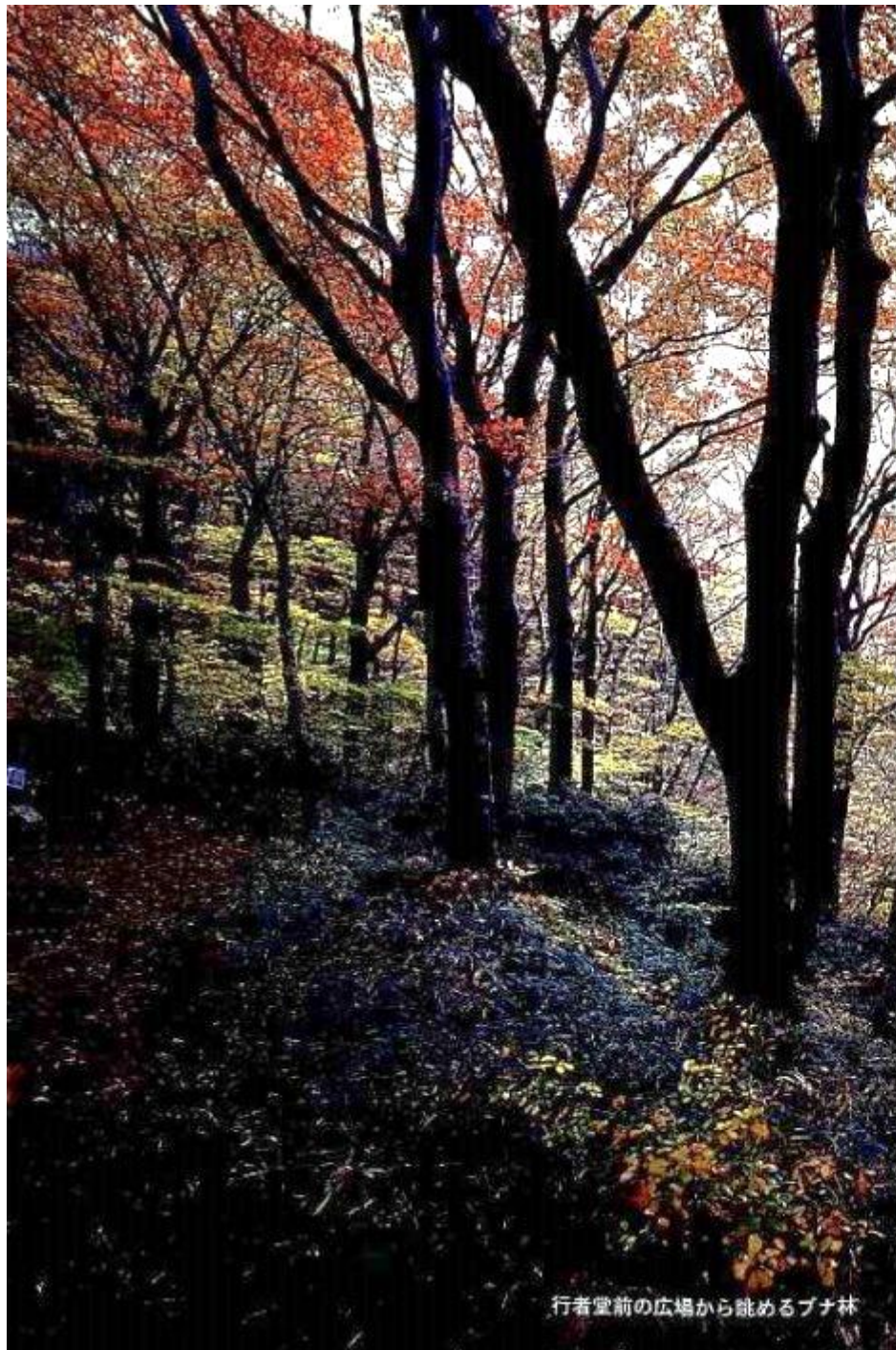
〒550-0003 大阪市西区京町筋1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
東京 / ☎03(3503)1911 大阪 / ☎06(6444)3093
名古屋 / ☎052(581)3211 福岡 / ☎092(715)1557
札幌 / ☎011(711)7106 仙台 / ☎22(265)4611(転送)
(株)りんゆう観光 広島 / ☎082(542)1600(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します。

山仲間がオリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山脈
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
キングを企画したい、いつもの山仲間で海外の山歩き
をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか
らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ
ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

綿向山山頂へ向かう道に大きなブナがある



行者堂前の広場から眺めるブナ林



植林を抜けると、登山道沿いにブナ林が広がる

近江の山

樹木の四季 — 初秋 —

山本 武人

鈴鹿の山、綿向山の「ブナ林」

(日野町、七合目行者堂)

鈴鹿山系の中でも人気のある山が綿向山。標高に合わせて11月10日を「綿向山の日」としてこの日は多くの人達でにぎわう。

七合目行者堂まで来ると、ブナ林である。この場所は四季を通じてすばらしい。休憩してゆっくりと木々の表情を眺めたい。秋は特別だ。ブナの微妙な色彩が見事である。

ただ、ブナの周辺は植林されている。いずれ、杉などが伐られた時にブナ林も影響を受けるとなろう。



コスモス (安倍文殊院・浮御堂)

一面に咲き乱れたコスモスが
青空をピンクに染める
色とりどりに風に舞う
360度の大パノラマ
チギラレテモ咲き続けるコスモス
どこか強さも感じる

「秋桜 (コスモス)」
薄紅のコスモスが秋の日の
何気ない陽だまりに揺れている
山口百恵さんのヒット曲として知
られるさだまささんの曲
コスモスの花ことばは乙女の真心
嫁ぐ娘が母への思いを綴った詩は
男たちの永遠のあこがれ
聞くたび歌うたび涙もろくなる

コスモス (安倍文殊院)



Photo essay

秋 桜



題字 中田 崗 石
撮影 由井 収
文 松 永 恵 一

秋の夕景 (浮御堂)



季節の

実景

初秋

芦生の森 (京都北山)

撮影 武市通治



森の番人 (ブナ)



樹木の叫び



輪廻

とまり木 (トリカブト)



生命の動脈

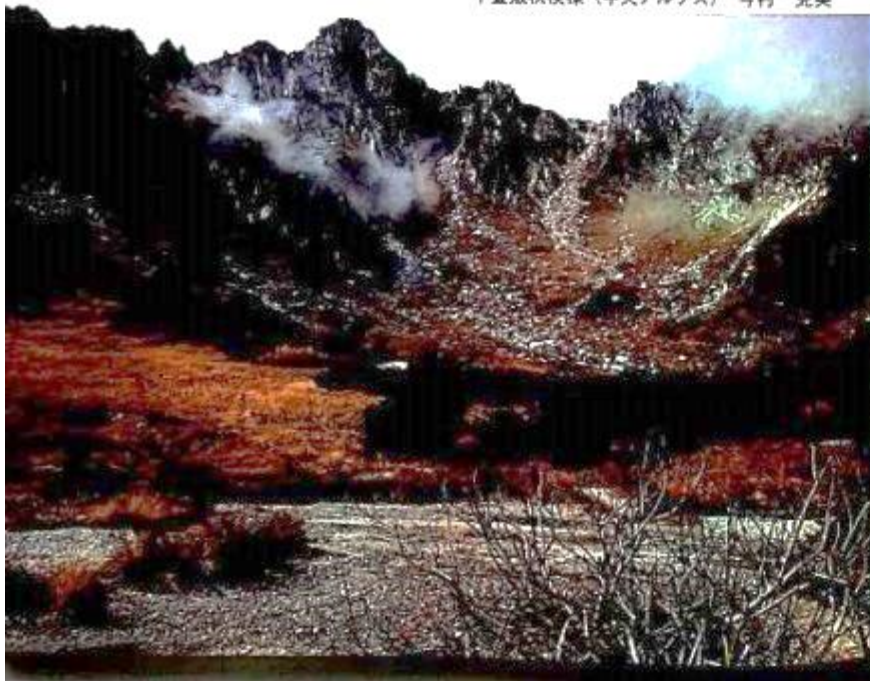




秋の戸隠山（戸隠高原鏡池）高岡 富美子



三瓶山（中国山地）松田 敏男



千畳敷秋模様（中央アルプス）今村 克美



初秋の持越峠（京都北山・真弓）山中 茂



池沢と鐘堂 (西村文男)

- 表紙 朝の汐兵衛半(吉史地蔵)..... 松田敬男
- 口絵 近江の山・樹木の四季..... 山本武人
- Photo essay「秋桜」..... 松永恵一
- 季節の賞景-戸生の森-..... 武市道治
- ・松田敬男・山中 茂・高岡志英子・今村克英
- 初秋の鎌池で-長野県小谷村にて-..... 奥田美一郎

初秋の鎌池で -長野県小谷村にて-

奥田 美一郎



深緑の池面に小さな秋が漂う



林道より見る雨飾山



映ろい始めた秋

巻頭紀行

随想

久方振りの御池篇
西条・鹽州寺
野暮

紀行

高尾山..... 木村 太郎 27 22
奥三方谷..... 山田 明男 27 22
標高による山の紹介シリーズ42 △△△△の山
地谷ヶ峰・妙蓮山・白山..... 松田 敬男 32 32
御坂峠から御坂山・黒岳..... 山形 龍一 34 34
峰床山から御坂山..... 島田浩一郎 36 34
滝谷越西文蔵博物館..... 小山 誠次 41 41
大天井池から小天井池へ..... 藤野 純 52 41
豊満月出山..... 西見 英樹 52 41
文学歴史ハイイク⑧ 奈良市高畑に鐘堂を初めて..... 松永 恵一 84 83

情報

北海道登山 山小屋事情⑧..... 金谷 昭 48 48
地名について..... 森木 伸人 57 48
山の形..... 山の名を歩く⑧ 鉢背山 口..... 西尾 寿一 68 57
山の形..... 「龍宮」(鳥か)「鐘堂」(池)にまつられた鐘堂..... 柴田 昭彦 71 68

コースガイド

田天神山から文登山..... 長宗 清司 78 78
西行寺山..... 森木 伸人 78 78
せせらぎ..... 111
サービスエリア..... 88
山行計画・案内..... 91
入会案内・新入会員紹介..... 111
高尾山集・雑集後記..... 112
広告案内..... 112

巻頭言

週刊誌を読んでいたら、江戸時代には、子供達が勉強する「寺子屋」が、全国の村々に5万以上もあり、これに入ることを「登山」と言ったとある。当時の「寺子屋」はお寺が中心で、寺のことを「山」と呼んだからとある。確かに現在も、寺を「.....山.....寺」と称している。

「寺子屋」には、今の小・中学校のような教科書は無く、学習指導要領なども無い。教員免許も、いわんや入学試験や偏差値など一切無い。もっぱら読み書きソロバンで、主に礼儀作法、算を教える所であったらしい。江戸時代の子供達はさぞかしのびのびと勉強したことだろう。

昨今、「山」に登るにも「登山靴」と称して、小難しいことを言う人がいる。「山はこのように登りなさい」と言われても、人によって様々。山は自由な己のスタイルで登りたいものだ。

新ハイキング関西(代志) 村田 智雄

獣臭漂う

久方振りの御池岳

長谷川 雅 俊

鈴 鹿

世の中には、年間100日以上も山に入る人がいるかと思えば、小生のように世間のしがらみからなかなか抜けられず、20〜30日が精一杯という者もいる。

そんな小生に、新たに親の介護という問題が生じた。肺炎で入院した後、心配していたようにボケが現れ、山どころではなくなつた。その後完全ではないが、何とか正気に戻ってきたようなので、久方振りに御池岳へ入ることとした。5月以来なので、5ヶ月振りである。

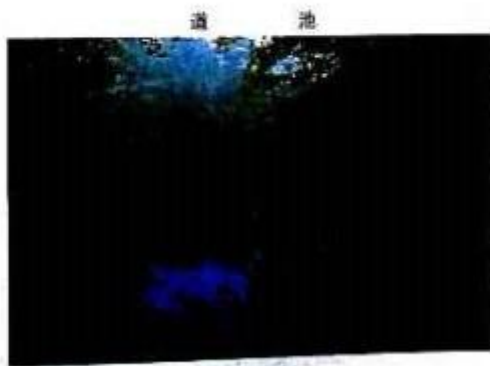
9月に「鈴鹿樹林の回廊」の葉理麻 があり、当然参加したのではあるが、呂氏主宰の「ミルキーあんばん岭行」 歩き回っただけで、山に入ったことに



で入った時は五感が研ぎ澄まされ、その精神の高揚感に至福の喜びとなる。ましてや、暗闇のなかの登山となればなおさらである。

自宅を21時22分出発、コグルミ谷登山口に22時42分着。峠族がタイヤをきしませながら走る爆音を子守唄に、深い眠りに就いたのだが、夜中に突然、叩き起こされる。寝ぼけ眼で何事かと起きてみると、赤い点滅灯をバックにおまわりさんが立っている。またか（これで三回目）と思いながら、受け答えて、「ご苦労様と書いてまた眠る。」

4時20分、高度計を527mにセットしてコグルミ谷右岸を旅立つ。空を見上げると昨夜の満天の美しい



はならない。小生の尊敬する田部重治は、「山に入るという事は、山で泊まる事である。」と、著書「山と溪谷」に書いていたと思うが、さらに付け加えるならば、「山に入るという事は、山に1人で入る事である。」

鈴鹿のような低山であろうと、1人

星空がウソのように雲がかかっている。ヘッドライトの灯りを頼りに歩き始めたのだが、久し振りの暗闇に体がふらつく。ほんのちよっとしたことが命取りになるので、気を引き締めて歩く。右岸からすぐに沢を渡り、倒木に脚を引っ掛けないように足元に注意しながら左岸にのる。ミカエリソウが咲き始めており、そこから中から獣の足音がする。

4時30分、579mで右岸樹林帯に入ると、ありがたいことに、ここでもまたたくさんのミカエリソウが迎えてくれた。4時30分、592mで荒れた谷を横切り、再び左岸に戻る。ここでは右岸から二本の倒木が登山道を塞いでおり、それを跨ぐ。

600mを超えると、ミカエリソウのなかにミズヒキがたくさん見られるようになる。ふと気づくと、登山道を見失っており、谷芯を歩く。たぶん、登山道は左岸のもっと上の方にあると思われるが、探すまでもないのでそのまま荒れた谷芯を進む。



蒼むしたカレンフェルト群 (奥境線1148ピーク)

4時47分、見覚えのあるタテ谷分岐が現れたので登山道に戻る。5時02分、738峰において馴染の炭焼き釜跡を通り過ぎる。以前はこの窯跡の下を登山道が通っていたのだが、何年か前の土石流で道が消失し、新たに作られた登山道が窯跡の上を通るようになったため、かなり荒れてきてしまった。770峰で、右手よりガレた谷が合流すると、右岸の方から水の流れる音が聞こえてきた。たぶん、長命水だろうと、右肩へ谷を渡る。近づいてみると、水音の主は長命水ではなく、左俣の水の流れであった。

長命水で水を二杯飲み、すぐに歩き出す。少しして、何となく地形がおかしいと感じたのだが、そのまま登り続ける。5時16分、見上げると空がほんのりと明るくなってきた。5時21分、802峰においてライトを消してあたりを見渡すと、やはり道が違っている。登山道は本流の右俣を通っているのだが、今いるのは中俣である。

できることなら、右俣にある近藤岩

開気も獣道が縦横に走っていて、小生のお気に入りの場所である。

御池頂には、名前の通り池がたくさんあるが、その中でも道池が一番新しい池である。最初のうちは、登山道脇にあるただの水溜りだったのだが、数年振りに訪れたところ、大きな池になっていたのでビックリした。

ここからは、ノンビリと登山道を歩

(830峰)に立ち寄り、御池村人氏の再発したガンが治りますようにと、鈴鹿の山神様にお願ひしたかったのだが、やむをえず、ここから折廻することに。村人さんゴメンナチャイ!

5時30分、856峰で近藤岩からのトラパス道に合流する。この中俣谷は以前、土石流の時にゴウゴウと水が流れていて恐ろしくて渡歩できなかったのだが、ほんの数十分下の長命水では伏流になっていた。

近くでイノシシの鼻息が聞こえ、鳥が鳴きだした。鹿の鳴き声もしきりに聞かれるようになった。山の1日の始まりである。こんな時間ここにいられる幸せをしみじみと感じる。

5時43分、天ガ平に到着し、一眼して始をなめていると、黒くて大きな塊が目の前に突然やってきて立ち止まった。最初はイノシシかと思ったのだが、よく見てみるとなかなか立派な牡鹿であった。周りがまだ薄暗いからなのか、こんなに黒い鹿は初めてであった。し

き、前回の「ミルクーあんぼん時行」の時に見かけたジンソウを確認しようとう奇ったのだが、残念ながらすでに花期は終わっていた。

7時50分、北池に到着。ザックを降ろして池の写真を撮るが、いまいちテションが上がらない。小生の場合、山の写真で気に入るのは、やはり雨やガスっている時のものである。今日初めてオニギリを二個食べる。

8時09分、奥の池を通過、カリガネソウも見に行っただけだが、ほんの少しだけ申し訳なさそうに咲いていた。池ノ平に出てみると、ここ二、三年不作のアケボノソウを見つかることができ

た。中には、珍しく花卉が四枚のものがあった。普通、五枚の花弁の株にまれに四枚のものがあるのだが、この株は全ての花卉が四枚であった。30分程写真を撮ってから、1182峰ピークに向かって歩き出す。

8時58分、1182峰ピークに到着。このピークは鈴北岳と呼ばれているが、やはり御池池の中の一つのピークとし

ばらくはお互いをジッと見つめ合っていたが、向こうのほうから真ノ谷側へ走り去っていった。

5時51分出発。6時00分、コゲルミ谷右俣谷頭部のドリーネのある所で三脚を出して写真を撮る。6時18分、ツメタミズに到着。サルがたくさんくつろいでいたが、朝早くの闖入者に驚いて、蜘蛛の子を散らすように逃げ去っていった。おサルさんゴメンネ……。

6時28分、奥境線上の幻ノ池に到着し、ここでも写真を撮る。

6時42分、稜線上の大きなドリーネの老木を撮る。このドリーネの底は大きなヌタ場になっていて、獣の足跡が入り乱れている。あたり一面獣臭が漂っており、むせ返りそうになる。夜明けに嗅ぐ獣の臭い……至福のひとつである。

1148峰ピークの蒼むしたカレンフェルト群でも写真を撮る。

7時21分、1140峰のアズキナシの大木から奥境の谷を越えて道池へ出ることになる。このあたりの斜面の写

て、ただ単に1182峰ピークと呼ぶのが相応しいと思うが……。

ここからは、奥境線に沿って124度にくる。鞍部に着いてから、左折して34度の方向に谷を下りる。この斜面全体に敷え切れないほどの鹿の寝床を見る。これほどたくさん鹿の寝床は初めてである。そういえば、昨年夜明けの池ノ平で100頭以上の鹿がノンビリとくつろいでいたのを見てビックリしたのだが、これならさもありなんと納得した。

1185峰にはヌタ場がたくさんあり、あたりに漂う獣の臭いが鼻腔をくすぐる。このヌタ場の特徴は、凹地に自然に出来た沼地のヌタ場ではなく、急斜面の乾いた土を獣たちが掘り返して、ヌタ場をつくったように見える。

9時29分、高度1011峰においてタテ谷本流に合流し、そのままくだる。970峰で左岸尾根にのる。この左岸尾根はすぐに二重山稜になり、その鞍部にキハダの池がある。

二重山稜の尾根を乗り越し、47度へ

斜面を下りる。イノシシの鳴き声と走り去る足音が聞こえる。この谷はコグルミ谷と鞍掛峠との間にある、三本の谷(ハテ谷・小竜の谷・はずかしの水の谷)の一つで、小竜の谷と呼ばれている。

10時04分、905mで小竜の穴に到着。小竜というからには当然、竜(大竜)の穴がある。この大きな竜の穴は、コグルミ谷の長命水の下流に十数年前に突然出来たのだが、石を投げつけても穴底に落ちる音がしないほどの深い穴であった。残念ながら、現在は完全に埋まってしまったが、この小竜の穴(第一発見者の御池仙人民が命名)はおそらく、永遠に塞がることはないであろう形をしている。急斜面にあるドリーネの周りをチェッククストーンのように岩が囲っていて、覗き込むと真っ暗な穴を見ることが出来る。この穴を探索した葉理麻呂氏によれば、深さは10m程では垂直の穴だそうである。苦むした岩にはミカエリソウとジンジソウがきれいに咲き誇っており、陰湿な穴の雰囲気を感じている。

谷を下りて行くと、826mでミカエリソウの大群落が見れた。踏み場もないほどで、「花さんゴメンネ」とつぶやきながら踏みしめて進むと、10時43分、799mから榎林帯が始まる。760mにある窟跡の池には、花期の終わったマツカゼソウとアケボノソウが咲き誇っていた。ここ数年で、御池では一番の群生であった。

以前、この周辺で、愛知県半田市の戦前にあったカプトビールの瓶が落ちていたことがあったが、今思うに、持ち帰ればよかったと後悔している。

この窟跡で植林は終わり、すぐ下から深い掘割が現れる。この掘割には小生が見つけた双子竜の穴がある。当時、は二つの大きな穴が並んで空いていて、10m程下まで覗き見ることができたのだが、今では、一つはほとんど埋まっており、片方もかなり浅い穴となっている。しかし、そこから亀裂が走っており、近づくと、いつ陥没して落ちるかわからないので要注意である。他にも、「クワバラの穴」という窟

地獄のように恐ろしい穴や未発見の穴もあるだろうから、この谷に入る時は、かなりの覚悟が必要である。我々「ミルキーあんばん吟行」の仲間内では、もし誰か穴に落ちたら、一週間に一度、穴にミルキーとあんばんを投げ入れる約束になっている……。

と、とろくさいことを書いているうちに、鞍掛峠に着陸。11時16分であった。国道沿いには、アキチヨウジ・ツユクサが咲いており、アケビの実も落ちていた。これはおサルさんにとっておこう。(平成19年10月7日歩く)

▲参考タイム▼

- コグルミ谷出合 4・20―タテ谷分岐 4・47―長命水 5・10―天ガ平 5・43―ツメタミズ 6・18―幻ノ池 6・28―道池 7・31―北池 7・50―池ノ平 8・26―1182mビーク 8・58―キハダの池 9・47―小竜の穴 10・04―双子竜の穴 10・52―国道 11・16―コグルミ谷出合 11・35

△地形図V2万5千II集立

随想 山のエッセイ

鷹峯・讚州寺

綱本 逸雄

京都市北区鷹峯を訪れた大半の観光客は、世帯村だった光悦寺、吉野大夫ゆかりの常照寺などを見て帰る。だが、光悦寺前の道向西へたどり、急坂をくだると紙屋川の溪谷に出る。ここから歴史街道長坂越(山国路)が始まる。この古道は全国を測量中の伊能忠敬も通った路である。急坂の南側に山腹を大きく迂回して急坂の下に出る小径があるが、これが近世の古道の名残で

ある。このあたりは近世の愛宕郡鷹峯村千束で、アジサイと紅葉の隠れた名所吟松寺、光悦寺より歴史の古い讚州寺がある(いずれも無住)。

讚州寺(本尊地藏菩薩)は大徳寺玉林院末寺。本堂脇の杉の巨木は任彦で、ハインドレベルで計ると樹高40m、幹回り6m、樹齢四百年はくだらない。

讚州寺本堂の軒下に墨跡で縁起を記した額がかかる。翻刻すると次の通りである。

都の北鷹ヶ峯鶏足山讚州禪寺慈珠院本尊延命地藏大

菩薩不動明王多聞天の三尊はむかし大内裏の頃王城守護のために詔を奉りて弘法大師の造り玉ひて都の四方に一体ずつ安置し給ひし尊像也。抑(そもそも)、地藏尊の誓願計り無き中にもことに安産を守りたまふ。故にその頃は女御更衣の御妊身にはかならず御腹帯を奉りしとぞ。されば今も貴き

いやしきをえらばずどう人々にはあたらるるに母子ととも安泰なること世に知る所なり。仍(より)て腹帯の地藏尊と申し奉りけり。

そのかみ(その昔)管領細川讃岐の守頼春朝臣いくさに立ち玉ふとき、この地藏尊に立願し玉ひしに迷いに打ち勝ち給ひ候はば、信心日頃にまして堂舎をおこそかに立そへたまひて、寺

領をよせて開運地藏尊とあがめさてたまふより、讃岐守成之朝臣もふかく信じたまひ堂を再建して西洞院一条にうつしたまひにければその地を今に讚州寺町といへり。

その後竹屋辻子へうつせし故竹屋地藏尊ともよめり。かく代々諸人願ひをこめしに其験(しるし)ありしことあげてかそへがたし。

よりに豊太閤閣及び東照神君に以後先々延ばく(長く)御朱印をたまわり境内山林除地にて諸役ゆるさせたまひしも、まつたく地藏尊の靈験あらたかなる故なり。かかる霊場を市町(市朝)に安置せんは畏れありとて慶安の頃所司代板倉侯宣布(のりふ)していまの千束村にうつし奉りしなり。

穴貫穴畏（あなかしこあなかしこ）

縁起の作成年代が不詳だが、あらずしは以下にみるようにほぼその通りである。

まず細川頼春（1299-1352）は足利尊氏に仕えた侍所頭人（兵部卿）である。侍所はこの時代は軍陣統括や京都市中の警察権・刑事裁判権（検断権）を掌握した。管領細川頼成守とは頼春の長男頼之（1329-1392）・四男頼元（1343-1397）のことである。頼之は管領細川氏の権勢の基礎を確立した。だから縁起の記述だけでは堂の創建が父子どちらか不詳である。

次に頼春の子孫・細川成之護岐守（1434-1511）

1) は嫡子政之（1455-1488）とともに「応仁の乱」（1467-1477）では東軍（細川方）の将だった。「応仁記」に東軍手勢約16万騎のうち「護岐守成之が阿波・三河国を率いて八千余騎」とか、一条大宮猪熊合戦で西軍（山名方）の「寄せ手は勝ちに乘じて護岐守の館へ押し寄せた。この館には淡路の守護和泉守兼光一万余人擁護。雲の寺に火をかけて、村雲に押し渡って百万遍、草堂を焼き攻めた」、岩倉合戦では「東寺より大宮を上ると細川護岐守の陣へ取り入ろうと」などと載る。

この「護岐守の館（または陣）」は上京区西洞院一条下ル讃州寺町周辺にあつた。応仁の乱以前の名所旧跡を記載したとされる「中古京師内外地図」（1750、森幸安）には西洞院一条下ル東側に「讃州陣（陣）館」とある。村雲は一条戻橋付近で、雲の寺はその南東にあつた。讃州寺町西の袖小路通・小川通の一条上ルには現在草堂町、元百万遍町の遺跡地名があり、一帯が兵火にかかって全焼した。ところで、「寛永十四年洛中絵図」（1637）は護岐守の館があつた付近を「さい志やうし（讃州寺町）」と記す。「京町鑑」（1762）は「讃州寺町 此町にいにしへ讃州寺ありし也、後藤峰千束へうつす。今なお讃州寺と呼ぶ。又或人の云此町は細川護岐守政之の旧地なり」。応仁の乱後の

落中を描いた「中昔京師地図」（1753、森幸安）には西洞院正親町下ル西側に「讃州政之」、通りを隔てた東側に「六地藏」を描く。「京都坊日誌」（1915）は「讃州寺の址 蔵珠院と号す本尊地藏尊を安す。始め細河護岐守政之の第なりしを寄付し寺とす」と説明している。ただし、政之が護岐守護職を父から譲られるのは文明十年（1478）の応仁の乱後で、父より早くに33歳で死去している。乱が始まった応仁元年は若干12歳で、「大乗院寺社雜事記」「後法興院政家記」などの史料で応仁・文明初期に登場するのは成之である。従って護岐守の館は成之とみるのが妥当だろう。

慶峯の本堂の縁起に「讃岐守成之も堂を再建して西洞院一条にうつし、その地を今に讃州寺町といへり」と記すのは、これら中・近世の史料・地誌・絵図を反映している。

さらに、讃州寺蔵珠院は本尊が地藏で、中世は「六地藏」巡りの一所とある。

地藏信仰は平安時代貴族の間で広まるが、中世には武士社会にも普及する（速水甫『地藏信仰』、『太平記』巻24に千生寺（地藏堂、本尊地藏菩薩） 細目地藏話がある。足利軍と戦った武蔵国住人が地藏堂に逃げ込んだが、身代りに捕らえられた地藏に綱目の跡がついていたという奇譚がある。足利尊氏は弘法大師作と伝え

る地藏尊を具足櫃の中に入れて守り仏とし、足利家菩提寺・等持院靈光殿に本尊として安置してある。また、尊氏は地藏十万體をつくつた。

管領細川頼之は地藏の大悲を願って地藏院（谷の地藏、西京区山田北ノ町、本尊地藏菩薩）を建立、墓石（細川氏）がある。以後細川家の庇護を受けている。讃岐守政之は文明十一年（1477）壬午地藏堂修理のための勧進興行に来臨（『晴窗帝曆記』）。細川氏も代々地藏を信仰したことが窺える。

この時期、振興地藏霊場の六地藏巡りが広がる。六地藏説話は『今昔物語集』にみられるが、『源平盛衰記』の「西光卒塔婆事」が

よく知られる。西光法師が六道救済の地藏を七ヶ所

（四宮河原、木崎、鳥羽作り道、西七条、蓮台野、みぞろ地、西長木）に安置した。室町時代には、讃州寺も含む六地藏となる。「親長卿記」に「文明七年（1473）六月二十四日誓願寺并讃州陣の地藏蔵珠院等詣る」、「資益王記」「文明十四年（1474）七月二十四日六地藏に参る。所謂西院（高西寺）、壬生（地藏堂）、八田（矢田寺）、屋福草（星光寺）、清和院、蔵珠院正親町西の洞院以上」、「宣胤卿記」「文明十三年（1479）七月三日蔵珠院に詣る」

「永正十八年（1521）三月二十九日六箇所の地藏に参詣。壬生、西院、蔵珠院、矢田、星光寺、清和院」と

みえる。

近世にはたたり・つきものなど治病神創出が山伏によって広められ、延命地藏・腹帯地藏・子育地藏・油掛地藏・しぼられ地藏など多様な地藏が日本各地に生れた（速水甫）。したがって、縁起の冒頭にある腹帯地藏は近世以後の創作である。

讃州寺はやがて竹屋辻子に移り、慶安五年（1653）第二代京都所司代板倉重宗（1586-1656）の命により、大徳寺玉林院第二世祥岳禪師が千束に移したことは縁起にみる通りである。享保年間京都町奉行が作成した「京都御役所向大概覚書」に「大徳寺末寺 愛宕郡慶峯御朱印寺領

五石 千足山遺州寺」とあり、寺地は174坪、寺家二軒で現在の3分1ほどである。縁起の成立年代が不詳だが、変体仮名を使っているのが近世(明治中期頃)であろうか。文字や振り仮名が鮮明で木版刷りの可能性もある。

野莓

鷲見 守康

山を歩く人にとって、野莓といえは、まず木莓が頭に浮かぶだろう。

葉がカエデのように分裂し、春には白く下向きの花をつけ、初夏になれば黄色のつぶつぶの実をつけるモミジイチゴは、中でもポピュラーな木莓で、味もトップクラスの美味しさだといわれている。ただ、モミジイチゴは関東を中心に分布し、関西方面では、葉形が全体に細長いナガバモミジイチゴとなる。

続いて、よく目にするのはニガイチゴかもしれない。モミジイチゴより少し小さ

めの花を上向きに咲かせ、赤い実をつける。ニガイチゴという名は、食したとき、最後に苦味が舌に残ることからの命名といわれているが、十分に甘く、決してまずいわけではない。

他によく目にするといえは、フユイチゴがある。その名のとおり冬に実をつけるのだが、この実も美味しく、森の中に花も実も消えてしまったさびしい季節には、かなり目立つ赤色であり、味もよい。

低山にはただのフユイチゴ、奥山にミヤマフユイチゴ、標高が高くなるとコバノフユイチゴ(マルバフユイチゴ)がある。

以上はいずれもバラ科イチゴ属の樹木(低木)で、他にもクマイチゴ、バライ

チゴ、クナイチゴなど、山を歩くと目にすることが多い。クサイチゴは、その名前から草本と思われがちだが、れっきとした樹木である。

また、アルプスなど登るときには、亜高山帯から高山帯にかけてベニバナイチゴに出会う。花は濃い紅色でなかなかシックであるが、果実はそれほど美味しいとは感じない。

木莓は、英名をラズベリーといい、私たちが日常食用とする栽培の莓(オランダイチゴ)とは少し異なる。栽培の莓はバラ科オランダイチゴ属で、樹木ではなく草本であり、英名は周知のごとくストロベリーである。では、野生のストロベリー

は存在しないのだろうか。時として「ヘビイチゴは食べられますか?」と聞かれることがある。胡散臭い名から当然の疑問ではあるが、実はこのヘビイチゴはストロベリーといってもよいのだ。バラ科の植物にはほとんど毒性がないので、私は「食べられますよ」と答えることにしているが、味は決して美味しいものではない。

しかし、わが国の高山帯や亜高山帯には、栽培の莓にそっくりのノウゴウイチゴとシロバナヘビイチゴがある。

花も実も栽培の莓に比べて全体に小さいが、姿かたちはオランダイチゴそのものである。そして、肝心の味

はといえば、オランダイチゴに勝るとも劣らない美味しさなのである。

ノウゴウイチゴは、能郷白山で発見されたことが名の由来といわれており、花弁が七〜八枚なので、花期には五枚のシロバナヘビイチゴと簡単に区別できる。

二つのうち、ノウゴウイチゴは普通にはそれほど見かけない。これまでの新ハイハイ登山行でも、本場(?)の岐阜県の能郷神社でわずかな株の葉を見かけた程度ではないかと思う。個人的にも北八ヶ岳の天狗岳付近で一度果実に出会ったくらいである。ただ、このとき、数粒の実を口にしてひどく感動した覚えがある。

シロバナヘビイチゴは、2005年の8月、例年山行で南アルプスの聖岳に登ったときに出会った。蒸し暑さのなか、ひたすら長い登りに耐えて聖平にたどり着くと、赤い莓状の果実が草地に転がるように並んでいた。

目を見張るメンバーに「シロバナヘビイチゴです」と説明すると「ええ!ヘビイチゴ?」とひるむ人もいたが、「うまい!うまい!」と私がむさぼり食うものだから、つられるように多くの人も食べ始めた。小粒ながら甘さが凝縮し、何とコンデンスミルクの香りがするのだ。

白花と鮮やかな緑葉、そして極上の果実という取り合わせからすれば、シロバ



シロバナヘビイチゴ(岐阜県)

ナヘビイチゴという名前は、少し気の毒な気もする。「モリイチゴ」という別名があるそうだから、そのように呼んだほうがよいのかもしれない。

白山末端の山を歩く

高尾山

木村太郎

白峰

竹久夢二の歌集「山へよする」に、夢二は歌と共に「里居」と題した小文を載せている。

「加州白山の峯つづき医王山の山合に、湯涌といふ温泉場あり。寂しくはあれど、山のただずまひ雲のゆきかひ、朝夕眺めても飽くことを知らず。枕の下をゆく瀬の音に寝つかれぬ宵々は、更けて小暗き浴室に下り、蟋蟀をききし侘しささへ、いまはなかなか懐しく哀傷かぎりなし。」と述懐している。夢二が朝夕眺めても飽きないという、湯涌温泉場の裏山である高尾山へ足を運んだ。

金沢駅西口から北鉄バスの湯涌温泉行きに乗り、終着地で降りて林道を上

がる。休園中の江戸村、吉次山への回遊路を見送り、白見谷入口を通過する

口もコースになっている。昭和32年に計画された、小松山岳会の白山山系全縦走の起点になったのも高尾山である。

一台の京都ナンバーの車が置いてある登山口から、植林を抜けて雑木林の道を行く。森林浴と自然観察が楽しめるよう、金沢農林事務所が整備した道である。紫色のツリフネソウ、藍色のツユクサ、ハギの花穂やスキの穂も顔を見せ、季節は夏から秋に進み始めている。

加賀福光線の鉄塔に出て、森林の擁擁から解放された頭上に青空が広がる。ホテルで見たテレビの気象情報では、台風9号が通過して数日経つ金沢は、この日曇りのち雨の予報で昼から荒れ模様になるといふ。下山まで天気は持つ

てくれればいいのだが。

苔むした石湿じりの道が深い溝状になり、それを嫌うパイパス道ができている。コナラやミズナラの林のなか、胸弾ませ山道を登る。両腕でも抱えきれないサンカンスキの生命力に驚き、残雪の登山時に目印にする樹木の赤ベシキを追いかける。

前高尾山を指し示した山頂直下の道標を見つめる。山頂を抱いた奥高尾山への道標板も直角に取り付けてある。

山頂に誰か人がいるらしく、何か大声で叫んでいる。私より年齢が一回りほど若そうな男性登山者が、山頂で景色を見渡していた。

小高尾と呼ばれる前高尾山(763.1m)の山頂には、湯涌温泉に向けた



湯涌温泉の林道入口

と林道が行き止まる。吉次山・高尾山・順尾山周辺の歩道案内板が立つ林道終点に、高尾山登山口がある。

湯涌温泉から登る高尾山は、白山山系の末端山頂の役を担い、白山主峰の御前峰まで山稜が続いている。昭和22年に国民体育大会の登山が最初に行われた時、医王山への登山で湯涌温泉

守り地蔵尊の祠がある。三等三角点の正面に医王山、左手にかけて金沢市街さらに遠くに日本海までの展望が開けている。何を目にして登山者が大声で叫んでいたのかわからないが、心を揺さぶられる眺めが展開している。

登山者は京都ナンバーの人で、きのう能登最高峰の一等三角点宝達山に登り、この日高尾山に来たと言う。帰路に湯涌創設の森に立ち寄りたので、奥高尾山で引き返すと話してくれた。

私も礼儀で昨日今日の行動を話した。昨日は大聖寺城跡の錦城山を散策し、深田久弥山の文化館に立ち寄ったこと。湯涌温泉に宿泊を希望して、老舗の山下旅館に当日電話したが断られたこと。そのため金沢駅のビジネスホテルに泊まり、金沢駅発の路線バスで湯涌に来たことなどを説明した。

ホテルの宿泊料を聞かれ、6000円したと答えると、宝達山麓の小旅館に宿泊したが二食付きで6300円だったと言う。旅慣れた感じの現役社会人で、週末を利用して各地を歩いている



前高尾山からの医王山

ようだった。名前も年齢も聞かないままに、その人は出発した。

山頂での記念写真を撮り、尾根伝いに下りだすと捲き道に合流。急降下する途中で、奥高尾山の形良い山容を目にする。東の端だけの水平道が登りに転じ、直登ではなく左面に廻り込み登

高していけば、頭上に美しいブナが広がり全身を包みこむ。

きのう江沼神社で目にした、深田久弥碑文「何の俘のわが心」の心地であった。奥高尾山直下のブナは序章でしかすぎない。山頂を日尾池方面へ少しく行った所に、ブナ平と呼ぶ見事なブナ林があるという。吉次山には変形ブナが山頂の中心を占めているという。

ブナ林を登りつめれば、大高尾と呼ばれる奥高尾山(841m)の標識があり、先に着いた京都の登山者が休んでいた。吉次山と順尾山の分岐を知らせて、その人はザックを置いたまま山道へ消えた。奥高尾山で引き返すと言っていたのに、往復30分で行けるブナ平へ足を運んだのか戻ってこなかった。

天気予報は外れそうになく、一気に暗雲が立ち始めた。山の天候は変わりやすく、暗雲に追われるように下山にかかる。沢川源流の山々や白山上部が望める吉次山へ無理に縦走するよりも、時間が余れば湯涌温泉で汗を流すほうが無難のように考えた。

草よりかろくよりそへるもの

(歌集「山へよする」より)

木の実は戸籍上妻である他万喜のイメージであろうか。草花よりかろやかなもの。この日歩いた山で見た、ツユクサの可憐さに彦乃の面影を思うのは、旅人の独りよがりの感傷でしかないのだろうか。

湯涌温泉南方の高尾山や順尾山、北方の医王山は浅野川の水源を成している。泉鏡花原作の「義血侠血」を舞台にした、新派「滝の白糸」の天神橋の出会いの名場面は、湯涌温泉をとり囲む山々より流れる水が演出していたといえる。金沢の町を流れ、金沢の海に注ぐ浅野川は、金沢の外へ出ることのない金沢だけの川であり、金沢城下から五里山奥湯涌の地を母体としていたのである。

夢二と彦乃を湯涌温泉に世話したのは、金沢の北国新聞社にいた歌人の西出朝風である。樺本滋民の小説「夢

金沢の奥座敷といわれる湯涌温泉は、竹久夢二と恋人笠井彦乃がロマンスを紡いだ地である。大正六年9月から10月にかけての20日間程の日々、湯涌温泉場の山下旅館に逗留し、山あいの鄙びた里中で、夢二が生産で最も幸福な時を過ごしたといわれている。

新進画家夢二と面学生彦乃は、湯涌で愛のスケッチを描いていた。彦乃の父から交際を禁じられていた夢二と彦乃は、互いを「山」と「川」の暗号で呼び合い手紙をやりとりしていた。それ以降「山」は恋人の彦乃を表す言葉になったという。

初めて絵草紙店の港屋で出会い、恋の月日を重ね、父の手で2人の仲が割かれ、彦乃が肺結核で亡くなるまで、短くも忘れぬ歳月を過ごした。夢二は彦乃への思いを歌集「山へよせる」にまとめたのである。

竹久夢二「山へよする」には、湯涌温泉で詠まれた「里居」13首も収めており、すべて夢二と彦乃の愛の記録といえる。歌集の後記には、「千九百十

四年十月より千九百十八年十二月まで五年間に渉る「江沼」と「江沼」との恋の記述である。また彼等の愛の祈りである。」と読者にメッセージを伝えている。

高尾山を登り終え、湯涌温泉に下りてきて白鷺の湯に入る前、薬師寺境内にある竹久夢二歌碑に立ち寄る。薬師寺には湯涌温泉開湯の祖藤澄大師作の薬師如来を祀る。歌碑の横には水室小屋があり、夢二と彦乃が歩いたという散策道が、寺の後ろに続いている。湯涌なる山ふところの小春日に

眼閉ぢ死なむときみのいふなり

(歌集「山へよする」より)

夢二と彦乃の踏みあう愛のことは、大正から平成の世界によみがえる。竹久夢二の画と歌がある限りは、夢二の名は生き続けるであろう。夢二式美人画の「細面で腫が円らな愛いをたたえた女人像」、夢二が理想とした女性が今の世にいななくなつたとしても、木の実よりなほあたらしく若き野の

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのザックです。


★26L★

- ・カラー ブルー×ネイビー・レッド×ネイビー・ワイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
- ・重さ 22kg
- ・素材 ナイロン・リップ
- ・価格 ￥14,500

イモック山行くらぶ

春夏秋冬、季節を気にせず、泰山・高尾山・名山を歩かれます。お気軽に御参加下さい。

詳細はお問い合わせ下さい



IMOCK.

KOBÉ

〒650-0038 神戸市東灘区日高町5丁目1番20号
カナソ/ビル2F

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

営業時間：10:00～20:00 日曜日不可



薬師寺の竹久夢二歌碑

「恋歌」に描かれた物語では、湯涌温泉の長逗留に飽きた夢二がある日、朝風の誘いで温泉場から裏山に登山する話が挿入されている。

実は竹久夢二はかなりの山好きで、妻の他万喜と共に富士山へも登っている。朝風の腕時計に付いた磁石と、当時の参謀本部地図を携えて、夢二逆

は探検と称した山登りに出かけた。けれども不案内の山のため道を見失い、やっとの思いで谷に下り、彦乃の待つ山下旅館に帰り着いている。

夢二が登ったのは高尾山だろうが、かなり長い時間2人が山路を迷走したので、湯涌からよほど離れた土地に出たと思い込んだ。出会った老人に湯涌温泉への距離を尋ねたが、いまいる場所が湯涌との答えを聞かされるという、笑えぬ表話が描かれている。

竹久夢二は後年「秘薬紫雪」という小説を書いている。夢二をモデルにした立花と彦乃をモデルにした雪野の恋物語である。小説のラストシーンに、湯涌温泉で愛を誓い合うという場面がある。夢二にとって、湯涌温泉は忘れない特別な場所だったのであろう。

養老二年の昔、白鷺が飛び立った跡に泉源が湧いていた湯涌温泉、320円の低料金で白鷺の湯という温泉総湯で汗を流した。温泉から上がると、表は本降りの雨である。座敷になった休

憩室の机を借りて、格子窓の雨を眺めながら遅いお昼弁当を開いた。

携帯時刻表を取り出し、北陸本線の電車を調べるが、乗り継ぎに合う北鉄バスに時間が少しある。温泉場の隣にある施設、金沢湯涌夢二館の目撃に預った。流行歌になった「宵待草」の歌詞と、草原に坐った横顔の女性がスクリーンに映し出されている。

細面で腫が円らな愛いをたたえた、夢二の美人画が館内にあふれている。夢二の画を見て廻り、高尾山の野に咲いていたツエクスサを、またもや私は思い出していた。

(平成19年9月9日歩く)

△コースタイム▽
JR金沢駅西口(北鉄バス45分) 湯涌温泉バス停(50分) 登山口(1時間10分) 前高尾山(40分) 奥高尾山(40分) 前高尾山分岐(55分) 登山口(45分) 湯涌温泉バス停(5分) 薬師寺・温泉総湯(5分) 湯涌温泉バス停
△地形図▽2万5千≡湯涌・鶴来

紀行

残雪の山を歩く

奥三方岳 おく さん ぼう だけ

山田明男

白山

10年程前の10月、初めて三方崩山に行ったが、名前に恐れをなしてか訪れる人の少ない静かな山だった。その名の通り、三方が崩れた姿は荒々しいが、黄色のカラマツやダケカンバがきれいだったことをはっきりと覚えている。

山頂から見えてさらに奥にも山があり、奥三方岳だと知った。登山道は無いようで、きれいなササを分けて行くにはさらに2時間以上かかりそうで、とても行く気にはならなかった。しかし行ってみたい気持ちが芽生えた。行くからには残雪期でないと無理だろう。三方崩山にはその後、三回行った。6月が二回と10月が一回だが、何度行ってもきつい。しかし良い山だった。

奥三方岳山頂 (後方は白山)



残雪期の4月末、時間が空いて奥三方岳へ行けそうなので、10人程に声をかけ、12人で行くことになった。土曜のみ日帰りの人がさらに5人増え、その日は白川村の大窪池周辺を散策した。



三方前山から奥三方岳(右上) 一滑り降りた筋がよく見える—

木の上の雪にのれば下
が崩れて埋まる。ゆっ
くりと登るので夏より
も時間がかかった。山
形さんは2030m峰
の一つ手前で残された。
そこは奥三方岳の山頂
がよく見える場所だ。
11時半には三方前山
の手前に到着。そこか
ら西に向かえば雪の斜
面でどんどんくだれる。
私はカッパを着込んで
いて遅れたが、先頭は
もう下に着きそうだった。
た。お尻で滑ると最初
はよく滑ったが、だん
だんスピードが遅くなっ
て止まりそうになった。
奥三方岳側の斜面の南
側は雪崩でいて登れな
い。残った雪の斜面を
ゆっくりと登るが、ま
た足が攀りそうになり

トがはっきりしなくなる。夏道も崩れ
がちな所で、ゼレンソウが生えている
のを知っている場所だったから、尾根
に向かおうと行ってみると、固有林の
境界線が現れた。御料局の杭も一本あ
る。テープと杭がある歩きやすい尾根
で、イワウチワが多いが急傾斜だ。傾
斜がゆるんだ所は登山道だった。
その先は土の出た所と雪が交互に出
てくるが、ルートははっきりわかる。
1244m(？)の四等三角点でも休
憩。この先1624mまでは急な登り
となるが、急だから高度は稼げる。30
分程でガレの1624mに到着。三方
前山の山頂がよく見える。朝方はガス
っていたが、だんだん晴れてきて天気は
問題ないようだ。
2030mまでのやせ尾根もよく見
えるが、雪がのっぺりして、行けるかど
うかは近くまで行かないとわからない。
雪が斜面からずり落ちてクレバスになっ
ている所もあるようで、慎重と大変だ。
慎重にルートを選んで登って行く。岩
の出た所もあり、そこは岩の上を歩く。
薬を飲んだ。今日二度目だ。
三方前山から1000m下りて1500
m登る感じで、いつの間にか三方前山
より高くなった。ピークに行けば方向
を右に変え、今度は少し下り気味に北
に移動し、最後の登り50m程で奥三方
岳山頂だ。山頂のすぐ下は窪みになっ
ている。もしかしたら池になっている
のかも知れない。
奥三方岳山頂は360度見晴らしが
あり、西には白山が目だ。雪はイ
ンターネットの写真よりも今年は2、
3日は多い感じだった。インターネッ
トの写真が撮られたのは昨年の5月12
日、今年より2週間は遅いから少ない
のか？ 皆も標識を入れて白山をパッ
クに写している。白山山頂は雲に隠れ
ていたが、5分程全体が現れてくれた。
風も無く絶好の天気といひ、今日は皆
さん運が良かった。私はここでフィル
ムを入れ替えたが、家に帰ってみると
そのフィルムが無い。山頂に忘れたよ
うだ。大失敗、大窪池の写真も無くなっ
たので人から分けてもらおう。



大窪池には初めて行ったがとてもよい
場所、時期もよくミズバショウとカ
タクリが多く見られた。
泊まりは木谷の民宿にした。今回で
二度目、食事もおいしくおかみさんが
とても良い人で、何度も来る人が多い
そうだ。今回は来られないと言ってい
た「くまさん」も飛び入りで来られ、
13人になった。
朝の食事が予定より早く出来、早目
に宿を出発した。平瀬温泉の少し上の
林道に車を止めた。登山口まで車で入
れたらよいのだが、四輪駆動車でない
と道が荒れているし急なので無理だ。
登山口の林道終点には30分まで到着。導
水トンネルからと雪渓の横から多量の
水が流れている。すぐ上から200m
程に雪渓が残っている。
心配される雪だったがすぐに雪も無
くなり、尾根に出るとイワウチワが咲
いていた。ここの花もトクワソウだ
ろうか？ 宿の写真帳にはトクワソウ
とあった。休憩後、尾根の北側をト
ラバース気味に行くが残雪が多く、ルー

トがはっきりしなくなる。夏道も崩れ
がちな所で、ゼレンソウが生えている
のを知っている場所だったから、尾根
に向かおうと行ってみると、固有林の
境界線が現れた。御料局の杭も一本あ
る。テープと杭がある歩きやすい尾根
で、イワウチワが多いが急傾斜だ。傾
斜がゆるんだ所は登山道だった。
その先は土の出た所と雪が交互に出
てくるが、ルートははっきりわかる。
1244m(？)の四等三角点でも休
憩。この先1624mまでは急な登り
となるが、急だから高度は稼げる。30
分程でガレの1624mに到着。三方
前山の山頂がよく見える。朝方はガス
っていたが、だんだん晴れてきて天気は
問題ないようだ。
2030mまでのやせ尾根もよく見
えるが、雪がのっぺりして、行けるかど
うかは近くまで行かないとわからない。
雪が斜面からずり落ちてクレバスになっ
ている所もあるようで、慎重と大変だ。
慎重にルートを選んで登って行く。岩
の出た所もあり、そこは岩の上を歩く。

高山病対策& 高所登山に! 低酸素室

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高峰を目指している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



高所ツアーも経験豊富なアミューズトラベルにお任せ下さい!

- アフリカ大陸最高峰キリマンジャロ(5895m)登頂
- チベットからネパールへ、エベレストBC(5150m)
- ネパール ゴーキョピーク(5360m)トレッキング
- ネパール カラパタール(5545m)トレッキング
- ネパール パラクピーク登頂(4618m)と世界最高所山岳ホテル
- ペルー インカ道(4200m)トレッキング
- バブアニューギニア最高峰 ウィルヘルム山(4509m)登頂
- マレーシア最高峰 キナバル山(4095m)登頂 等々

まずカタログをご請求下さい!

見ごたえたっぷりの国内・海外の山旅と自然観察の旅、計500コース以上を掲載した総合カタログ。ハイキングから海外の高峰登山ツアーまで幅広い商品を揃えています。見るだけで楽しいオールカラー152ページのボリューム。そして、これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のための、山歩き教室カタログもあります。送料・本体ともに無料でお届けしております。どうぞお気軽にご請求ください。



お電話
おはがき
FAX・HP
にて

**送料・本体共に無料です。
お気軽にご請求下さい!**

大好きな自然の中で働いてみませんか!

山岳添乗員・山岳ガイド大募集

山岳専門旅行社アミューズトラベルでは登山の繁忙期に向けてツアーのお手頃いをしてくれる方を募集しています。自分のペースで、大好きな山の中で働いてみませんか?興味をお持ちの方は一度お問合せください。

アミューズトラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amtcso@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX **06-6456-3377**



三方崩山付近の残雪

てくだる人も半数いた。全く安全な場所には滑ればよいのと思うのだが、慣れた人は滑るのと同じく速い速度でくだって行けるから、滑らなくても何の問題もない。

三方崩山の西斜面は先ほどの三倍はある大斜面。ここも適当に滑ってくだるが、途中で雪の中にクラックが見え、急ブレーキをかけて止めた。止めずにくだった人もいたが、バウンドしただけで問題はなかった。

三方崩山側の斜面を登れば、今日の登りはほぼ終わり。三方崩山の山頂に行っていない人が4人いて、3人が山頂へ向かった。残りの1人は奥三方岳

20分程休憩して下山にかかり、まず50斤を尻で降り降りる。適当に滑り、後に何人も続くが、歩い

に行けたからもう満足したそうで、疲れたので行かなくてもよいそうだ。ゆっくり歩いて山形さんと合流し、3人を待つ。我々が滑って降りる所も見えたそうだ。3人が後ろに見えてから、ゆっくりとくだって行く。

急な尾根なので滑落しないように慎重にくだる。1時間程かけて1624までくだって休む。この先の斜面は尻で滑ってくだった。登りでは最後尾の三井さんも、下りでは特急だった。朝方登った尾根の所でいったん谷に向かって行くが道がはっきりしない、また登って尾根をくだった。

イワウチワは朝方よりも多く咲いていた。朝も休んだ尾根の取付で休んで最後の雪渓をくだれば林道に出た。車まではさらに20分。

コーヒータイトと替替えを済ませ帰途につく。車の後部席では酒盛りをする人がいたが、それもよし。昔なかなか行けない山に行けて気分は良かった。これまで雪の山はあまり多く行って

ないが、今年行った梨ヶ岳のほか、笈ヶ岳・毛勝山・野伏ヶ岳・御前岳・日永岳が残雪時に行った山になる。今回の奥三方岳が、これまでで一番危険な山だったのではないだろうか。雪の状態が良かった証拠にアイゼンは誰も使わなかったが、もし使えば着脱に手間どる時間はおそらくなかっただろう。天候に恵まれ雪に恵まれ、無事行けたことに感謝。

(平成20年4月27日歩く)

- △コースタイム▽
- 駐車地点(30分) 林道終点登山口(30分) 尾根(30分) 尾根(冬道1時間)
- 三角点(50分) 1624地点(1時間10分) 2030尾根ピーク(50分)
- 奥三方岳(40分) 2030尾根ピーク(50分)
- 1624地点(30分) 三角点(30分) 尾根(20分) 林道終点登山口(20分) 駐車地点
- △地形図▽
- 2万5千1新岩間温泉・平瀬・白山・御母衣

新ハイ関西102号
標高△△02mの山

蛇谷ヶ峰 (902m 比良山脈)
妙理山 (902m 湖北)
白山 (2702m 白山)

蛇谷ヶ峰

初めて蛇谷ヶ峰へ登った25年前、畑からボボフダ峠経由で登り、朽木スキー場側へ下山した。スキー場近くのゆるやかな斜面になった所の源流圏界だけがピンポイントの記憶として残っている。四半世紀を経た今年5月、ずっと気になっていた西尾根の、天狗の森のシャクナゲと地図に記載された場所へ行きたくなって、単独で出かけた。実は2年前にスキーでこの西尾根を往復したのだが、積雪期の山は全く違

う表情なので、新鮮な気持ちで登ることができた。実際に歩いてみると、西側からの木峰の登りや天狗の森などの西尾根のコースよりも、過去に二度も歩いて知っているはずのボボフダ峠へ下山する道で、752を通過して右に横谷三ノ谷が近付いてくるあたりの樹林の佇まいと源流の風情に、今回の山行の最大の見所を見つけた。三ノ谷に下りて、しばらく落ち葉の中から流れ出る水の音に耳を傾けたりしながら、道に迷ったような気分が適したのが良かったのかもしれない。(平成20年5月12日歩く)

妙理山

△コースタイム▽
栗野橋バス停(3時間) 蛇谷ヶ峰(2時間30分) ボボフダ峠経由風谷バス停
△地図▽昭文社「比良山系」

2万5千の地形図「中河内」を広げると、大黒山、安藤山と9000級の山があり、その二山を結んだ線を逆三角形の上辺としたら、あとひとつの角の部分に名前の記載されていないやはり9000級の山がある。妙理山だ。その東にもう一つ三角点があり、東妙理山と名づけている。

二つの三角点はほぼ東西に並んでいるから、その北斜面と南斜面の4月の景色は全く違うのだ。私は単独で南アルプスを中心に深く山に通っていたつもりだったが、これ程までに自然に対して衝撃的な驚きの記憶は、他にない。須藤さんに連れてもらって4人の会山行で出かけた。洞寺院から妙理川沿いを歩き始める。道といえるものは無



妙理山付近略図



カヤ谷

白山

まで登ると雪は消え始め、最後の急斜面は草の根をつかんでの直登だった。すると、前方に雪壁が忽然と現れた。身の丈ほどの雪壁だ。キックステップで這いずり上がると、そこには冬景色が広がっていた。一面の深い雪の中に冬枯れた木々が重なり立ち並んでいた。近郊の山に、アルプスとは違った山の魅力を見出した瞬間だった。

下山は妙理山山頂の東南の尾根開曲点からそのまま妙理川本流へダイレクトで落ちている急な尾根をくだった。道の無い春の尾根の楽しさも味わった。もう20年も前の山行だが、アルプスの山に引けを取らない印象深い山行だった。(昭和63年4月3日歩く)

△コースタイム▽
洞寺院(4時間) 妙理山(3時間) 洞寺院
△地形図▽2万5千「中河内」

白山

白山の御前峰には四回登っているが、四回目の今回の登頂はおまけだった。東側の大倉尾根の大倉山避難小屋に泊まって、大倉尾根の紅雲を堪能しようというのが山行目的だった。

時高さんがリーダーで3人で出かけた。天気が良く、ダケカンパを前景に白山の秋の姿が美しかった。写真がいっぱい撮れたので大満足した。

避難小屋には午前中に着いたから、昼食後微気分で山頂方向へ歩き出した。天気が崩れそうだったら空腹になりそうだったら、いつでも引き返そうという気分だった。

そんな気楽な気分でもぞろ歩いていくと、山頂は近かった。(平成15年10月4日〜5日歩く)

△コースタイム▽
大倉山避難小屋(3時間) 大倉山避難小屋(3時間50分) 白山往復・大倉山避難小屋(2時間15分) 大倉山避難小屋
△地図▽昭文社「白山」

歴史の峠路をたどり、富士山展望の山へ

御坂峠から御坂山・黒岳

関東

山形 明

河口湖の北方、御坂山と黒岳の中間最低鞍部が標高1520mの御坂峠である。かつてこの峠を富士山北麓と甲府盆地を結ぶ、重要交通路として栄えた鎌倉往還が越えており、今でも石畳の残るこの峠路を訪ねてみた。

甲府盆地から南アルプスや八ヶ岳は見えるが、富士山は御坂山塊に隔てられて見えない。甲府側から登り御坂峠に立ったとき、前面に富士山がパッと現れ、感動も大きいのはと、御坂町側から登った。国道137号線の新御坂トンネル手前に藤野木バス停があり、山側に空地があるので車を止める。狭い林道の入口があり、右手に御坂城のいわれを記した看板が立っている。

御坂峠から御坂山途中の岩場より富士山



いきなり急な林道の坂道をしばらく行くと、オオバボダイジュが立っている。わが匡のオオバボダイジュ生育の南限に当たり、植物分布上極めて貴重だとの説明版がある。

林道終点近くになると左に分かれる二股になるが、案内板は何も無い。直進してみると奥に砂防ダムがあり、そ

の先に道は無い。左へ行き川を右に渡ると、先に荒れた林道が続いている。左岸に付けられた林道だが、流された砂や流木が堆積していてひどい荒れようだ。川の中を歩くがそれもままならず、左の斜面を登るが取付点の見当がつかない。

やぶの斜面を登って行くと細い跡跡が現れ、それを最後の堰堤の上まで行くと幅の広い道に出た。堰堤から下の鎌倉往還は堰堤工事で壊されてしまっ

たようだ。

10分程行くと行者平に着く。役ノ行者が修行した跡との言い伝えがあり、大きな岩の上に石仏が三体あるが、一体は破壊されている。やがて山の斜面をジグザグに登るようになり、雨水で波打っている路面の土には靴跡も無く、誰も歩いていないようだ。御坂峠と黒岳には大勢いたが、峠までは誰にも会わなかった。

峠は樹林のなかで、期待していた富士山の展望は無かった。峠周辺には戦国時代北條氏が築造したという山城跡が東西700m南北500mにもわたって発見された。城跡は峠より50m高い尾根上であり、日本の山城の中では最高所だそうだ。峠には御坂茶屋があるが日曜にもかかわらず閉まっている。

峠から稜線を東へたどり、軽いアップダウンを繰り返すと御坂山山頂。途中、露岩の所からは富士山がスベラシイ。山頂は平地地で樹林のなか、近くの三ツ峠山を垣間見るだけ。標識が無ければ通り過ぎてしまいうような所に三

等三角点がある。

峠まで戻り、茶屋横から標高差270m程の黒岳へ登る。崩れかけた避難小屋の脇を過ぎると、その先が一等三角点のある小高い黒岳山頂。「山梨百名山」の標柱が立つ樹林のなかでも展望は無い。

南へ200mばかり稜線を行くと岩場があり、河口湖向こうの富士山と真正面に対峙できるが、あいにく富士山だけが雲のなかだった。

富士山を見てやろうと近辺の山々を登っているが、高見の富士山もなかなか思うようにならない。右に目をやると、十二ヶ岳・鈴ヶ岳周辺がひと塊りになって見える。次はあの山からしよう。(平成20年6月1日歩く)

△コースタイム▽

藤野木林道入口(40分) 林道終点(1時間) 御坂峠(35分) 御坂山(30分) 御坂峠(40分) 黒岳(35分) 御坂峠(1時間20分) 藤野木林道入口
△地形図▽2万5千・河口湖東部



八丁平でテント泊

峰床山から皆子山

鳥田浩一郎

京都北山

森本次男氏の「北山日記」春に、「五月明るい新緑、山の羊、鳥の唄」という一節がある。よし、京都北山に久々にテントを張って1泊か2泊し、のんびりとしてこようと思ひ立ち、相棒の、仙人こと杉村晶孝君を誘った。

そこで宿泊コースをいろいろと検討してみた。麓村八丁から八丁川をくだって周山まで抜けるか、由良川源流を彷徨してみようか。高原の湿原もいいな、ということになって、八丁平をめぐる小さな山旅に決めた。

大悲山口で京都バスを降り、寺谷川沿いの道を峰定寺方面へ。山坂が満開

で新緑によく映える。杉村仙人は「なぜか大いに悲しげな山だな」としきりにひとりつぶやいている。

やがてナメラ谷に入り野鳥の森への分岐点を確認し、依坂峠への急坂を登る。ここは黙々と登るしかない。時々休憩で立ち止まり、日常のストレスを発散するべく虫声を張り上げる。すると、思いがけず、こだまがはつきりと返ってきた。重心に返ってヤッホーと何度も繰り返した。杉村仙人は何かに激かれたかのように言葉にならない何かを叫び喚いでいる。時折「ありがとう、ありがとう」と喚んでいるらしいのが聞き取れるのだが、いったい何がありがたいのか意味不明である。きつと心に何かあるのだろうか。



八丁平でテント泊

40分程してようやく峠手前の林道に飛び出した。依坂峠まではそこからすぐだ。一服燻らす。峠から尾根道に出ると、二ノ谷方面から風が吹いてきて少し肌寒くなってきたので、長袖のシャツを羽織った。

30分程歩くと、明るく開けた峰床山とクラガリ谷への分岐点に到着。峰床山へはそこから約10分。

峰床山は970m、皆子山(971m)に次ぐ京都府で二番目に高い頂である。コーヒーを飲み、ゆっくりしてから、もと来た道を引き返し、クラガリ谷をくだる。

少しくだるとチヨロチヨコと谷川の水音が聞こえてきた。やがて、八丁平の最上部に達し、気持ちのよい原に出た。疎林の間を細流が自由に蛇行しながら流れている。ササは思いのほか疎らで、テントサイトになりうる場所がいっぱいある。付近で一番カラッと乾いた場所をキャンプすべくテントを取り出し、ポールを組み立てようとしたらちょうどその時、ふと人の気配を感じ

依坂峠直下



にひとりつぶやいている。川からは清流にしか棲まないといわれるカジカ蛙のコロコロルルといった美しい鳴き声が聞こえる。20分程で大悲山峰定寺に着いた。この寺は1154年に大峰熊野の三瀬上大観空によって創建された古刹。鳥羽法皇も帰依されたという。

た。登山道の方を振り向くと、男女2人のデイバックを背負った登山者が静かに下の方から歩いてきた。

我々は特に気にすることなくテントを張り続けていると、すぐに2人共上の道から引き返してきて、男性が我々の方へ近づいてきた。見ると高輪の知的な顔立ちの髯とされた方である。「こんなところへテントを張れるなんて夢みたいだ」と突然話しかけてきた。なぜか私は悪いことをしているのを見つかった子供のようになり、おじいさんに叱られたような気がして、意味がわからず呆然としてしまった。杉村仙人が「どういうことですか?」と聞き返すと、その訳を話してくれた。

「かつて、といってもごく最近までは、このあたりはササが鬱蒼としたブッシュで、とてもテントなど張れたものではなかった。それが近年、雪解け時に鹿がササの若芽を食べてしまふようになり、ササがこのように疎らになってしまったのです」

この方は毎月のように八丁平に来ら

山の本歳時記

大森久雄著 四六判 二二〇〇円

日本の山は季節の彩りが豊かです。本書はそうした豊かな山の世界を描く「山の本」からその一文を選びだし、著者の軽妙活潑な語り口と写真(新妻重永撮影)で、新しい山の姿を伝えるものです。季節の山と山の本を一枚同時に初めて結んだ珠玉の書です。

新刊

ロープレスキュー技術

日本ロープレスキュー協会代表 堤 信夫 著

A5判 二二六頁 二二〇〇円

救助・防災関係者、登山家、アウトドア関係者のほか、仕事でロープを使う人たちのために、現場で使える、スキュー技術を、図解イラスト(七〇〇余点)入りで、その手順や方法を詳しく解説。救助・防災の必携書。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 平606-8161

れているとのことであったが、我々が時刻も16時を回っているので無事下山できるかと心配すると、暗闇でも歩いて帰れる勝手知ったる道、心配するなどのことであった。同行の女性は娘さんで「お父さん、下で待ってるから」と少し怒ったように言い残し、先に下山された。男性はさらに、「最近は大の山岳部も部員が集まらずに人くしいか入らなくなりました。若い人は登山をきつい、きたない、臭いと敬遠するようだなあ」と歎いておられた。

元大学の先生かもしれない。我々は疲れていて早くテントで横になりたかったので、話を切り上げさせてもらい、

夕食の支度に取りかかった。高齢の男性は少し寂しげな表情で「大いに人生を楽しんでください」と言い残し、確かな足取りで立ち去った。何か遠い昔の青春時代に思いを巡らせているような後姿だった。

さて、いつもの寄せ鍋と、今回は京都らしく身欠きにしんを持ってきたので網であぶって、香ばしい煙を吸い込みながらハフハフいわせて胃袋を満たした。日本酒二合。このひとときこそ山での楽しみだ。仙人はいつものように、清冽な山の水でインスタントコーヒを溶かして飲んでいる。

翌朝も晴れ上がり、小鳥の囀りと

らしい。標高は700mを超えている。民家は積雪対策の大きな三角屋根の造りであり、土蔵もある。また難れに薪炊きの風呂小屋があり小さい煙突がよっきりと突き出ている。側にモン

ペ姿のお婆さんがいて我々に丁寧に挨拶をしてくれた。尾越は周りを山々に囲まれ、町に出るには前坂峠を越えて行かねばならない雪深い村。電気も車も無い頃の生活の厳しさが思い浮かぶ。前坂峠を越えて大見の集落へ。ここで40歳位の2人連れに話しかけられた。

「八丁平にササは茂ってましたか? 花は咲いていましたか?」と聞かれたので昨夜の先生の受け売りで、「鹿が雪解け時に若芽を食べてしまったのでササ減少し、テントが広々と張れる夢みたいな状況になっています。花はまだ季節が早いみたいであまり咲いていませんでした」。するとその方は「そうでしたか、かつては八丁平に同志社大の山小屋がありよく通ったものですが……。今は同志社の小屋は廃村八丁に移設し

ましたか……」と言われた。今日は蜜蜂の観察に2人連れで大見へ訪れたとのこと。大見あたりでも鹿のみならず、熊まで出没することがあると言ふ。我々が皆子山へ皆子谷から登ると言う、登り口の日ノ子という所まで軽四で送ってあげると言ってくれたが、「歩くのが目的ですから」と、もう一方が言ってくれた。

大見川沿いを約40分程歩いて日ノ子に着いた。いわれのわからない地名である。ここで大見川は百井川と合流し、さらに下流行くと安曇川と名前を変え、京都修道院村の建物と、釣堀を過ぎたあたりから、林道は本格的な山道となってくる。やがて皆子谷の入口に到着。いよいよ皆子谷の溯行だ。すぐに谷を右から左、左から右と渡渉を繰り返す。テープの目印はあるが道は無いも同然で、まさに沢登りであるが特に困難な滝も無く、枝谷に入り込まないようにコンパスで確認しながら進めば大丈夫だ。広い谷で、大峰弥山川の最源流部のなだらかな進行を思



峰床山・皆子山付近図



皆子谷源頭のコピー場

わせる。しばらく行くと、天を突くような大きな杉の木があり、そこで小休止する。

やがて、谷も狭まってきたかと思うと、右手の急斜面にフイックスロープが見えた。これはかなり厳しそうだが他に道が無さそうなのでロープに取り付いた。ぐいぐいと高度を増し、下を見るとかなりの高度感だ。滑ると谷底まで落ちることになるので慎重に三点確保しながら登る。約10分程でロープは終わり、疎林の急斜面になった。しかし、踏跡らしきものは無く、日印の赤いテープも見当たらない。とにかく木の根っ子や枝を力任せにつかんで尾根までがむしゃらに登る。足場を確保できる所で何度も小刻みに小休止を繰

り返しながらい上がる。やがてブッシュの尾根へヘトヘトになってたどり着いた。

帰宅してから別の地図を見ると、我がが登った皆子谷ルートはサブルートで、皆子山頂上直下に至る道が別であり、それが本道であった。ブッシュの尾根をひと息つきながら忠実にたどると、やがて寺谷からの道に合流し、すぐに皆子山の頂上に着いた。皆子谷入口から休憩を含めて約2時間かかった。頂上からは東に比良連峰が眼前に見える。この山は標高のわりに登るのに骨の折れる山だった。

下山は寺谷をとった。皆子谷より谷の幅が狭く、疲れてきたのでどこかでキャンプしようかと思っていたが、適地が無く、やがて、轟々と流れる百井川の木橋を渡り、寺谷合合に到着した。平バス停まで約40分かけてポテポテ歩き、かたわらのワラビやゴジミを眺めつつ、春のひとときをゆったりとした気分でもて過ごした。

17時31分発出町柳行きの京都バスま

で時間があるので、バス停近くの「そまの家」という山産品・酒・山菜を売っている店で、缶ビールと八朔柑をゲットし、百井川のほとりで喉を潤し、業しかった2日間を語り合った。
GW連休の最中なのに、この山旅で出会ったのは、文中に記した5名の方の他には山菜採りの夫婦のみで、いささか信じられない思いであった。
(平成20年5月1〜2日歩く)

▲コースタイム▼

大悲山口バス停(2時間10分) 儀坂峠(40分) 峰床山(20分) 八丁平(50分) 二ノ谷管理舎(1時間20分) 大見(1時間10分) 皆子谷登山口(1時間40分) 皆子山(1時間10分) 寺谷合合(30分) 平バス停

△地形図▽2万5千1:1花着

(問い合わせ先)

京都バス運輸部営業課

☎075(871)7521

紀行

黒谷から滝谷越、滝谷の頭を経て蛇谷ヶ峰

滝谷越直交尾根ルート

比良

小山 誠次

今回の山行は、本誌97号「地蔵峠・横谷峠・荒谷峠・滝谷越」で、滝谷越の頂上に到達したとき、「今たどっている滝谷越と直角に歩く尾根ルートもおもしろいな」と考えた着想を実行に移すべく、計画したものである。しかし、実は本日は二回目の挑戦である。初回時はピーク473で進路を見失ったのだった。

平成19年11月25日は前日の天気予報によれば、近畿地方の降水確率は滋賀県南部で午後10%となっている以外、午前・午後共全で0%である。滋賀県北部では最高/最低気温は15/3で、

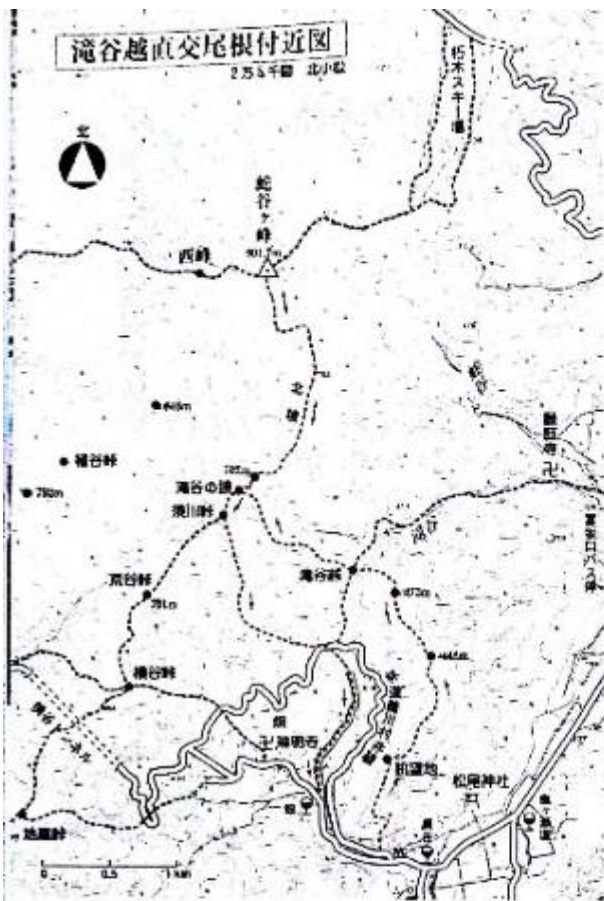
北西の風が吹き、晴れとの予報を得た。当日朝になると、滋賀県南部の午後の降水確率も0%となり、本日近畿地方全域が晴れである。しかし、残念ながら滋賀県には本日濃霧注意報が発令さ

(写真1) 朝霧のかかった尾根の末端



れている。

京都駅を15分発出町柳行き湖西レジャー号の車窓からは、いつもおごと温泉駅辺りから見始める比良山系が全く視認できない。和重駅辺りで辛うじて破線がわかる程度で、蓬萊山から打見山の山頂の人工構造物が幾分白く輝いている。しかし、それも東の間、再び霧



気分もいい。
この尾根上はどういう訳か、縦穴がよく掘ってある。しかも、明らかに人工的で、なかには金属性の梯子が設置されている穴もある。開夜に歩くのでなければ転落することはないだろうが……。

さて、10時35分、ようやく北稜が見通せるぐらいに朝霧が晴れてきた。今

の時期は北稜の杉や檜の常緑樹と落葉樹との境界がよくわかる。この尾根上も自然林のなかはすでに落ち葉が地面に満ち溢れている。踏みつける踏音も悪くない。
3分後にピーク448に到達した。実は初回時ここでちょっと迷った。というのは、前方の磁北55度方向の尾根が自然の進路のように思えた。また、

95度方向の派生尾根は充分な広大さを保っている。実は磁北の西40度方向に本来の尾根が続いている。初回時は55度方向に少し進みかけてすぐ気がつき、修正することができた。ここで7分間休憩とする。
さて、10時56分、いよいよ問題のピーク473にやってきた。実は初回時はここで誤った方向に進路をとってしまった。ここには磁北10度方向と西100度方向に尾根が続いている。前回持参した地形図にさほど細かく磁北線を引いていなかった。実は高を括弧でいたのである。最初に10度方向に進んだが、急坂となり、しかもその先に続くはずの尾根が見えず途中から引き返した。今度は西100度方向に進んだ。ところが、途中まではよかったが、ついに単なる下降斜面をくだるだけとなったので、その日はそのままくたしてしまい、滝谷越直交尾根コースを断念し、再挑戦を後日に期待したのであった。それが本日である。本日は改めてピーク473を頂点として、細かく地形図

中に消散してしまった。もう全く何も見えない。濃霧のため電車もスピードダウンした。
近江舞子駅に到着したとき、車窓から比良山系に向けてカメラを構えたが、写るのは手前の家と電線だけである。一方、北小松駅から北では、牛山の中腹以下ならば確認しうる。8時55分、近江高島駅に到着した。
9時03分発の行きを信濃市コミュニティバスの車窓からは蛇谷ヶ峰も全く見えない。数日前に蛇谷ヶ峰に降雪があったと聞いていたが、遠望することもできない。後は自分の足で確認するのみである。
バスはガリバー旅行村を経由して、9時36分黒谷に到着した。ここで高度計を240mほどに合わせ、これから登る尾根の末端を写真に撮る(写真1)。やはり緩線にはまだガスがかかっている。とりあえずは、林道鶴川村井線が分岐する入口にあるしゃくなげ運動公園のトイレで用を足す。

9時49分、全ての準備を整え、目前

の尾根末端の陥没地に向けて一歩を踏み出す(写真2)。本日の取付点は、すでに初回挑戦時に一度通過しているが、必ずしも通行しやすいルートではない。しかし、林道鶴川村井線に接する尾根末端は、地形図では土がけの印があるので、ここからのルートは不可と判断したため、独自に取付点を探したのであった。
さて、ここからはとりあえずはまっすぐに上方の視界内の稜線までたどるが、この稜線はどうも松尾神社に向かう小さい尾根のようだ。その後、本来の尾根を口指して相変らずの急坂をジグザグに登ると、上方の尾根上の一本の木に布が巻き付いている。何らかの目印だろうか。
何はともあれ、これで本来の尾根にのった。現在は10時06分。しばらくの間は自然林の疎林帯のなかを行く。この尾根はあまり踏跡が明瞭でないが、比較的緩斜面が続いている。11分後にはちよっとした眺望地にやって来たが、本日はガスのため畑集落もほとんどわからぬ。

(写真2) しゃくなげ運動公園すぐ横の取付点



からない。ここでは背の低い苗木が保護されている。
この直後に尾根の方向が直角に曲がるが、植林と自然林との境界上が歩きやすい。部分的に植林が尾根上を占有すると、枝打ちされていない檜の樹間が通りにくくなる。また、植林帯のな



(写真3) ピーク473からの下降点

上に標を引いて角度も記し、準備して来ている。本来の方向は磁北の西50度が正しい。

しかしながら、ピーク473からの西50度方向は、最初は単なる斜面を下降するだけのように思えた(写真3)。途中から前方下方に続く尾根が視界に入り、ようやく安堵した。まさに

然林帯は通常の登高が可能かどうかの保証はない。それ故、植林帯を通過するときの一種の安心感是否定できない。とは言うものの、狭くて直登しかできない傾度40〜50度の登高はやはり大変だった。

最後にはさらに一瞬の急斜面を経ると、目前は突然平田となった。やっと



(写真4) 滝谷の頭道標—右手より登って来た—

前回は袖断したための失敗だった。反省すること頻りである。一見容易に思えた尾根ルートでも、初めてのときはやはり充分な準備が必要であることを改めて思い知らされた。と同時に、この地形ではわかりにくいはずだと結論づけた。

後は尾根筋をたどると、懐かしい滝谷越頂上の小屋に再会した。現在は11時15分。ここでちょっと飲水休憩をとる。いささか感懐深い。何もかも昨年12月16日のままである。小屋の中の天井からの一本の紐もそのままである。

今からはこのまま北稜に向かって、前回報告した「植谷南方尾根から蛇谷ヶ峰西峰」の帰路で、富坂口に向けた下山路を獲する尾根と、須川峠道を捕する尾根との中間の尾根を登高することになる。

小屋から実際の広い急斜面に到着までは溝状の古道が残っているが、急斜面にかかるともう全く痕跡すら残っていない。この東向きの斜面は自然林の疎林帯で明るく、今の時期は秋色を帯

北稜上に達したのだ。よく見ると、前方やや右手に古い道標が立ち、滝谷の頭と読みとれる(写真4)。

12時03分、本日の目的はここに達成したが、ここで昼食をとるのも怪しいので、蛇谷ヶ峰に向かうこととした。

出発して4分後、前回報告時の下山路分岐を通過した。そのまま北向きに歩いていると、三ノ谷に疎かな積雪が現れた。その後は、北稜の山道そのものにも10〜15センチの疎かな積雪を見るようになった。

一昨日、京都北山グループの仲間と小野村剱岳に登ったが、山頂は15〜20センチの積雪があり、雪を被った樹木が晴天に白く輝いていた。しかし、全く予想外の積雪だった。恐らくそのときの降雪と時期を同じくして蛇谷ヶ峰近辺にも降り積ったのであろう。今年はず年よりだいが雪が早い。

12時38分、蛇谷ヶ峰の頂上に到着した。確かに一時期、この辺り一面にも降雪があったようだ。現在は一部残り、一部は解けて地面がまだ濡れている。

びた紅・黄葉が枝にも残っているし、地面には枯れ葉がすでに幾重にも重なっている。確かに急斜面なので、落ち葉で滑りやすいが、降雨がないだけましである。暑いのでここからは半袖になる。

標高差1000以上を登り切ると、そこは丘陵状となっていて、西方へと登りの緩斜面が続いている。しかし、間もなくピークに達した。このわずかな間は北稜と略平行して歩いてきたことになるので、改めてピークの手前より北方に向かうこととする。

しかし、ここからは標高差1000以上の下りとなるのだが、地形図でも特に等高線の記載はない。筆者にはピークの頂上から鞍部まで、100以上の高度差があるように思えるのだが……。

さて、ここからは杉の植林帯である。先程の落ち葉の急斜面と比べると、尾根自体は狭くて暗く、標高差は同じく1000以上ありである。ある意味では、植林帯ならば必ず仙人が立ち入っているから通常の登高は可能であるが、自

北方では三重嶽、大御影山も明白に冠雪している。伊吹山は湖沼の中で、武奈ヶ岳は逆光でわからない。百里ヶ岳も冠雪しているようだ。ほとんど風も無く、半袖のままでも寒くない。

昼食を終え、13時17分に蛇谷ヶ峰を後にした。本日は久しぶりに須川峠から下山したいと思った。朝方の濃霧とは打って変わり、陽光が気持ちいい。すでに北稜上の踏み付けられた雪が解けだし、水溜りになっている。同12分に前回の下山路分岐を通過し、4分後には先程の朽ちかけた滝谷の頭の道標まで戻って来た。

そのまま南下すると、間もなく右手より沢音が聞こえてきて、13時52分須川峠に到着した。おもしろいことに、須川峠に立つ道標には南北の標示はあっても、須川峠との標示はない。

久しぶりに須川峠からの下山路をたどる。途中、本日午前中の標高差1000以上あるのではないかと考えたピークと鞍部が左手に眺められた(写真5)。この

新ハイキング社の書籍

第28巻 バリエーションルートを楽しむ 松浦隆康 著

A 5判204頁/定価1880円 花・紅葉・滝・温泉など魅力の100コース
好評の『静かなる尾根歩き』著書による第2弾。奥多摩・奥武蔵/高尾山・葛山付近/
丹波・道祖/五志・奥蔵/大菩薩峠など全100コースに順回付き。

第27巻 房総のやまあるき 内田栄一 著

A 5判211頁/定価1830円 あなたの知らない千葉県南部の58コース
『えっ！千葉県に山があるんですか？』そんなあなたに、とっておきの登山のやまあるき
をご紹介。標高ではうかがい知れない奥深い房総の山へのガイド。

第26巻 静かなる尾根歩き 松浦隆康 著

A 5判202頁/定価1880円 奥多摩から八ヶ岳まで日帰り100コース
今までむずかしいと思っていたコースへの道を細くガイド書。コースにグレード区分
をつけ、最新の調査にもとづいて分かりやすい地図入りガイド。

第24巻 山岳巡礼 佐藤光雄 著

B 6判362頁/定価2080円 山に魅せられた一登山家の生涯の紀行録
春の登山、夏の大雪山、秋の穂高北方路線、冬の御嶽、ひとり拓く山の世界、
本格的に山に取り組む人への必き案内書。

第23巻 多摩100山 守屋龍男 著

B 5判244頁/定価1570円 多摩の山100山を選び組みあけた50コース
多摩丘陵の低山から東京郊の最高峰雲取山まで50コースにまとめて紹介。
地図や写真も豊富に入ってわかりやすいガイド書。多摩100山の宝庫付き。

第4巻 一等三角点のすべて 多摩雪雄 編

上製本/B 6判362頁/定価1880円 一等三角点研究の決定版
都道府県別により一等三角点を地図上に明示。一等三角点についての詳細な解説。
高度順100巻一頁高など。この1冊で、一等三角点のすべてがわかる。

9月発行予定 日本300名山スケッチ登頂 深谷健雄 画・文

B 5判約200頁/予価1980円 スケッチ山頂の決定版
90年をかけて達成した、日本300名山のスケッチ集。各スケッチに丁寧な説明文を
添えると共に、300山を簡潔に紹介。表紙の登山記録も充実。

●本誌添付の振込用紙で
ご注文されると、送料当社負担

新ハイキング社

F114-0623 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110



(写真5) 標高差100m以上はあるピークと鞍部
—これでも等高線上は変化なし—

峠道は途中で何箇所か須川の上流を横
切ってきたが、あと半分は林道須川
村井線に到着するまで、太い一本
の倒木が道を覆っている。もうたい
い前から続いている情景である。
林道からは牧場を經由して一見やぶ
のなかを潜るような小径の後、須川に

出た。の明るく田圃の緑を眺めながら
畑集落に到着した。左手から後方にか
けては午前中にたどった尾根が直火を
背中に金球を誇っている。14時47分畑
バス停に到着し、15時21分近江沼島駅
行きのバスに乗った。仲間を待って
れ！との乗客の依頼で4分後に出発し
たが、奇しくもこのバスは今年最後の
ガリバー旅行村を經由するものだった。
16時21分免の基西レジヤ一号からは
逆光のために比良山系のスカイライン
が幻想的なまでに大空と一体化してい
た。
最後に、木目の山行詩情を七百絶句
に泳んだ。

拙作

人院 松浦隆康 著
本誌 松浦隆康 著
秋 松浦隆康 著
雪 松浦隆康 著

(意)
人の院が殆ど夢を覚えている尾根は深い
別荘の中にある。未だ探の豊所を旅え

ていなかったが、やっと今通過したば
かりだ。一方、秋の気配は紅・黄葉は
燃然としているものの、幽寂たる境地
である。しかし、暖く途は急峻なので
その意はとうとうと懸け合おうか。
(平成19年11月25日歩く)

△コースタイム▽
黒谷バス停(3分) しゃくなげ運動公
園(17分) 頂橋(11分) 須野地(11分)
ピーク448(11分) ピーク473
(7分) 滝谷越(15分) 丘陵伏池(24
分) 滝谷の頭(4分) 富坂口への分岐
(30分) 蛇谷峠(25分) 富坂口への
分岐(4分) 滝谷の頭(6分) 須川峠
(19分) 最初の須川上流渡渉(11分)
太い二本の倒木(5分) 林道須川村井
線(19分) 畑バス停
△地図・地形図▽
2万5千1北小松
昭文社『比良山系(2006年版)』

山の情報

北海道登山

山小屋事情 ③

金谷 昭

(7)北海道中央部

・夕張岳 (1667・8坪)

(地形図：夕張岳・流ノ沢岳)

花の名山として人気の山。東西二本の登山道のうち西側コースの、夕張からの林道終点を少し入った登山口に夕張岳ヒュッテがある。プレハブ造二階建て収容人員80名程。トイレ・炊事場は別棟で、夏期には管理人が常駐する。寝具・食料持参の宿泊まりで有料。

業者が利用した際には、名産の夕張メロンゼリーのサービスがあり、人気の山だけにかなりの賑わいであった。山頂往復、また登頂後に南富良野金山

へ抜けるには長時間かかるので、ここに宿泊して早朝出発したほうがよい。
*夕張市教育委員会
☎012335(2) 3131

・芦別岳 (1726・9坪)

(地形図：芦別岳・布部岳)

夕張山地の最高峰。天を突くようにそびえる岩山は北海道のマッターホルンとも呼ばれている。富良野側からの山部自然公園から新田二コースがあるが、財道コースのユーフレ川を上流に遡った夫婦沢出合を少し登った極楽平に、収容人員100名程の大きな石造の山小屋がある。無人開放され、寝具・炊事用具無く無料。原生林に囲まれて少し涼うつな雰囲気である。旧道の登山者や岩壁に挑む者に利用されている。
*富良野市観光課
☎0167(23) 3521

・羊蹄山 (1893・0坪)

(地形図：羊蹄山・札幌安)

富士山そっくりの独立峰だけに過酷

な気象条件にさらされるため、九合目の薬草ヶ原に避難小屋が設けられている。

木造平屋建の収容人員100名程の大きな山小屋。最盛期には管理人が常駐し有料であるが、貸毛布以外、食料・寝具持参の宿泊まりとなっている。水場は無い。

頂上お鉢廻りの周遊コースの一段下の真狩コースと比羅夫(倶知安)コースとを結ぶ捲き道の中間にあるためガスがかかるかわりにくく、先年の関西からのツアー登山客の遭難事件も、この小屋を利用していれば防げたのではないかと残念である。

*最近老朽化が進み閉鎖されたらしい? 改善が要望されているが、真狩コースの登山口に道新羊蹄自然の家が登山者向きの低料金で、食事・寝具付の宿泊が可能である。ここをベースに軽装で日帰り登山すればよい。
*道新羊蹄自然の家
☎0136(45) 3332

・積丹岳 (1255・3坪)

(地形図：奥国・余別)

積丹半島中央部の最高峰余別岳(1297坪)すぐ北の登山道のあるピーク。なだらかな山容から、冬季スキー登山、特にヘリコプタースキー登山に人気の山だが、一般登山者は少ないようである。

半島海岸線の国道229号線のバス停登山口から高度約420坪の林道終点の登山口に積丹岳休憩所がある。名称は休憩所であるが立派な山小屋。木造平屋建てトイレ・ストーブ・水場も完備され、宿泊も可能で無人開放されている。

小屏の脇から始まるゆるやかな登山道をたどって頂上に至るが、ヒゲマ山役の警台場看板が置かれている。

*積丹町役場
☎0135(44) 2111

・春巻山 (906・9坪)

(地形図：鉄函・張連)

札幌と小樽を結ぶJR鉄函駅から気

味に登れる家族向き山。山頂近くに北海道東海大学の銀葉荘がある。木造二階建て収容人員50名程の頑丈な山小屋。管理人常駐で一般利用する場合は予約が必要である。

*北海道東海大学事務課
☎011(571) 6111

・余市岳 (1488・1坪)

(地形図：余市岳・阿女岳)

札幌近郊の最高峰で一等三角点峰。キロススキーリゾートが開発されてから赤井川村からの登山者が圧倒的に多いが、もう一つの定山溪からの白井川沿いのコースとヒクタ沢出合に札幌医科大学の白井小屋がある。

木造平屋建の収容人員15名程の小さな小屋だが頑丈に造られ、トイレは別棟となっていて無人無料開放されている。

札幌近郊にかかわらず奥深く大きな山である。

*札幌医科大学学務課
☎011(611) 2111

・空沼岳 (1251坪)

(地形図：空沼岳・石山)

北海道では珍らしく、登山口まで札幌市内からバスが季節運行されていて札幌近郊で最も賑わう山である。

中腹の針葉樹に囲まれた静かな万計沼の湖畔に札幌森林管理事務所の万計山荘と北海道大学の空沼小屋とがある。共に一般利用もできるが事前予約が必要である。有料で寝具・食料持参の宿泊まりである。万計山荘のほうが少し大きく、木造丸太造二階建て収容人員50名程。

都会に近いが周囲を取り巻く環境は、まるで北欧の湖畔の雰囲気。その中で宿泊するのも素敵である。

*万計山荘・定山溪森林事務所
☎011(598) 2271

*空沼小屋・北海道大学生課
☎011(716) 2111

・無意根山 (1460・5坪)

(地形図：無意根山・定山溪)

札幌近郊の第一の高峰。たおやかな

山容は余市岳に似ている。二方向から登山道があり、その一つ元山コースの登山口には札幌市営の無意根山荘がある。木造二階建ての立派な山小屋で収容人員30名程。有人で食事・寝具付きで宿泊できる。

もう一つの薄別コースの中腹の大蛇ヶ原湿原に北海道大学の無意根小屋がある。少し古びた木造二階建てで収容人員30名程。有人有料で寝具・食料持参の宿泊まり。一般利用も可能で両小屋共予約が必要である。

★市営無意根山荘

〒00111 (590) 21222

★無意根小屋・北海道大学生課

〒00111 (716) 21111

・樽前山 (1023・8㍎)

(地形図・樽前山・星不死岳)

三重式火山として有名。七合目まで車で登れるので楽に登山できる。高山植物のイワブクロで人気の山で一等三角点峰。その七合目に樽前山太白ヒュッテがある。木造平屋建ての山小屋。以前

は私営で宿泊まりで宿泊できたが、現在は市営となり、遊覧活動と七合目駐車場整理員の休憩所となっているため、一般利用はできなくなった。

◎道南地方

・大千軒岳 (1071・6㍎)

(地形図・大千軒岳)

北海道最南端の1000㍎峰で一等三角点峰。江戸時代キリシタン大量処刑の歴史を秘めた山である。すばらしいお花畑と本州を望む展望に優れ、またブナ林の北限となっている。現在は山の西麓を横切るトケ沢林道から短時間で登頂できる新道コースが賑わっているが、古くからの東側からの知内川コースの林道終点の登山口から1㍎手前の林道から徒歩した対岸に小さな山小屋がある。

函館大学山岳部有志により建設された木造平屋建て収容人員10名程。流し台・トイレが備えつけられ無人開放されている。使用に際しては事前に電話申し込みが必要である。

★二股ラジウム温泉

〒01377 (2) 43883

・丸山 (674・2㍎)

(地形図・美利河・二股温泉)

長万部町と今金町の町界にある山だが地形図に山名が記載されていない。付近は美利河・二股自然休養林として北限のブナ林を見ることが出来る。登山道は前述の長万部の二股温泉からと美利河温泉からの二本ある。

後者は美利河ダムを経てピリカベツ川沿いの林道を行き、終点よりさらに遊歩道を1㍎程行った登山口にある温泉宿から登るコースである。この美利河温泉は登山者向けの温泉付きの別荘風の山小屋である。木造二階建てで収容人員30名程の食事・寝具付きで宿泊できる。ただし開設期間は5㍎10月間となっている。この山の家の横はキャンプ場となっている。ファミリー登山もできる。頂上には樹林のなかで展望用の櫓から周囲の山々を望める。

★クアアラザピリカ

〒01378 (3) 71111

・八雲山 (909・3㍎)

(地形図・渡良碓川・砂間部・春日)

高度1000㍎をわずかに切るが、頂上付近を大岩壁が張り巡らした山容はすばらしい。八雲町からの林道終点の登山口にオボコ山の家がある。旧八雲鉱山の郵便局の建物を再利用した山小屋で木造平屋建ての小さなものだが、登山道を開拓したワングル所有で事前申込みにより有料で鍵を借用することとなっている。

林道入口近くにある、食事付き宿泊可能な八雲町営温泉おぼこ荘のほうを利用しやすい。なお、登山コースは中級者向きでヒゲマに要注意である。

★オボコ山の家・すずき金物(ワングル会長宅)

〒01376 (3) 22211

★八雲町営温泉おぼこ荘、毎月第二、第四火曜日休み

〒01376 (3) 3123

知内川を渡って行くと山中にかつて

砂金掘小屋が千軒あったという昔の賑わいをしのぶすがはなく、寂しい金山番所・にせ銀座・千軒銀座などの史跡看板があるのみである。知内川源流をつめた主破線には十字架の建つ千軒平があり、北海道屈指のすばらしいお花畑が出現する。

★函館大学山岳部OB、ビルゴ山岳会
会長伊予田丈夫氏

〒0138 (53) 8475

・長万部岳 (972・4㍎)

(地形図・二股温泉・大平山)

長万部町の最高峰で双耳峰のよく目立つ山だが、中腹の険峻なたぬ山跡から登山道が付けられている。林道終点の登山口に避難小屋うすゆき荘がある。高床式鉄骨造のプレハブ小屋で冬季用にて夏山シーズンは一般に開放されていない。

近くには野趣豊かな二股温泉があり、登山者向けの低料金でこちらのほうが宿泊に適している。

・狩場山 (1510・9㍎)

(地形図・狩場山・賢老・須藤・カスベ岳)

道南の最高峰。その雄大な山容は遠くからよく見え、一等三角点峰でもある。いくつかのコースのうち、南麓の北松山町からの真駒内川に沿った林道に入り、約17㍎行くと真駒内コース登山口にキャンプ場が出てきて、狩場山小屋が建っている。木造平屋建てで比較的新しく、収容人員20名程の小屋。無人開放され、食料・寝具持参の宿泊まりとなっている。山頂近くで後述の千走新道コースと合流する。

その他、日本海側の北側の島牧村から賢老高原キャンプ場をベースに新旧コースを巡回する千走コースがある。近くに賢老の滝など見所の多い高原キャンプ場だが、山小屋は無い。比較的登りやすく、登山後には林道入口にある千走川温泉で汗を流せばよい。

★北松山町商工水産課

〒01378 (4) 51111

(丁)

三角点を訪ねてシリーズ ⑤4

連載

大天井岳から小天井岳へ

大峰

磯部 純

大峰山系の山へ登るのはこの年二回目。前回の8月に西上さんの例会で稲村ヶ岳へ登った時には、生憎の霧と雨で展望は全く無く、ただひたすら歩いて三角点を訪ねたという印象しかなかった。今回、この山行に参加したのは、せめて遠くからでも稲村ヶ岳の姿を見て、稲村ヶ岳がどんな山だったかを見たいとの思いがあったからである。

8時10分、二台の小型バスに乗って近鉄福原神宮前駅を出発する。この日の参加者は30名だが、見知った顔はリーダー・サブを含めて8人しかいない。

最近では、山に黙々と登るより、山や自然を楽しもうと、見知った人と談笑しながら歩くことにならなってきたので、吹田の彼女や長兄の顔を見た

おいしかった。リーダーを始め、何人も人がコンニャクにかぶりついていた。ここを出て峠を越え、山上川沿いの道を通り、割川町を越えた先で川瀬谷と分かれ、左の毛又谷の林道に入る。細い道をクネクネと登り、五番関トンネル手前広場がこの日の登山口。

この標高は約1100メートルあり、トンネルの西斜面の木々の葉は黄や朱に染まり、秋の深まりを告げているようであった。

9時50分出発となり、北の急斜面に取り付き、杉林の浅い谷沿いの道が最初から急登。二番目を登る長兄は下り

は苦手だが登りは普通の早さと言っているが、人並み以上のピッチで登って行く。わずかに標高差1000メートルの登りだが、フウフウ言ながら15分で五番関へ着いた。

五番関は、吉野から山上ヶ岳へ通じる吉野道上にあり、昔茶屋があった場所です。平坦な鞍部となっている。すぐ東の尾根の登り口には、戦後の1970年に吉野の青根ヶ峯から移された「女人結界」の門があり、その柱の側には役ノ小角が祀られている。全国で唯一、女性禁制を守り通している信仰の山・山上ヶ岳大峯山寺の入口であり、これ

五番関の標識



より先へ女性は入山してはいけないとされている。最近の登山ブームで、コッソリと禁を犯して結界に入り、何人も女性が山上ヶ岳へと登っていると聞くと、ひと思っていた後、吉野へ向かう道を右に見て、尾根道を西へ登る。

大天井岳からくだる尾根から見る四寸岩山



時、なぜかホッとした。そのうえ、豊中の彼や久しぶりに顔を見る太秦の彼女がいっしょだったので、なおさら力づけられるようにも思えた。

バスは前回通りの道を行って、川合道の駅でトイレ休憩。この日の朝、忙しくて食事を満足にとっていないだったので、ここで食べたコンニャクは実に

ここから吹田の彼女の後ろを歩くが、なぜか太秦の彼女は私の後ろにピッタリ付いて前へ出ようとしないうえ、後ろから追われているようで気ばかり焦り足が前に進まない。登り始めてすぐ、杉の林は雑木林の尾根へと変わる。登るに従いブナやツガの巨木が目につきます。右手には木々の間から大所山へ連なるラクダのゴブのような尾根が見え隠れしている。尾根はさっさと急になり、途中で林の切れ目から後ろを振り返ると平坦な山上ヶ岳と、その右手にレンゲ社からの尾根、大日山・稲村ヶ岳の峻険な姿がクッキリと見えた。8月にあんな山へ登ったのだと思うと、自分が信じられない気がした。

急な尾根を登り切るとゆるい尾根が続く。足首程のミヤコザサが敷き詰められ、その間にヒカゲノカズラも繁っている。左増右手雑木の尾根を歩き、木の根が絡み合う割尾根を行き、右手に吉野参詣道へくだる道を分け、ひと登りするところ大天井山頂。10時55分の到着だった。



大天井ヶ岳の山名標識

大天井ヶ岳の山名標識は、
14338と大天井ヶ岳の
標高と山名が記されている。

ちている岩尾根は朱や黄色に彩られて、
陽に映えている。今はまだ色が浅いが、
もう少し紅葉が進めば、感動するよう
な光景が目の前に広がるに違いない。
この尾根で、秋の到来を告げる風景
を眺めてさらにくたると、檜林の尾根
に入り、展望は閉ざされてしまう。そ
の尾根をゆるく登ると小天井岳。檜林
のなかの平坦なピークで、標高が11
70メートルあるとは思えない。幾分高い
所の木に「小天井岳」と書かれた良新
しい山名標識が下がっている。標識が
無ければ、地形図をよく見ていないと、

小天井岳であるこの場所を見過ごすか
も知れない。
時間は1時過ぎ。ここで昼食となっ
た。汗はほとんどかいていなかった。
ピツシリと寒くなった檜林のなかでは日も
当たらず薄ら寒い。ほとんどの人が防
寒具を着込んでいる。西上りロードの
山行は比較的ハードで、寝食時間も短い
との定評だったので、今回も昼食時に
飲むアルコールは持ってこなかったが、
吹田の彼女にはんの少しだけおすそ分
けしてもらい、口を潤す。
いつも参加する人はよく知っていて、
30分の昼食時
間が終わる前
には準備を整
え、12時30分
キツカリに出
発した。相愛
わらず列の中
では、吹田の
彼女、私、太
菜の彼女と歩
く順番は変わ

らない。檜林の尾根をくだり、二つの
小さなコブ、お碗のような小山を越え
て登り返すと、標高1147メートルのピー
ク。ここまでは尾根の両側に檜や杉が
立ち並び、展望は無かったが、高みに
登った時だけ時折、左手に先程踏んで
きた大天井岳の姿が短時間見えた。この
ピークをくだり、右にしっかりと道
を見て、尾根を登って比較的平坦なピー
クを越え、もう一つ先のピークが三角
点峰の「高山」。南北に平坦なピーク
で、その北の端に三角点立っている。
点名は「赤瀬」で標高は1169・3
メートルあり、小天井岳とほぼ同じ高さ。標
石は北向きで、北から東へ5度傾いて
いる。ここにも真新しい山名標識が下
がっている。
高山から西へくだる。檜林の下り尾
根はゆるやかで広い。檜林は枝打ちさ
れていて、予想以上に明るく、湿った
気持ちにならずに歩けた。左へのびる
平坦な尾根を越えてくたると湧状の鞍
部で、旧小南峠と言おう。
林道の小南峠へ出るには、もう一山



以前は林に囲まれ展望が
無かったと聞くが今は伐採
され、西と北の展望が開け
ている。西方には遠く金剛
山・葛城山が黒く横たわり、
その右端にチョコッと突き
出ているのが二上山。手前
には五條市の平野が広がっ
ている。北方に目を移すと、
すぐ目の前に四寸岩山が横
たわり、その右遙くに台高
の山々が連なっている。ひ
ととき高く見える笹原は高
見山か。近くの山斜面は杉
や檜の緑に覆われているが、
所どころ雑木の林が斑に残っ
ていて、紅葉した黄や淡朱
が目に残り込んでくる。た
だ残念なことに、東方の
林に遮られ、備前ヶ岳を見
ることはできなかった。
三角点は、仰々しく山名
標識の下がった木の根本に
立っている。点名は「大天

井」で標高1438・7メートル。標石は北
西向きで西から30度北へ振っている。
この大天井岳という山名は、最も高い
場所を意味する「天井」から付けられ
たといわれている。
山の風景を十二分に堪能して、11時
10分に山頂から北へくだり、北西にの
びる尾根へと入る。急勾配の下りなの
で、カメラをザックに納めてくたった
が、くだる途中で後ろを振り仰ぐと、
色鮮やかな紅葉の林が目飛び込んで
くる。前はドンドンくだって行くし、
カメラを取り出して写す間もなく、そ
のすばらしい光景を目に焼き付けるし
かなかった。
急勾配の尾根をくだると、次第に傾
斜はゆるくなり、左輪右雑木の尾根に
変わる。右手の黄色や朱に色づいた木々
の間から、すぐ近くに四寸岩山の姿が
迫ってきている。その先の伐採尾根へ
出ると、絵に描いたような光景が目
の前に広がっている。正面は緑に覆われ
た四寸岩山が横たわり、目の下には谷
がうねっていて、その谷へ右手から落



樹林の中の高山三角点

を越さなくてはならないが、リーダーはこの峠から古い道跡をたどり、斜面を切って西北西へくたつて行く。急斜面に切られた道左手斜面の上には鋭り立つような岩が見えていて、右手は檜林の急斜面。道脇には花の終わったマツカゼソウが群落をなして続いている。浅い谷を横切るとすぐ、3分程ある作業道となり、道なりに尾根をくだると、川戸から瀬川へ越える舗装路に出た。婦りのバスが持っているのは、この林道を下りた終点、川谷川と黒龍川の分岐にある川戸の河合神社境内。リーダーから「ここからは自由に車道をくだってもよいし、ショートカットして旧道をくだってもよい」とのお話が出る。地形図を見ると、神社前までは舗装

の車道歩きでかなり距離がある。同じ歩くなら太葵の彼女に引っぱられ、車道を歩きたくない吹田の彼女と豊中の彼を誘って、4人がヘアピンから旧道へ入ると、何と津市の彼女も付いて来ている。「本道とは言え、どこへ行くかわからない彼女を放ってくだってしまおうけにもいかず、絶えず後ろを気にしながらの下りとなった。旧道は尾根にシツカリと刻まれている。最初のショートカットをした時には、車道をくだった人達よりかなり先に出たようだ。二回目のショートカットでは、途中で車道を離れて尾根をくだったが、やぶの無い歩きやすい尾根の下りだった。それでも車道を歩いた人より早く松ヶ茶屋跡へ着いた。ここで、車道歩きの何人かの人達が、迎えてきた小型バスに乗って神社へくだっていったが、我々も入はせつかくここまで歩いたのだから神社まで行こうと、最後のショートカットに入る。これまでのようにシツカリした道ではなく、袖道状であったが何とか道跡をたどり、

下の車道へ下りた。そこから車道を歩いて10分で河合神社へ着いた。すでに車道歩きの大半の人達は迎えのバスで神社へ到着していた。旧道をくだったのは5人だけだと思っていたら、後ろから来た人達もいて、9人が神社まで歩いたのだった。

15時15分、リーダーから「出発」の号令。帰路はどこをどう走ったかわからなかったが、45分間もバスに揺られ、機原神宮前駅へ16時02分に到着。

京都へ向かう急行の待ち時間は無く、買うものを買ってすぐ電車に飛び乗る。8月に見ることのできなかつた稲村ヶ岳の姿を思い出しながら、車中で飲んだビールが何とおいしかったことか。

(平成18年10月27日歩く)

△コースタイム▽

五番関トンネル西口広場(15分) 五番関(50分) 大天井岳(45分) 小天井岳(1時間) 高山(25分) 旧小南峠(15分) 車道(1時間) 川戸河合神社前
△地形図▽2万5千1利川・中戸

研究

地名について

敷木 伸人

私は本欄に、由来不明の山名について書いたことがあった。あれからいろいろな本を読むうちに、地名の由来が明かされたものはいかぬことを思い知るに至った。

私の郷土松阪を例に述べてみたい。「蒲生軍記」によれば、戦国期の1588年、この地に築城した氏親が、蒲生家の武名が盛んになるよう、めでたい「松」の字を使い、「坂」のほうは、秀吉から大坂の一字をもらったという(当時の表記は「松坂」)。

それでは、「松」「坂」それぞれの言葉は、どこから来たのか。

「松」の語源は、和語に限っても十指に余る説がある。「久しく松を保つ」「タチノ」の略称。「後の葉の生ずるを待つて前の葉が落ちる」ところから「行木を待つ」意。常緑樹の意である真常木「マトノキ」。葉が「まつ毛」に似ること。茸厚「メアツ」。二役に分かれた葉から「マタ」の転。葉が幹にまつわりつく「マツ葉木」などである。どれも一理あるようだが、逆にどれも決定打でないようにも思える(他言語からの類推については、後でふれる)。「坂」の語源は、同義の「サ」という語がまずあり、それと「陽所」の意である「カ」との複合語というのが一説である。別の説によれば「サ」は「割ク・押ス」で、「カ」は前述同様「在り処」のように「処」を意味するので、「サカ」は「分割する所」となり「坂」の意味となる。そこから「山の境を「取」傾斜地」と呼ぶようになつた。逆に「境」が「坂」に由来するという説もあるが、ともかく二つの語源は同じということだろうか(これについて

ても後でふれる)。

「坂」は他地域との「境」であり、古くはこれを越えたと異郷と考えられた。坂には境を守る神が居て助けとなり(家の神)、通過の際には手向を捧げて安全を祈願する習俗があった(タムケ)が「味」の語源とされる。各地に残る「三坂・神坂・割坂」などの「マ」は、坂の神に対する敬称とも言われている。

古代中国から漢字が伝わるまでわが国に文字は無く、「松」も「坂」も、字より先に「マツ」「サカ」という言葉自体があったと考えて、ここまで話を進めてきた。

さて、命名時から漢字二字表記されていた「松坂」と違い、漢字が和語の表音文字としての役割を担っていた古代においては、今程二字地名は多くなかつた。「松坂」に「坂」の字を写した「大坂」は、「日本書紀」に「鳥坂」と表記されているようである。ところが、713年に出された「好字二字令(和暦六年の制)」によって「小坂」

と改められ、さらに「大阪」となった。

中国に倣ったこの二文字化政策により、「木」の国は「紀伊」、「佐野志」の国は「武蔵」などと改変させられた（松阪市内にも「阿部加」→「阿坂」、「伊佐和」→「射和」などの二文字化地名が残る。「上野」、「下野」などは、「毛野」の国が「上毛野、下毛野」に分かれた後、中の一字を抜いてしまったために字と発音が一致しなくなった。「泉」の国は「和泉」と、わざわざ発音しない文字を加えられた。かくして地名解釈に当たり、現在の漢字表記からのみ推測することには慎重にならねばならない。明治になってからアイヌ語に字を当てた「銅路」さえ、「銅」の一字で「クシロ（＝腕輪）」と読むにも関わらず、この因習を引き継いでいるのである。

では、そろそろ他言語からの地名解釈に踏みこむことにする。これは日本語（和語・大和語）の成立に関することであり、これまでいくつもの仮説が唱えられている。

まず、アイヌ語からのアプローチが

日本語「モト（元・木）」という関連もあるようだ。

タミル語起源説を採ると「阪（坂）」の語源は、日本語「サカル（贈る）」だろう。これは先に述べた「分割する」と矛盾しない。タミル語では「アカル（贈れる）」のように語頭にS音が無い。これは「アカヴ（叫ぶ）、アルック（歩く）、ウツ（捨てる）」→日本語の「サカブ（叫ぶ）、サルク（歩く）、スツ（捨つ）」等に通じる原則らしい。

タミル語との関連にもう少しふれておく。「ニラム（土・大地）」は、朝鮮語「ナラ（土地・国）」や日本語「ニ（土）・ナキ（大地）」に結びつく。「なる」は元来「大地」の意で、「なるふる（大地が揺れる）」の動詞部分が省かれ、「なる」だけで「地震」を指すようになったものである。タミル語「ク（洞穴）」は、朝鮮語「コ（洞）」や日本語「クラ（洞穴）」となり、現代語の「ホラ（洞）」となった。大野先生の著述を読むと、日本語とタミル語との関連性が、門外漢の私にも納得

考えられる。一説によると、「松阪」は「マツ（湾曲した）→サーカ（浜辺）」となるらしい。なんと、伊勢湾に面した当地の地形の特徴と合致しているではないか。前述のように「松阪」という地名の由来ははっきりしている。アイヌ語由来とは考えにくい。しかし「松」の語源が、アイヌ語の「マツ（湾曲した）」である可能性は無いとは言えないように思う（松の湾曲した枝ぶりを見るとき）。

松阪市街を流れ、私も幼少時遊んでいた「坂内川」という川がある。この地名がなぜ湯桶読み（訓十音）なのか、気になっていた。アイヌ語で解釈するならば、「サーカーナイ」で「浜辺を持つ川」となる（古朝鮮語の「ナ」にも「川」の意味がある。そう考えだすと、源流にある「堀坂」という山名も、何やらアイヌ語由来らしく聞こえてくる（「ポッサーカ」＝「湯の沸き出る浜辺?」）。しかし、これはやはり「掘って坂（畦）道を作った所」と解するのが妥当だろうか。

できるのである。

その他の言語と地名を関連づける説もある。「長野」の「ナガ」がサンスクリット語の「蛇」に由来し、「長野」＝「蛇の（多い）土地」と解する人もいる（蛇の古語は「長虫」で、「長い」と「ナガ（蛇）」との関連も、あながち否定できない）。

このように、わが国の地名（山名）は、和語（日本語）のみならず、アイヌ語、古朝鮮語、タミル語等、様々な言語を視野に入れて初めて解き明かされてゆくものといえそうである。

最後に、余談であるが「松阪」には「マツサカ」「マツザカ」二通りの読みがある。しかも「マツサカ」と言うとき、「ツ」の母音を発声していないことが多い。そのうえ、地元では「マツサカ」「マツツアカ」と違って話されている。これはほとんど多様な音で呼ばれる地名も珍しいのではないかと思う。「マツサカ」や「マツツアカ」の発音は、ユーラシアに居た我々の祖先から遠い昔に分かれていったマヤ・アス

もう一つ「草山」に関して記しておく。

渡渉地点や峠を越える所に「草」の付く地名が多いのは、アイヌ語「クサ・クシ・クス」＝「越える・越す」が語源だといえる。この説に従えば、「草山」も、漢字表記の意味通りの「草の（多い）山」以外に「越える山」の可能性が出てくる。「磯田川」の「クシ」や「千草越」の「クサ」も同様である（本誌90号66頁参照）。

次に、南インドのタミル語から考えてみる。地理的に相当離れていると思われるかもしれないが、日本語のいくらかがタミル語起源であることは、何十年も日本語を研究してこられた大野晋先生によって証明されている。

「松阪」の「マツ」と同音のタミル語は「飲ませ食べさす」という意味であり、そこから日本語の「マツル（祭る）」が生まれたという。「松」を「祭る木・祀りに使う木」と解すれば、びつたり符合する（今でも祖霊を祀るのに松の枝を供えている）。タミル語「ムタム（草・足）」→古朝鮮語「マト（元・木）」・

テカ語族の響きさえも感じさせられる。

〈参考文献〉

- ・市史編さん委員会編「松阪市史」（一九七九年）
- ・三枝組松阪支部編「松阪の歴史散歩」（一九八三年）
- ・「角川古語大辞典」（角川書店、一九八四年）
- ・「コスモス朝和辞典」（白水社、一九八八年）
- ・大野晋「日本語の起源」（岩波書店、一九九四年）
- ・田村すず子「アイヌ語辞典」（草風館、一九九六年）
- ・大友幸男「アイヌ語古朝鮮語・日本の地名散歩」（三一書房、一九九七年）
- ・浅井建爾「日本の地名がわかる事典」（日本実業出版社、一九九八年）
- ・岸祐二「手にとるように民俗学がわかる本」（かんき出版、二〇〇二年）
- ・菊池神一編「日本の地名」（新人物往来社、二〇〇三年）
- ・本多貞「アイヌ語地名ファンブック」（彩流社、二〇〇六年）
- ・大野晋「日本語の源流を求めて」（岩波書店、二〇〇七年）

連載

漢字のふるさと

霊岩月出山

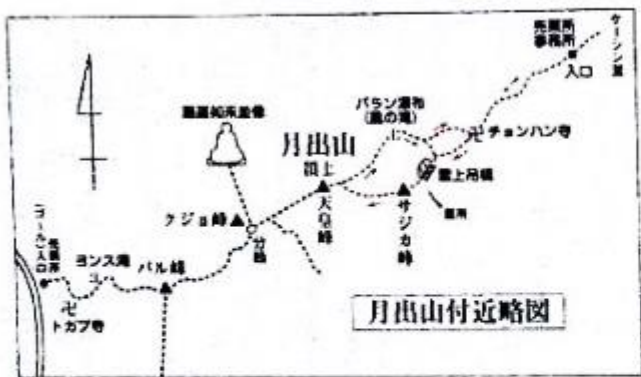
ヨシミスゴーツ

吉見英樹

韓国

朝鮮半島南西部の全羅南道、木浦市郊外の月出山国立公園にある山で、韓国登山のベスト5に入り、岩稜歩きと深い谷間に架かる雲上吊橋が有名である。山中は鉄梯子・鎖が連続し、高度感も抜群で、落ちれば天国行きの難所もあり、ソウルや釜山からは、登山バスツアーも頻繁に出る人気の高い山である。登山後は木浦港魚市場で、鯛・ヒラメ・活けタコなど、刺身をこれでもか？と言うぐらいに満喫できる。

山麓の霊岩群は歴史的に重要で、日本に初めて漢字を伝えた王仁博士の故郷であり、いわば漢字のふるさとである。木浦市には日本統治時代（韓国では日帝時代）の日本式家屋が今も多く残る。



交通アクセス
仁川空港より、空路もしくは高速バスで木浦市に入り、月出山登山口までタクシーを使うのが便利だ。

コース

朝6時に大阪の家を出て、ケーシングでタクシーを降り、民宿前に立ったのが夕方6時。あれこれ乗り継いだ1日の行程を思い出し、心算上手いこと間違えないで着いたなと、自分の行動に感心した。と言うのは、この日の行程を解説すると、閑空仁川空港、光州市行き高速バス、光州市バスターミナル乗り換え、路線バスで霊岩、霊岩群でタクシー乗り換え、ケーシング、日本と異なり韓国は鉄道網より高速バス網が発達しており、バスターミナルの巨大さは想像をはるかに超えている。構造は円形で、建物の真ん中が切符売り場、その外円周上に待合所がある。そのまた外円周上に各方面への改札口があり、バスは放射線状に発着していく。その発着場の多さは100を超すと思われる。

バスターミナルは交通渋滞を避けるため市内には無く、全て市外にある。巨大バスターミナルは日本では見られない光景で、異国を旅している自分を

月出山



山容

標高は812m、ずばり岩の展示場のような山という表現がピッタリだ。登山口から見上げたときは、「この山どうやって登るのだろう？」と悩むぐらいの岩塊の山だ。ただし登山ルートはしっかりしているうえ、標識も完備しているので、迷う心配は全くない。

強く意識したのであった。

さて泊まった民宿だが、これが本道にアットホーム。ウイークデーで泊まり客が少ないということもあり、夕食など食事は、家族といっしょにとった。あれこれおかずをつまんでいると、三々五々主人の友人が現れ、いっしょに酒を飲みだす。「日本人か？ 珍しいな！ 一人で来たのか？ これ食べる、酒飲むか？」と、昔とても親切にしてくれた。タダ酒はよいのだが、明日の山行のためにあれこれ今日の大変だった行程などを説明し、早々に部屋に退散した。

韓国は儒教社会。目上の人への礼儀はとてもうるさいのだ。黙って消え去るなんて技は決してあり得ない。勧められた酒を断るのはかなり難しいのである。そのうえ、初老の人は植民地時代の経験で、忘れたといえ日本語が喋れる。60年も日本語を使っていない人もおられ、大変懐かしがってくれるので、退席するのが大変だった。もちろん翌日の晩は、下山後にタダ酒をた

らふく飲ませてもらったが……。

登山当日、目を覚ますとひどい土砂降りだった。

主人は「こんな日は登山せんと酒を飲んどんだ」と言うが、私はとてもそんな気になれない。

登山事務所でレスキューの人に、

「雨の日はとても危険だから、どうしても行くなら、くれぐれも気を付けて、そして下山後は必ず事務所に電話を入れない」と、強く念を押された。山を見上げると、ほとんどが雲の中だ。標識は見やすいが、とにかく無事に下りてしようと、山の神にお祈りをして登山を始めた。

雨の中、岩や石の上を慎重に歩き、ジグザグに高度を上げる。チョンハン寺というお寺跡の分岐を左にとり、さらに歩くと勾配が少しずつつきつくなり、巨岩の間をぬう道になっていく。

「いよいよ臭いがしてきたな」とほくそ笑むと、「雲上治植こしらー」の標識が見えてきた。「どんななんや

ろ？」怖いかな？」などと、も

ウワクワクワだ。すると目の前から突然道が無くなくなり、雲上橋が現れた。

深く切れ落ちた谷、眼下は雲が垂れ込んで何も見えない。対岸は雲間に何とか見える程度。遠くにバラン瀑布が垣間見え、風向き次第で落水が流れてくる。

あれこれアングルを撮って写真を撮ってから、滑って危ない足下を固め、「よし！ 渡るぞ！」。一步一步毎に橋が揺れ、とてもスリリング。橋桁の間から見なくてもよいのに、なぜか真下を見る。メチャ怖いなと思いつつながら対岸にやっと到着。はっとひと息。

対岸展望台で展望？を堪能し体力を整えた後、さらに天に一直線にのびる鉄梯子に手を掛け、岩峰に上がって行くのだ。見上げると鉄梯子は雲の中に消えていっている。

レスキューの人が言っていたように、ここが一番の難所だ。雨でワルワル滑るので、さらに緊張と恐怖が増す。よせばよいのに下を見ると、梯子の下が

無い！ 雲の中に消えているではないか！。エライコッチャ!! もう上がるしか道は無い。腹が括れ、ここで客死せんことだけを祈って必死に登った。

ところが峰上に着くと、拍子抜けするほどの普通の登山道になり、思わずへたり込んでしまった。温かいポットのお茶を飲み、我に返ると傘が覆えている。かなりギョーッと鉄梯子を覗いていたようである。

そこから道はトラバース気味に頂上へ向かっていく。土砂降りでも全く平気な道だった。メリハリのきいた山やなく、心で吐いた。頂上直下で名所の岩トンネルをくぐる。広い頂上にギョーシと到着した。

展望図には、いろいろな名所が打ってあるが、もちろん何も見えるはずはなく、シャワーのような雨の中で、ご主人手製のおにぎり弁当を口にねじ込んだ。土砂降りでも寒さは感じられず、意外と頂上でゆっくりできた。

この後の行動を、どうしようか、あれこれ迷ったが、何となく朝氣モード

にスイッチが入り、下山路をとることにした。下山路は谷筋をひたすら下る道である。危ない所は木道になっているので全く心配はない。

しばらく歩くとバラン瀑布（風の巻）が見えた。見事な滝である。大きな花崗岩の一枚岩を滑るように水が落ちてゆく。ピッカピカの一枚岩だ。

ここからは単純な下りとなり、チョンハン寺分岐からケーシン里登山口に到着した。レスキュー事務所アジロシに下山届けをすると、「良い判断だよ」と告げられた。全行程を行けず敗退した気分が悶々としていたが、その一言で、気分はすっかりした。

こうなったら一日散で民宿へ戻って、昼から韓国ビール・焼酎で飲んだくれて、もっとスッキリするのだ。

でも翌朝起きるとやっぱり、あまりスッキリしない。しかも、この日の天気は最高で抜群だった。

独り旅だから、この日また登ればよいと思われるであろうが、実はこの日、

アタッチ痛い靴の巾広げします



YOSHIMI OUTDOORS SHOP

〒543-0054 大阪市天王寺区津守町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/

TEL. 06-6772-7231

毎週水曜日定休

木浦市在住の妙齡の女史が雲岩までわざわざ来てくれ、昼食をいっしょにとるといふ約束をしていたのである。しかし、しかし、この妙齡の女史は妙齡十かりの美人（韓国語で「イムン」であり、雲岩トガブ寺で会った瞬間、中途半端な登山の憂鬱は消し飛び、私は最高の選択であったと自覚自賛した。数日間、木浦市の名所を案内してもらい、2人で食事・お茶などと、大変ハッピーな山旅を満喫した。

▲コースタイム▼

ケーシン里登山口（50分）チョンハン寺分岐（30分）雲上高橋（40分）サジャ峠（1時間）月出山頂上812計+雨のためあえなく下山路をとる（50分）バラン瀑布（30分）チョンハン寺分岐（40分）ケーシン里登山口

（参考）月出山頂上（1時間）クチャン峠738計（往復30分）磨崖如来像（1時間）バル峠+ウオンジエ分岐（1時間10分）トガブ寺登山口

奈良市高畑に頭塔を訪ねて

松永恵一

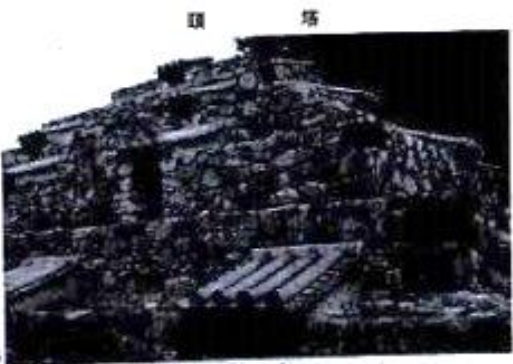
推測される。

奈良町を訪ねた時に見落としてはないものに頭塔（同指定史跡）がある。東大寺南大門の南約950m、元興寺の東に位置し、新薬師寺への道の近くにありながら訪れる人は少ない。頭塔南側の清水通りは、昔の風情を遺した狭い通り。古来奈良の名水地として知られ、清水寺と清水井戸があったという。水に関連した造り酒屋を始め、各種の唐舖が軒を連ねていた。

頭塔の名は、奈良時代の僧玄昉の頭を埋めた首塚との伝承から生まれたとされてきたが、土塔がなまって「ずとう」となり、玄昉の首塚伝説と一体になって頭塔と呼ばれるようになったと

推測される。東大寺二月堂の修二会「お水取り」を開始したことで知られる実忠和尚が、「神通景雲元年（767）に塔一基を新薬師寺の西野に造立した」と『東大寺要録』にあり、東大寺初代別当良弁僧正の命を受けた実忠が、国家鎮護のために仏舍利塔として造立したと考えられている。

頭塔は七段の土壇を重ねた四角形塔の塔で、基壇部は一辺約32m。全体の高さ約10m。全面を石積と石敷きで化粧し、奇数段には仏龕が穿たれ石仏を安置する。第一段五基、第三段二基、第五段一基、第七段一基、十一基ずつ四面で四十四基を整然と配していた。



奇数壇上面には東大寺創建期の瓦が葺かれ、偶数壇はテラス状になって石仏を参拜できるように考慮されていたのではないかとみられる。頂上には相輪を飾る木造瓦葺一重塔が建てられていたと推定され、頭塔は五重の仏塔として復元されている。木造の塔は各地にあるが、土築りの塔は珍しい。

頭塔石仏

四方に飾った石仏は、二十八基が確認されている。当初から露出していた十三基が昭和52年（1977）に重要文化財に指定された。発掘調査で十四基の石仏が発見され、うち九基が追加指定された。また南面上段にあったと思われる一基は、大和郡山城の石垣に転用されている。天平美術の香りを称えるすばらしい石仏は、いずれも花崗岩の自然石を使用し、二十五基の表面には浮彫や線彫で如来や菩薩などが刻まれている。

造形は多分に絵画的で、優美で親しみやすい。豊満でおおらかな丸い顔、堂々とした容姿、柔軟な衣文の表現も巧みである。

石仏の図像は、上方に宝相華の天蓋があり、下方に供養菩薩を配して三尊仏を刻むもの。樓閣を背にして三尊仏を配し、菩薩・比丘を加えた三尊ないし五体の群像を表すもの。如来座像一体の周圍に小仏を多数配置したものなどがある。

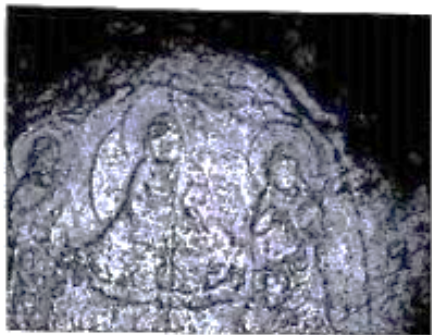
土塔

頭塔はインド起源の仏舍利塔に近い形で、木造の三重塔や五重塔を見慣れた目には、荒々しく異国的に映る。インドネシアのジャワ島のポロブドゥール遺跡をイメージさせられる。

日本の土塔は、他には大阪府堺市の大野寺土塔と岡山県瀬山町の熊山遺跡が残るにすぎない。

堺市中区土塔町にある土塔は四角形を呈する土壇の構造が頭塔と共通する。一辺は53m。十三段に築成され、各段の上表面は瓦で葺いている。聖武天皇の真い信賴を受けて大徳正に造らせた大野寺の寺域にあり、土塔もその頃の築造と考えられる。発掘調査ではおびただしい数の瓦が出土し、中には造塔の協力者名を刻んだ文字瓦も多く含まれていた。

土塔は平面積で比べると頭塔の2.5倍以上あり、築成された段の数も多い。築造年代も土塔のほうが古く、実は土塔を知っていたと思われる。



如来三尊像

コース概観

頭塔は土で築かれたエキゾチックな仏舍利塔。ピラミッド形の遺跡。日本のゴロブドゥールと呼ばれる。奈良時代の後期の天平の香り豊かな優れた石仏、東大寺英忠和尚との関係など仏教史上貴重な意味をもつ。年を経るに従って物語化していった、玄昉は法蘭の靈堂に八つ裂きにされたという時、奈良町の故蹟を牽しみ頭塔を訪ねてみた。

近鉄奈良駅から奈良交通バス1番のりば「2JR奈良駅(市内循環・外)」に乗り破石町バス停下車。バス停前のウエルネス・イン飛鳥路の奥に頭塔が見える。または近鉄奈良駅から奈良町を経て、新薬師寺に向かって東へ歩くと、福智院から春園酒造とたどると、左手にこんもりと茂った小丘が見えてくる。頭塔の脇の清水通りは、破石を通り春日山を越えて善多林や須山などの山中の村々への道(御生街道・純教の道)の入口であった。今も和菓子屋、造り酒屋(八木酒造)、産物屋などの店屋が並び賑わいある道筋である。

現地管理人の仲村表貞店のチャイムを鳴らす。「見字ですか?」と、気さくな感じのおかみさんが顔を出す。見字料200円を払い、パンフレットをもらう。「見字終わったら、また声をかけてください」。斜め前の神社の祠のような入口の鍵を開けてもらう。階段を十数段上がると、木々の繁茂した中腹に出る。左手に看板がある。五輪塔が並んでいる。間に如来三尊像。

昭和61年(1986)から12年間九次の発掘調査が奈良文化財研究所によって行われた。一辺約32mの方形石積基壇上に七段の階段状石積が築かれ、全体の高さは約10mであること。奇数層には石積上に瓦葺屋根が施され、側面に仏龕が穿たれ石仏が安置されていた。頭塔の内部には層数の少ない当初期の頭塔が残っている。下層頭塔は、一辺約32m、三重の塔身であったと推定される。東面第一段中央に大きな仏龕があった。復元されている上層頭塔の姿とはかなり異なる。さらに下位に横穴式石室があった。正倉院文書の「東大寺の南で行われていた工事でお基を破壊したので、その供養のために写経する」という記事の日付が天平宝字四年(760)。神皇正統元年(767)に英忠が造営した土塔は、上層頭塔であると推定される。

発掘調査の結果を踏まえて北半分を復元整備し、南半分は現状のまま保存された。七段の塔身に復元され、石積と石敷きで覆われ、仏龕の上には龍山

展示する石仏を直射日光等からを保護するために納室が設置された。平成12年(2000)、見字デッキ・解説板などが設けられ整備が完了した。かつての頭塔は自然そのままの雑木に覆われていて、草やスキの間にくっつかの石仏が顔をのぞかせていた。整備された頭塔は何かよそよそしさを感じる。

階段を上がった南側の小山のような感じで残っている所から左右どちら回りでもかまわないから、北側に回ると見字通路はウッドデッキのようになっている。北面通路中央には見字広場として屋根が掛けられ、解説のパネルを並べ、ベンチが施えられている。



四十四基の石仏は華嚴経の世界を表す立体曼荼羅。北面に弥勒如来、東面に多宝如来、南面に釈迦如来、西面に阿彌陀如来を配して、七段日には四面ともに盧遮那仏を置く。

土塔が損傷を受けたのは早かった。八世紀末に落雷。頂上の塔は焼失。石積・瓦屋根も崩落。「七大寺巡礼日記」は「十三重の大基」と記すが、木造の塔が焼失した後に建立された石造六角屋葺十三重塔もいつしか崩壊し、江戸時代につくられた五輪塔が今も頂上部に立つ。玄昉の首塚の伝承、古い石仏が草の間に隠れている。いかにも気味の悪いいわくありげな場所であった。

【史跡頭塔発掘調査報告書】は、瓦葺の上の塔という特異な構造物である土塔建設の理由をいくつか挙げている。天平宝字四年(760)は光明皇太后が病に臥し亡くなった年、娘の孝謙上皇が病快癒を祈って発願した。頭塔の位置は、東大寺の南北線と新薬師寺の東西線の交点に当たる。両寺とも皇太后に縁の深い寺である。神皇正統元年

(767)の再築造は、恵美押勝の乱を平定して重祚した称徳天皇が国家安穩を祈願して、百万塔の造像などと並んで行った、など。

夕方、頭塔の丘から西を望むと日没の逆光線が生駒山のシルエットを際立たせる。東大寺大仏造立にも関わった行基は天平二十一年(749)、西方の菅原寺で入滅し、生駒山麓の竹林寺に葬られた。天平の昔、土で出来た仏塔・下層頭塔は東に大きな仏龕があった。仏龕にひれ伏し、通か生駒の麓に眠る聖を礼拝しての幻想が見え隠れした。

- ▲コースタイム▼
- 近鉄奈良駅(25分・バス6分) 頭塔
- ▲地形図▼2万5千1 奈良
- ▲費用▼
- 近鉄難波駅〜近鉄奈良駅 540円
- 近鉄奈良駅〜破石町 180円
- 頭塔見字(9時〜17時) 200円
- (問い合わせ先)
- 頭塔現地管理人・仲村表貞店
- ☎0742(26)3171

山の地名を歩く ④

妹背山 (二)

西尾 寿一

広瀬港は誰もいない静かな所だった。渡船の午後の便は母島港から広瀬へ廻ってくるのだが歩いてみたかった。1時間半かかって右に山、左に海の風景を見て行くトレッキングは悪くないし、時々高く妹背山の連山が新緑に包まれて立派に立ちはだかっていた。

江戸時代、母島と広瀬は対立して仲が悪かったという。それは政治の問題であった。土佐と宇和島の支配する接点で、この離島の生活にも及んでいた。時として意を決して新天地を求める賭けに出る可能性があったのである。

誰も通らない誰にも出会うことのない妹背山を歩いてみて、山の中腹まで開拓し立派な石垣をめぐらせた壮大な規模の棚田が維持者を失い朽ち果てる姿は、宇和海に面する半島の村々も共通のものが感ぜられた。

「耕し山頂に至る」のが普遍的な山島の姿であり、生産者を追いつめてゆく政治の姿でもあった。妹背山という単純に見える地名の一つにも、「姥捨伝説」にも似た人の生に関する奥底にひそむ魔性のような恐怖が存在する。

無人島(場)への憧憬は生活苦からの脱出という一面をもつが、その根底に南島における「ニライカナイ」の信仰や「常世」が海の彼方の理想郷として信ぜられたのは自然の成り行きでもあった。

北陸路の今は忘れられた湯尾峠の旧道を時代をしのびながらたどると芭蕉の句碑がある。

「月に名を包み兼ねてやいもの神」(筆者傍点)の「いも」は「抱瘡」の古

名で「いもがさ」とも言われて恐れられた伝染病だった。

奥には「孫嬪子神社」の祠があり、抱瘡除けの護符を求めて江戸時代には特に参拝が盛んだったといわれている。イモは「妹」の他に嫌われる抱瘡の名でもあり、鍛冶・鋳物(師)などとも言われるので、イモの字を使う地名には注意が必要だが、その所在地の地形風土から理解を進める必要がある。湯尾峠など、峠や村境界などに位置する場合は、ほとんどが「抱瘡」の侵入を防ぐ「毒の神」の役割があったものとみてよい。

全国の峠に「芋」が多いが、特に大和には多く、吉野へ越える峠に「芋ヶ峠」がある(「妹峠」とも言う)。この峠は明らかに抱瘡の侵入を防ぐことを意識したもので、さらに「細峠」「芦原峠」も抱瘡神を祀っている。

大和の地名学者池田末則氏は、福原市久米寺東方に「芋洗いの芝」があり、「一口をイモアライと称すのは「忌破い」

であり、村の入口は「一口」でもあって、「一口をイモアライ」ということを「飛鳥地名紀行」の中で語っておられる。また江戸の「一口坂」は築城の折、太田道灌の娘が抱瘡を患ったので京都から「一口の神を勧請して「一口坂」と称したものである。

大和の厳しい抱瘡防衛の前線はさらに南下して吉野川辺に及ぶのである。吉野川の右岸、津風呂湖の放水川が合流する所に河原屋がある。その先端に「妹山」(260m)があり、対岸に「背山」(272m)がある。小さい古墳状の小山に過ぎないが、原生林が保たれ「忌山」となっている。これも抱瘡対策の最前線というわけだ。妹山の前の河原は藪場で「忌瀬」であるとい

う。吉野川の上流から進入してくる悪神をここで断ち切りたい願望が滲み出ている。「日本の神々」(白水社)によると、妹山の山麓には大名持神社があり、大名持命・須勢理比咩命・少彦名命の三神があるが、後者は後世に合祀されたものらしく、創建時代は明らか

でないが九世紀には正一位の位を受けられたことは破格の扱いで理由は明らかでない。

「妹山」の樹叢は天然記念物に指定され、常緑広葉樹が茂って見事である。対岸の「背山」は「妹山」の対として考えられたものらしく、独立峰ではないが、吉野川のこの一帯には今日でも数々の年中行事が保存されている。

吉野川の妹背山は分割されて川の兩岸に存在することになったが、これは吉野川そのものを通路として認めたい意味だと思う。街道も人の流れがあるのなら、川そのものも通路として昔から機能していたとみるべきだろう。

吉野川にはさらにもう一対の妹背山がある。

高野山のさらに下流、かつらぎ町のものは吉野とは逆に右岸に「背ノ山」(168m)左岸に「妹山」(124m)が対となっている。地名が残されていないと気づかないほどではあるが、これも吉野と同一の役割をになっていたものと思われる。

この妹背山は大化改新の詔には「紀伊兄山」と記され、畿内南限とされた。吉野川が海に注ぐ和歌浦の東に小さな妹背山が見られる。わずかに14mの小粒ながら土佐から一直線に東に走る妹背山のラインは、誰が見ても何かがあると直感せずにおかないものがあるが、前出の畿内の南限のラインが意識されていたのかも知れない。

このうち、紀州の妹背山について「大和名所図会」には、「古人名所の所在地の園をとりちがえたのでは」と指摘し、「古今の歌にあらず」と断ずるのだが、妹背山の役割は、風暴の名所ではなく、悪霊等の進入防止の塞の神なのだから時代と共に評価されなくなり、開発されて忘れ去られる運命にある。

こうしてみると、全国の特に西日本には抱瘡対策など忘れられ、全く痕跡を残さないものがたくさんある。比較的残されている「毒の神」や「道祖神」にも「悪神」追放の役割も当然のこと

とあって、時々その祭祀場に疱瘡の神が残っているのである。

疱瘡の神の特徴は病が元治したときに廃棄される性格のもので、吉野の場合のような当時の国家レベルで祭祀され恒久的なものは稀であった。そのことは、時として忘れられた頃に流行する疱瘡に対して各地の流行地から代表者がやってきて、先に述べた湯尾峠の社や吉野の社へ「護符」を受けに参上する仕組みになっていたものとみえる。それは干載の折の謂雨の難いも飢饉や災害にも一定の役割をもつ特定の社へ参拝するのと同様であった。こうして時の社会的な要求は行政の力量を越えており、これを各村民間信仰によって支える仕組みができていたようである。

ではなぜ疱瘡の「イモ」が、妹山、または芋峠となるのは理解されるとしても、「妹背山」となり、男女一対のものとなるのか不思議としなければならぬ。特に「背山」の役割について

山のレポート

「籤法ヶ岳」が「懺法ヶ嶽」に改称された理由

柴田 昭彦

大福山の東南東700計(6町余り)に位置する381計峰は、平成19年に至るまで、『紀伊国名所図会』に従い、「籤法ヶ岳」と地形図に記載され、和歌山市役所作成の地名訓書に従い、「くじぼう」とルビが添えられてきたが、本誌57号の随想「籤法ヶ岳」山名考で示したように、本来は「せんぼうがだけ」または「せんぼうがたけ」であった。

『日本国語大辞典』『広辞苑』『大辞林』や、多くの漢和辞典、仏教辞典にあるように、「せんぼう(せんぼう)」の漢字表記は「懺法」であり、「籤法」

は疑問が残る。

妹背山を一躍有名にしたのは人形淨瑠璃「妹背山婦女経訓」であり、特に三段目に妹背山が登場してくる。遺恨のある両家の若者の恋に悲劇的な最後を迎えることになるが、シェークスピアの「ロミオとジュリエット」にもよく似た話だ。明和八年(1772)1月大坂竹本座初演で人気を博したと伝えられている。

この話に人形浄瑠璃の領主と、紀伊国青山の領主として両家の親が登場する。作者近松(復讐)が当地を訪れてイメージを拡大させた結果であるが、両山は目と鼻の先である。その間に吉野川が流れているから、作家の着眼点の凄さには脱帽する。

先に妹山の吉野川辺に「忌瀬」があり、磯場であると言ったが、悪神を吉野川の清流で清めて流す心理的装置に定着したのち、忌瀬と妹背に転じた可能性もある。

つまり「イモセ」は言霊信仰と語呂

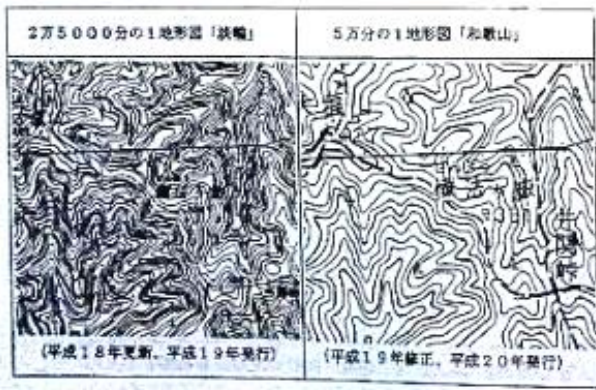
という言葉はない。

『日本山嶽志』『紀伊統風土記(第一輯)』『和歌山縣海岸部誌』を調べてみると、「懺法嶽」「懺法ヶ嶽」「懺法が嶽」という正しい表記であった。

『懺法』は、『紀伊国名所図会』巻之三(文化八年、1811年)の作者、高市志友がただ一人採用した誤字であった。大正6年発行の5万分の1地形図「和歌山」(明治43年測量)に「籤法ヶ嶽」がそのまま採用され、平成19年発行の2万5000分の1地形図「淡輪」(平成16年更新)で初めて「懺法ヶ嶽」に訂正されるまで、90年にわたって放置されてきた。

381計峰は「懺法ヶ嶽」である。その西140計に位置している370計峰は「兎の松」のあった場所だ。『紀伊国名所図会』に「谷行」という謡曲が紹介されている。ここは「懺法ヶ嶽(兎の松)」と呼ぶのがふさわしい。

ここでは、右記の内容を裏付ける資料を提供して、読者の便宜に供したい



と思う。なお、日光修行僧がかつて参拝した鳴虫山の別名は大懺法嶽である。

合わせの習俗によって拡大したのではないかと考えられる。『わが国には古来「忌み名」(タブー)があつて古代社会にも地名の好字化の政令が出されている。悪い名は使っていないうちにその方向に至る。と考えられ、有名な所では芦田が吉田へ、植物の葉がヨシに読み替えられたりした。同音異字は好む方へ移動し、特に人名などは美称ばかりとなる有様である。古代中国で行われた実名敬避の習俗はわが国でもあり、複数名を持つ神や偉人は多い。

疱瘡(いもがさ)のイモを妹・芋と表現するのはその慣習によるもので、さらに古代から伝わる妹背の伝承をもつ南島から東進した移住者達によって語呂合わせのような習合が行われたのではないかと考えている。

近畿の妹背山は登る山ではなく、神奈備形の美しい姿を見て、日本歴史を概観してみる場所なのかも知れない。

＜地形図の表記の変遷をたどってみよう（誤記されてきた地形図）＞

※「巖」は「巖」の異体字・略字。「くちほう」「981」にはあきれる他はない。

2万5000分の1地形図「淡輪」	5万分の1地形図「和歌山」
(大正11年測図・同15年発行)	(明治43年測図、大正6年製版・発行)
(昭和42年改測・同44年発行)	(昭和43年編集・同53年修正・発行)
(平成10年修正測量・同11年発行)	(平成15年修正・発行)

*掲載した地図は国土地理院（およびその前身）発行の地形図を複製したものです。

△「懺悔・懺悔法（せんぼう・せんぼう）」とは、どんな意味・内容なのか？

（※「懺」は「懺」の異体字・略字。懺法（せんぼう）は「せんぼう」とも読む）

せんぼう 懺法 仏教における懺悔のための修行法。また法会の儀式としても用いられた。悔過、懺悔ともいい、礼賛や発願を加えた礼懺懺、懺願懺などもある。（中略）日本では、ふつうに懺法といえは法華懺法をさす。（法華経）の教にもとづいて六根清浄をおがう修行法である。（中略）民間にも広く修された。今日登山のときに、「さんげ、さんげ、ちっこんしゅうじょう」ととなえるのは、霊山登拝のさいに身心を清めるための前行として懺法が修されていたことである。

△「世界大百科事典 第18巻」1972年版、平凡社、165頁）

さんげ 懺悔 △懺はサンスクリット語のクシヤマ Kshama（懺悔）の音訳の略で、人に許しを請う意味。△懺はその意訳で、懺悔とはサンスクリットと漢語とを合成した語であり、仏教

語としては八さんげとよむ。（後略）
△「世界大百科事典 第12巻」1972年版、平凡社、423頁）

修験懺法 しゅげんせんぼう 天台宗の「法華懺法」をもとに編まれた修験道で懺悔滅罪のために唱えられる経。（中略）その内容は、まず三宝を三礼し、供養文（願仏三昧経）をあげる。次に三釈迦をはじめとする十方諸仏・三世諸仏・法華経を中心とする諸経・法華経所縁の諸菩薩などを敬礼し、法界の衆生の三障を断除するように祈念する。そのうえで修法者の眼・耳・鼻・舌・身・意の六根がおかした罪を懺悔する。そしてさらに十方の諸仏を勧請し、降旨し回向する。こうして六根を浄め、浄菩提心を発した修法者が六波羅蜜の修行をして解脱し成仏することを発願する。そして十方念仏後、文殊菩薩が釈迦から身・口・意・寶願の四安樂行に住して経を説いて衆生を成仏させるよう導かれたことを記した法華経「安樂品」を誦誦する。その上で今一度十方念仏をし、後頌・三礼・七

仏通成願をとなえて終るといふ順序になっている。このように修験懺法は、法華経の功徳により罪障を消滅し、ひいては成仏をはかるものである。
△「宮家華編『修験道詳史』東京堂出版、昭和11年、189頁）

△懺法ヶ嶽の370峰にあって「見の松」にちなんだ謡曲「谷行」とは？
『紀伊国名所図会』の「兼法ヶ嶽」の項目に、謡曲「谷行」が載っている。謡曲の内容・・・熊野で修行している山伏のもとで、松若丸という子供が修行していたが、子供の父が亡くなり、母のもとに戻った。峰入りの修行の前山伏が訪問したところ、病床の母に質問されて、修行は厳しいので子供には無理だと答えたが、松若丸はお供したいと山伏に峰入りの希望を伝えた。修験者の間には、修行中に病やけがで動けなくなれば、谷行といって、峰の上から谷底へ投げ捨てるきまりがあった。厳しい修行に耐えられなかった松若丸は苦痛と疲労によって、動けなく

< 雑文献に見える、備法ヶ嶽（せんぼうがたけ）の表記の違い（抜粋） >

○高市志友編述『紀伊国名所図会』巻之三（文化8年、1811年）
（原田幹校訂、大正10年）

備法ヶ嶽
備法ヶ嶽より東に
備法ヶ嶽より西に
備法ヶ嶽より南に
備法ヶ嶽より北に
備法ヶ嶽より東に
備法ヶ嶽より西に
備法ヶ嶽より南に
備法ヶ嶽より北に

備法ヶ嶽
備法ヶ嶽より東に
備法ヶ嶽より西に
備法ヶ嶽より南に
備法ヶ嶽より北に

備法ヶ嶽
備法ヶ嶽より東に
備法ヶ嶽より西に
備法ヶ嶽より南に
備法ヶ嶽より北に

備法ヶ嶽
備法ヶ嶽より東に
備法ヶ嶽より西に
備法ヶ嶽より南に
備法ヶ嶽より北に

○仁井田好古編

『紀伊続風土記 第1輯』

（天保10<1839>年完成）

（明治43年発行）

備法ヶ嶽
備法ヶ嶽より東に
備法ヶ嶽より西に
備法ヶ嶽より南に
備法ヶ嶽より北に

○高須 式 編纂

『日本山嶽志』

（明治39年発行）

備法ヶ嶽
備法ヶ嶽より東に
備法ヶ嶽より西に
備法ヶ嶽より南に
備法ヶ嶽より北に

○『和歌山縣海草郡誌』

（大正15年発行）

備法ヶ嶽
備法ヶ嶽より東に
備法ヶ嶽より西に
備法ヶ嶽より南に
備法ヶ嶽より北に

○備法（せんぼう）ヶ嶽
370m峰（児の松跡）



（備法（せん）ヶ嶽ヶ嶽 標柱）（381m 地点の標った説明板）（備法（くじ）ヶ嶽ヶ嶽 標柱）



○備法（せんぼう）ヶ嶽
381m峰（最高地点）



なり、山伏連によって合行が行われ、松若丸は谷底に消えた。山伏の悲しむ様子に、昔、涙を流し、松若丸を役行者のお力によって、よみがえらせようということになった。山伏の祈りは役行者に届き、親孝行の行者である松若丸はけがもなく、無事に引き上げられ、昔は役行者の大恩に深く感謝したという。

（参考文献）

- ・『紀伊国名所図会』巻之三
- ・山元六合夫著『歌南市誌 一「根が子に新る歌南市の歴史」と民俗・歴史・地理』
- （近畿出版印刷、平成13年、88、92頁）
- （参考）
- ・1万分の1「和歌山市全国3」によれば、備法山380・7mの西140mの等高線は370m。
- ・2600分の1国土基本図「大福山」（和歌山市）によれば児の松跡の地点の標高は370・4m。

かくれた苔跡の尾根 天神山から文室山

一般コース(★★★)
長宗 清司

JR木ノ本駅から中河内行ききの湖国バスに乗り、東野で下車。西方へ国安集落に向かう。

氏神の天満宮(現音四神社)は集落の北外れにある。膝ヶ岳の戦の兵火にかかり、記録・宝物などは焼失して、経緯は未詳だが、菅原道真が合祀されている。鳥居には、薙でなく金糸の合成繊維製のノ縄が張られている。

新でた本殿の右下に下り、獣除けネットの出入口から裏山に登る。緩斜面をしばらく雪の混じるササを分け、登りつめると少し平らな所に出る。積雪期では不明瞭だが、小さな曲

輪や溝がきちんとあり、ここが苔跡とわかる。茶臼山頂、四寺三角点209・1計の標石は、土壁・筋掘を越えた草深い平地にあった。

難増状に曲輪が高みに向かっていくつか越すことに雪量は増すが、ササをすっきり押さえているので歩きよい。サクサクと心地よい雪の感触。時々吹き抜ける微風が頬をなで、顔の汗が消える。一度シカの鳴き声を聞いただけで、物音一つしない静寂の白い別世界。

積雪が60cm以上になると、無積期には樹木の枝葉で透らされていた下界の景色が、梢越しに眺められる。遠くには白冠の山並が望める。

緩勾配の支尾根を両側の変わりゆく景観を眺めつつ登ると、立木がまばらな平地に出た。天神山である。比良最高峰の武奈ヶ岳が望めた。

天神山には、天正十一年(1583)膝ヶ岳の戦の折、羽柴秀吉方の幸田勝豊配下の木下一元、山路止戦、大將藤八郎らの笈が築かれた。しかし、北にそびえる行市山には、敵方幸田勝家の家臣佐久間盛政の

天神山頂上付近の積雪(60cmはあった)



跡があり、あまりにも真下で、容易に動きをさとられることから、一つ南の尾根の堂山の縁まで後退した——
天神山はやはり苔跡らしく、難増・防壁が雪下でも何となく確認できる斜面や平地。夏期はおそらくクマザサが胸元あたりまで繁っている様子がかがえた。

順調に主尾根に出た。この支尾根をC状弓形に池原と文室の集落を結ぶ林道が、主尾根上を南北に縦走している。文室山の頂上三角点534計は、林道を越えた少し西にある。このあたり、「膝ヶ岳の合戦の折には、北軍の武将前田利家親子主従も通過した」と文獻に載っている。

下山は、地図上で見る南西方向に、中腰まで伸びている林道を目指してやせ尻根を急下降する。うまい具合に左

側の足下に林道を確認して、最後は側り取った林道の法面を滑るように降りて林道に立つ。

林道にはまだ40cm程雪が残っていた。土道に比べ舗装路は湿度が低いのか、日の当たる所でも積雪が解けている様子がなく、余の集落に出る手前まで雪の深さは変わらなかった。時々、獣が行き来しているのか獣道がいくつも林道を横切っていた。人の気配は全く無し。



余集落に入り、JRのガイドをくぐって国道9号に出て、100m程南の近江塩津駅に着く。
なお、時間と体力に余裕があれば、集落の南西端にある古刹に立ち寄られることをお勧めします。
この正応寺は、曹洞宗(本山永平寺)の格式高い寺で、永

平寺から移築されたと伝わる山門は、二階が鐘楼となり、ひととき勇壮な構えを誇る。鎌倉時代の観音菩薩が安置されていて、近江三ヶ寺の古刹として名高い寺である。また新田義貞とその兵の墓が位牌を刻んでいる。
(平成20年3月8日、4月1日歩く)

- △コースタイム▽
- JR木之本駅(バス15分)東野(30分)国安集落(草間神社)(20分)三角点(1時間10分)天神山(1時間)文室山三角点(30分)林道(40分)余集落(10分)JR近江塩津駅・正応寺(往復10分)
- △地形図▽2万5千5木之本(調い合わせ先)
- 湖国バス ☎0749(22) 12210
- 伊香交通タクシー ☎0749(88) 0035
- 木之本観光協会 ☎0749(82) 4111
- 内浅井町観光協会 ☎0749(89) 0531

露岩からの大展望

行者山

一般コース(★★★)

藪木 伸人

行者山へは、その目立った山容を見て、また山上からの展望の良さを知ってから、ずっと登って見たかった。類書で紹介されている一般的な坂津からの登路をたどることにした。

5月18日、終日晴れの予報ではあったが、はるか南海上の台風4号の影響が天気は白っぽく見えた。9時15分に松阪を発って国道42号線を南下、10時半に登山口に着く。この間約50分。四、五台置けるスペースに駐車し、案内板を見ると、登り約1時間30分、下り約1時間とある(私達のタイムは各10分長くなった。山上の行者像についての解

説も記されている。

「寛政11年(一七九九)、光格天皇により修験道が認められた。山岳信仰が盛んになるとともに吉野・大峰・熊野の山々をはじめ、各地の山が霊場として修行の場となり、役行者像も各地に祀られるようになった。行者山が修験道の修行の場になっていたかどうかの記録はないが、現在でも各地から多くの人々がおまいりしている。山頂の祠には、僧衣をまとい、長いひげをはやし、右手に錫杖、左手にお経の巻物を持ち、高下駄をはき、岩に腰掛けた役行者像が祀られている。」

右手にある階段を少し上ってから、植林下の道を進む。コガクウツギ・タツナミソウの花が咲き、南の山らしくハスノハカズラ・イズセンリョウ・ギボウシランも見られる。地面に瑠璃色のセンチコガネが歩いていていた。

支尾根まで20分。「行者山70分」の標識に従って左へ登る(下りの際は直進しないように気を付けよう)。そこから照葉樹の落ち葉を踏んで7分程登ると

叢生した姿が印象的なヤマモモの古木に出会う。太い幹が10本以上頭上のにびて樹冠をつくっていた。

さらに支尾根を登って行くと露岩も出てくる。右に捲くかと思いきや直登

の道が付いている所や、直登かと思えば左に逸れている所がある。いずれにしても尾根上から外れなければ問題ない。



途中、45度位の急斜面もあるが、頑張って登れば稜線に至る(私達は登山口からここまで1時間かかった)。山頂へは左に向かう。「坂津登山口へ850m」「行者山760m/合流点/高尾口1450m」という指導標が立っている。少し汗ばんだ体に、5月の風が心地好い。展望は無いが、頂に近づいているという実感は嬉しいものだ。緩斜面ではつい足早になってしまふ。いつも私の見落とした花を見つけて教

えてくれる妻が、この時も私を呼びとめてギンリョウソウを指差してくれた。目を凝らすと、あちこちに咲いている。稜線に出た地点から西へ8分程の所に「水岩展望岩」の標識が立てられ、柱の部分に「往復10分」と書かれている。示された方を見れば、かなりの下り坂である。帰りに立ち寄るかどうかは天候次第と考え、そのまま山頂目指して進む。ちなみに「点の記」に記された登路は、向駒から元町界尾根を経た、この地点あたりで稜線上に達している(駒ヶ原林道より約20分、1時間40分で三角点に至る旨の記載あり)。

登路脇の樹林間から鏡を覗き込んだり、ミヤマシキミの青い実やモミの落果を見つたりしながら進んで行くが、足も疲れてきた。思いのほか頂上は遠かったが、12時15分、ようやく行者祠が見えた。すぐ先に三等三角点(標高867.74、点名「行者」)も立っている。南側の展望が広がる露岩に腰を下ろし昼食をとる。

快晴なら熊野灘まで見えるようだが、





モチツツジ咲く展望台

今日は生憎白雲が多い。しかし、眼下を蛇行する大内山川を眺めていると、登った達成感がわいてくる。食後、山頂西側に行ってみると、三角点よりもさらに展望の開けた展望台になっており、

「ちょっと食事すれば良かったなあ」と話した。岩の周辺には、登山口案内板に紹介されていたシヤクナゲが茂っていたが、少しだけ付いている花は、ほぼ終わっていた。傍らの立木に白ベシキで「向駒」と書かれている。矢印の方向から推測すると、山頂部を北から西、南へと登るながった。日曜にもかかわらず誰にも会わなかったと思ってい

車での帰途、仮号線に出る大内山川の橋の上から行者山を仰いでいた。ちよと紀勢本線の下り列車が山懐を通過していった。山中ではミツバツツジ・アセビ・ネジキ・ヒメシヤチなどの樹があったが、花が咲いていたのは定期的に、もっぱらモチツツジだった。なほ、行者山周辺の見所としては、笠木溪谷(不動滝)、大紀町役場前(出張所前の彼岸れ塚(3月末、4月初旬)、大平つつじ山(4月下旬、5月初旬)などがある。

(平成20年5月18日歩く)

▲コースタイム▼
 阪根登山口(20分) 支尾根(40分) 破
 線高尾分岐(8分) 水岩分岐(32分)
 行者山(30分) 高尾分岐(40分) 阪根
 登山口
 ▲地形図▼2万5千1間号・吉和浦
 (同じ合わせ巻)
 大紀町役場前工観光館
 ☎0598(86) 2243

やせらび

山に関する最新の情報を随時お寄せください。
 三行以上記載、即行掲載です。掲載用紙下部に「自分の全日番号・氏名をお書きください。掲載に上の掲載できないことがあります。」

福字 小林環三

2008春の花探訪
 4月5日、堀波峠から観音岳を往復。一株だけだったがヒメスミレの開花株に出会えた。家に帰って写真を見せたら、「アノソウヤナ」(「葉が逆うやろ」)岳を往復。ヒメグンツツジとイワカガミが満開。小1時間。あきずには横たわり写真撮影したり。福永山の尾根に吹き渡る山風が望めた。

芽は付いていなかった。母凌、立ち切った松原町市内の登山で三輪の開花を覚で潮飲を下げる。5月4日、伊吹北尾根。今年のカタクリは控え目な開花だった。代りにサンカヨウやレイヨウザタンが、昨年より早く咲いていた。山頂付近のどこまでも咲き続くアリンソウは旺盛。アマナは日が暗くなったためか、閉じている花が多かった。ヤマエンブツツジの花色も赤茶く空色と個体差が大きい。

カルストの山上にキノコが姿を見せて時折折っていたのに驚いた。(松阪市 藤木伸人)
 楽しかった。
 5月1日、久し振りの岩野郡(津原を歩く)に新堀。長崎から靴子口までのロングコースだけど、体面いっばい。お新分けいっばいの素晴らしい山行だった。家から東合場町の紅葉尾まで、はる長崎を遊んで2時間。いつか時で休憩しながら他しらすえをする。取っ手が傾斜を滑りて美しい。朝露も傾斜を受けて七色に輝く。
 杉峠までの千種街道は大木のオンパレード。首が痛くなるほど見上げては写真を取りパチリ。きれいな水に手を洗し山に離れた前びをかきしめる。杉峠の頭からは熊野・雨乞・御在所、奥近の大展望が広がる。思い出の山々が進むから足を止めて深呼吸。「きれいなえ」と近くの人に話しかけると、「ほんとう、きれいなえ」との返事。心通うひとときに喜びも倍増。

イブネ・チヨウシ・角くぼ・大輪・鏡子口は思い出のコース。それに、水舟の池が加わり、今回の山行に花を添えられた。幹線の主幹を眺めながらの歩きは本当に楽しかった。お天気に恵まれ仲間にも恵まれ、笑顔の一日だった。
 (大野市 小田抄子)
 4月末、遊覧虎尾町にある虎尾山(2247)を縦走して来た。
 難田信長が浅井長政の籠る小谷城を攻略するために野を駆け、たこと有名な山であるが、私には、10年前に小谷城址を訪ねて山王丸へ上り、さらに小谷山頂へ登って清水谷をくだった時以来、念願にある山だった。
 先日、北國臨津渡を案内とウオークしたから、せっかく近くまで来たのだからと山下丸まで往復したが、その時改めて虎尾山に注目したのであった。
 その後、依頼した虎尾町から詳しい地図などが送られてきたので、ついに長年の望みを果た

した。

戦史では、興味深く読者の脚跡地や四方の展望を眺めたが、特に印象に残ったものを記して見る。

まず、JR虎御前駅構内の歩道橋から見渡した虎御前山と小谷山の相対する展望を取り上げた。虎御前山に登り出して最初に注目したのは、「雄尾根懸陣跡」からの小谷山の眺めである。そこから見下ろされた展望台へ寄った所、虎御前山の最高所近くにあるNTT鉄塔と小谷山が眺められた。また、北西に山本山から眺ぐ丘も見渡したのだった。鉄塔前に到着してから、「滝川一休陣地跡」碑の背後へ、厚く積っている落ち葉を踏み締めるながら登り、三角点も確認したのである。

その後は下りが主体となるが、「藤田百段陣地跡」「伝木下善吉磐跡」「伝藤田傳家跡」を經由して車道へくだり、右に小谷山、左に虎御前山を廻り廻りながら歩いて河毛駅に到着。駅前立っ長政・お市の像を眺めて

終了とした。

虎御前山は、室町幕府時代に八州山と呼ばれた伝説で、足利尊氏と義隆の兄弟が戦った歴史もある。由緒のある山なのに登山のためか、近畿の山に開する本で探り上げているものは見当たらない。分岐登山ガイド「雄尾根の山」(山と溪谷社)にすら、小谷山は記述されていない。虎御前山が探り上げられていないのは不思議な気がする。

(敦方市 東谷 宏)

今年6月、三千山登頂を達成した。高校生時代から山登りを始めて40数年かかったことになる。北は北海道から南は沖縄まで、全国の各都道府県に足を運んだ。

かつて、今西園司氏にお会いしたときに、「先生が千五百山なら、私は約三千山に登る」と豪語したことがあった。年に百座以上に登り、自慢会で西尾壽一氏と東西の横綱を分け合った年もあった。今西先生が言われたように、山の数と登の塊は

叩けば叩くほど出てくるようだ。

近畿一円では、登る山が滅んだが、関東以北や九州の山にまだまだ未踏の山が数多く残っている。これからも、ぼつぼつと登って行くつもりである。

一千山の築について、三千山の築を編集し、年内には発行して配布する予定である。

いろいろな方にお世話になり、方々の山に登ることができたのを感謝しています。

(大東市 阪上真次)

6月2日、岐阜県関市飯取地内のゴンニャクに登った。登山道コースは、岩本奥から岩本洞に降り林道を走り、ワナ谷を過ぎカサネの林道終点まで車で入った。林道は地道ながら走りやすい道であった。

林道終点から左岸の植林のための粉砕をたどる。間もなく植林道を過ぎ、自然林へ入って踏跡は細くなる。岩屑の崩れや古い急坂を右側尾根を目標してひたすら登る。やぶは全く無い。1時間程で陣取に出た。そこは

た。

5日、口三方岳に行った。タムシバ・オオカメノキ・カタクリ・チゴユリときれいだ。山頂までは雪が多く、道がわからなかった。山頂の足跡らしは良く、昨日行った茨ヶ岳、そして大笠山・奈良岳・赤坂木古山・大岡山・猪ヶ山・大籠山・三ツ山・中三方岳と比からの眺めが良かった。

6日、富山山近くの近江カルスト花の道を訪ねて、春の花をたくさん(70種程)見た。

11日、大嵐山に別会で行く。雨の後で足跡らしは傾斜したが花は多かった。山菜は別の所で採取した。

17日、小笠山に行くも、山頂部は雪だった。蔵は見事で、アカヤシオが多かった。

18日、三重の一等南赤山と松阪の一等大穴尾尾を訪問した。大半尾尾は4.5分ほど日本でも六番目に低い三角点だ。

24日、関市の粉尾山山に行つて、シライソウ・カネノハゲサを見た。

ワサ谷とカサネの間の展望、77の好付道と思われ、この尾根は勾配もゆるく、やぶも全く無く、どこでも気ままに歩ける。道の無い山で、こんなに歩きやすい山は始めてである。カサネの谷を登るよりは、はるかに楽なコースである。しかも余山落葉広葉樹林で、緑したたる新緑は何とも言葉が詰まりを演出している。コースはゴンニャク西尾根に至り、ここから少しはやぶもあるが、たいしたことはない。最後はゴンニャクまでひと登りであった。高齢者で単独行の私としては、久しぶりに手に入れた快挙であった。

なお、大ゴンニャク110村へは、大原谷沿いの林道を走り、900坪の柿を植えたいと進行し、法面工事のため進行止のバリケードが出現する。ここから大ゴンニャクは指呼の間に望まれる。この小さいオオ谷左殿をやぶを分けて登れば腰線に達し、大ゴンニャクに登れる。ただ、中程度のやぶ漕ぎはしなくてはなるまい。

25日、御池面に行くも前日からの雨で滑るし、ヤマビルも出て早退し下山。昨年見つけたエビネはきれいに咲いていた。

31日、花初山に行くも雨が降って苦戦した。イワウチワが多かったが花は終わっていた。

8月1日、獅子ヶ峰に行くも初雪から初雪の花が多く見られた。約50種、目の前に別山が見えて足跡らしも豊満に良かった。

7日、例会で大笠山に行き18人が参加。三方山山より三割はまつい山だ。

8日、人形山と三ツ辻山に行く。三山其花が多く6種を超えた。

14日、毛勝山に行く。2年前と同じくらい雪はあったが、山頂は雪が少くない。見晴らしもまずまずで、細・立山・波立山・津山がよく見えた。

15日、一等の御谷山に行つた。ワラビとネマガリタケが多く採れた。毛勝山・鶴又山・赤谷山は良く見えたが、雨はガッパって全体は見えなかった。

(海津市 山田明男)

カサネ林道終点からゴンニャク山頂まで登り3時間程であった。地形図は上ヶ原(2.5万5千)を使用。(7尾市 山本和夫)

2年程前、香取ヶ丘の東口ゲート手前から左に入ると林道に出た。その横に池があり、手前は小さな温泉で、左の池道にも左右に池があり温泉が続く。見るとハッチョウトンボが飛んでいた。びっくりにして時々見に行っている。サギソウの花の時期まで見られるので、サギソウの花に止まったハッチョウトンボを撮っているが、なかなかうまくいかない。

99号「せせのやま」で観山の「やまのあな」について書いたが、取付の止場の下の池道になつている。秋になって6月初めに行ってみると、イトトンボとハッチョウトンボがいた。新産卵だつた。

6月中旬、観山の北西須田集落の手前「やすらぎの郷公園」から地蔵橋、観山へと登り、ツツナミソウ・ササユリ等の花を

楽しんだ。安土山へと向かう階段を下りると、一本に七つの花を咲かせたササユリ一本に二つは先端で六本の枝に分れ一本には二つの花だ。三つ四つの花は見つが、七つの花のササユリにはびっくり飛天した。途中から右の遊歩道を須田に下りた。

帰る途中、道路のすぐ横の左山側に温泉がある。気にならないうたので入ってみると、ゆるいぬれにはモクセンゴケとミミカキグサの群落が続く。白と黄の小さな花が咲き誇っていた。そしてハッチョウトンボとハラビロトンボが飛び回っていた。ここは広くてかなりの数があるようだ。また新発見で、車が通ることな身近な所にと改めてびっくりした。

(近江八幡市 岩野 明)

5月3日、御池面に自然観察会で行き、花は60種程見られ、新たな種も確認した。

4日、安土山に行く。快晴で見晴らし良かったが、雪は少なかつた。タムシバがきれいだった。

歩き遍路の独り言

— あなたも歩ける四国遍路みち 1200キロ —

A5判・176頁 定価1200円(税込)

後藤 典重 著

私は「歩き遍路」を十八年五月に終えて、歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめました。歩かなければわからない四国の素晴らしさ、地元の人々との関わりを通じた体験・体得を多くの方々にお伝えできればと思い、出版しました。

四国には、人との会話、心のふれあいなど、今忘れられている心暖まる貴重な何かが残っており、豊かな心の旅になりました。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 第1回 おへんろを知る歩行の苦惱旅 | (第1~23番) |
| 第2回 土佐人の心に触れた喜びの旅 | (第24~36番) |
| 第3回 登攀を体験し、克服した努力の旅 | (第37~40番) |
| 第4回 紅葉を楽しみ、歩行を見直す旅 | (第41~59番) |
| 第5回 早春に芽吹きを求めた触れ合い旅 | (第60~83番) |
| 第8回 新緑と花の美しい結願・感激の旅 | (第84~88番と高野山) |

その他、歩くための参考になる四国遍路の歴史・コースタイム(距離・時間・歩数等)・宿泊先一覧(住所・電話)など必要な資料を掲載。

「遍路とは」「お接待とは」何か?と疑問に思う方、また四国遍路に興味のある方、そして「歩き遍路」を実行したい方は、是非お読みください。四国遍路を発心されるよう念願しています。

●本誌の振替でのご注文は送料当社負担

新ハイキング関西

〒610-0121 城陽市寺田大幹10-10 TEL/Fax 0774-83-2754

歩き遍路の独り言

SHIMAZUMI 1976



SHIMAZUMI

7月5日、狩野東洋氏リーダーのもとで、香灰の白馬山に登った。筆者は少年時代、高松町の祖母の家に毎年の夏、海水浴で泊まりに行っていた。栄城や廻を採ったりしながら、長く彎曲した砂浜の彼方に、二角形の秀麗な姿をした青雲山を眺望したものであった。

その青雲山に今回初めて登るので、既登台から前駆する若宮海水浴場は少し沖合の岩場まで歩道が設置されたようだ。馬の背を登って東麓で昼食をとったが、雨雲は続くものの、直射日光下は免れた。尻尾根を西轉へと向かう途中の岩壁と鉄梯子と太いロープは、この山が標高以上の魅力を感じていることを物語る。

西轉で休憩していると、南風と共に、雨く間にガスで覆われ、驟雨に遭った。幸いにも西轉には休憩小屋と祠があったので、全回復を免れたが、岩壁通過中だったらと思うと、雨とせざるを得なかった。まさしく

幸運だった。数分後に下山を開始したが、途中は乾燥した地面もあったので、全く絶望的な降雨だったのである。

その後は道の駅「シーサイド高取」での入浴で、山行の汗を洗い流してさっぱりした。さらに筆者は隣接店で好物の「小鯛のさき漬」を購入し、満足することこのうえない一日となった。

リーダーに謝意を表しつつ、山行時竹を七舌絶切に託した。

少小遊望青雲山
願望秀麗野沙湾
絶望同宿海天日
驟雨驟浪不憫
(息)少年の頃、青雲山を遥かに見えていた。その秀麗な姿が砂浜の入り口に響いていたのを懐かしく思い出す。今日初めて仲間と共に歩いたが、毎日天候の日である。俣雨を避けたり、岩壁を乗り越えたり、どうしてこの山行を断れないでいられようか。(京都市 小山誠次)

7月5日、19人で北アルプス後立山の唐松岳・五竜岳に

登った。

5日早朝、白馬山麓に着いて、八方ゴンドラ8時発まで時間があるので、黒髪平へ上って残雪の白馬三山や唐松岳の展望を楽しんだ。「あんな雪山にこれから登るのか」と心配する声も聞かれるほどであった。

しかし、八方尾根を快脚に登り、13時には唐松頂上山荘に着いた。西に立山三山・剣、北に白山三山、南には五竜岳が、雪渓を纏って美しくそびえている。翌日も尾根線走2時間30分で五竜山荘に到着し、荷物を預けて五竜岳を往復した。唐松岳が岳が痛くにもびえ、荒々しい尾根が続いている。

湯見尾根の下りも歩きやすく、初夏の花を愛でながら楽しかった。途中、雪渓を通過する箇所が多くあったが、さすが新ハイの登山者ばかり、難なく通過し、テレキャビンのアルプス平には15時30分に下山した。

7月初旬で登山者が少なく、期間に歩けた2日間だった。(城陽市 村田智徳)

第8回 京都山の会写真展 — 山 その偉大な自然の中で —

とき 平成20年9月13日(土)~18日(木)
9時30分~18時30分
会場 エイムエス A'BOX ギャラリー
京都市中京区御前通御池上ル
(JR・地下鉄二条駅西へ徒歩10分P50台可)
TEL 075 (841) 1470
主催 京都山の会写真クラブ
TEL 075 (841) 9291 (事務局)



山行計画
(9・10月)
新・ハイキングクラブ

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着する必要があります。申込み先を確定のうえ申し込みください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合は必ず申込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点の駅、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日額の場合2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(指定保険ジャパンと契約)

- 死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
- 入院保険金 日額 5000円
- 通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・水害等は必ず目的とした山行 ④前泊場所内の事故 ⑤積死の場合(往復は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、必ず自分の住所・氏名に「種」と記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。

② 近隣の山行案内は、実施日の10日前頃にいたします。直前にならぬと参加人数がはつきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないためです。また、早くから返信すると、コースもはつきりしないためです。また、早くから返信すると、コースもはつきりしないためです。また、早くから返信すると、コースもはつきりしないためです。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐにご返信をいたします。お断りが無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。

④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。

- (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
- (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース(5時間コース)
- (中級向き) かなり距離を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
- (やや難向き) 距離は中級が危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
- (難向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前後(17時発表)の当地の気象情報を確認し、近隣案内の判断基準により各自で判断してください(保から連絡はしません)。雨降り山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようにお願いします。

9月	行先	定員	コース
23日(出)	京都北山・衣笠山・沢山三山	仲谷	
23日(出)	比良・武奈ヶ岳	栗	
21日(出)	北河内・交野山	塚元	
21日(出)	鈴鹿・碓氷峠・ミクネ・大杉電王	岩野	
20日(出)	飛騨・高尾山	鷺見	
19日(出)〜21日(出)	北アルプス・岳沢・奥穂高岳・御沢	阪上	
17日(出)	琵琶湖・沖島の蓬萊山尾山	村田	
15日(出)	北摂・三草山・堂床山	金谷	
14日(出)	鈴鹿・雨乞岳	村田	
13日(出)	湖北・正産峰	森脇	
13日(出)	丹後・高山・鼓ヶ岳	高橋	
11日(出)	紀州・大田岳・白馬山	狩野	
7日(出)	鈴鹿・松尾寺山・高取山・向山	西上	
6日(出)〜7日(出)	奥美濃・千回沢山・若丸山	岩野	
6日(出)	飛騨・位山	*10 山田	
6日(出)	三重・サイクリング・織笠岳と雄枝湖一帯	10 鷺見	
5日(出)	湖東・豊野山	10 山口	
4日(出)	三重・矢野山	26 村田	

10月	行先	定員	コース
2日(出)	大峰・高尾山	26 西上	
4日(出)	奈良・サイクリング・大和三山	山口	
4日(出)	白山西方・赤見山	*16 山田	
4日(出)	飛騨・船山	10 鷺見	
4日(出)	鈴鹿・鈴ヶ岳・鈴ヶ岳・茶野	* 岩野	
5日(出)	紀北・生石高原	40 村田	
5日(出)	北摂・大間道	塚元	
9日(出)	三重・庄前峠・尾ヶ岳	26 西上	
11日(出)〜13日(出)	大峰奥岳・弁天の森・前鬼	25 村田	
12日(出)	比良・富坂・蛇谷ヶ峰	森	
12日(出)	朽木・駒ヶ岳・木地山峠	24 森脇	
14日(出)	京都北山・判官坂・貴船山	村田	
18日(出)	若狭・岩倉山	* 高橋	
19日(出)	京都北山・御塚坂・奥谷山	村田	
19日(出)	鈴鹿・サクラグチ・熊ヶ峰	* 岩野	
22日(出)	若狭・大日岳・近江坂	24 金谷	
24日(出)	湖北・鎌刃城跡	村田	
25日(出)	朽木・観ヶ岳・三國岳	狩野	
25日(出)〜3日(出)	奥美濃・鳩ヶ岳	鷺見	
25日(出)〜3日(出)	大峰奥岳・前鬼・笠持山	村田	

* 各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

三重・矢野山 (一般向き)

9月4日(日) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原駅前中央口
8時05分
コース 橿原駅前(バス) 中宮公園キャンプ場→登山口→不動滝→大日経屋敷
白→矢野山→矢野峠→中宮公園→キャンプ場(バス)
道の駅「新杖鹿石の湯」(入浴・バス) 橿原神宮前駅(解散17時)

費用 約3300円(バス代)
地形図 2万5千→大河内・伊勢
関係 ①西下利和○前川和徳子
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(貸切バスに限り)

役の行者が定山したといわれる伊勢の名峰、登山道はよく整備され、少しスリリングな岩場もあって楽しめます。帰路汗を流します。雨天中止

金剛山ハイキング⑨
湖東・雲野山(初級向き)

9月5日(日) 日帰り

集合 JR近江八幡駅南口10時00分
コース 近江八幡駅(バス) 羽田西→五塚山→八幡神社→原堂寺→雲野山→味野の里→南土寺(雲野寺)→川子(バス) 近江八幡駅(解散15時30分頃)

費用 交通費各自
地形図 2万5千→日野西部・八日市
関係 ①村田智俊
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

古墳群や寺院跡があり、車窓呼の「三角標神像」が出た山として有名。下山後、味野の里で出土遺物を見る。雨天中止

サイクリングと登山⑩
三重・綿枝岳と徳杖湖一周 (一般向き)

合宿分岐→綿枝中→徳杖湖

木鈴登山口(サイクリング) 徳杖湖一周(下之垣内登山口(車) 加太駅(解散15時)

費用 交通費各自(自転車は保険対象外)
地形図 2万5千→津西部
関係 ①山口敏明
申込み 〒516-0755 名張市徳が丘中144
山口敏明まで
*定員10名

360度展望の綿枝岳に登り、林道と細杖湖をマウンテンバイク(MTB)で一周します。マイカー及びマイ自転車のない方は、申込順で2名まで相乗り、自転車(MTB)を3000円でレンタルします。雨天中止

自然観察山行⑪
徳杖・位山 (一般向き)

皇釈(解散)

費用 約6500円(皇釈からレンタカー代等)
地形図 2万5千→位山
関係 ①愛蔵年報
申込み 〒504-0838 各務原市蘇原村雨町1の19の5 愛蔵年報まで
*定員10名(申込状況により減員あり)

位山三山の中心である位山は、樹木の博物館ともいわれています。雨天決行(コース変更あり)

展望の山⑫
美濃・千四尺山と若丸山 (健脚向き)

費用 約10000円(宿泊・車代等)
地形図 2万5千→冠山
関係 ①山田明男
申込み 〒503-0000 海津市西瀬町松山50の19
山田明男まで
*定員10名(貸切バスに限り)

2山共岐阜県側からやぶを漕いで挑戦。山頂に行くとともに時雨で引き返す。山頂に行けなければ、今後も二〜三回挑戦する予定です。*3食分持参ください。雨天決行(コース変更あり)

鈴鹿を歩く⑫④
松尾寺山・高取山・向山 (一般向き)

9月7日(日) 日帰り
集合 国道307号新道の駅
「マーガレットステーション」
18時30分
コース 道の駅(車) 宇曾川ダム
石尾峠→松尾寺山→高取山→向山→山古地蔵
→下(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「新在野・雲野」
(9頁)

関係 ①若野 明 ○山田 三三
○後藤 康幸
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

松尾寺山から高取山への尾根の一部がやぶで歩きなかつたが、近年林道が出来たので歩ける。今回の新ルートはパノラマコースとして整備した。雨天中止

紀州・太田岳から白馬山

9月11日(日) 日帰り
集合 近鉄徳島駅前北口8時55分
コース 富田駅(バス) 白馬山登山口→徳島山→白馬山→(往路)→登山口(バス) 富田駅(解散17時)

山頂よりも下山口の林道からが展望はすばらしいが、自然林の豊かな尾根歩きは秋の深まりを感じとれる。雨天中止

湖北の山・正座峰 (一般向き)

9月13日(日) 日帰り
集合 高尾市朽木支庁7時00分
コース 朽木支庁(車) 上村→峠→正座峰(往路)→上村(解散)
費用 交通費各自
地形図 2万5千→久多
関係 ①高尾 伸浩
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

北川を渡れ、トチモチ谷の湖の大木や杉の木のカマ残りが見もの。雨天決行

近江の山シリーズ⑬
鈴鹿・雨を浴(中級向き)

大峰・高塚山(二較向き)

10月2日 日曜日 日帰り

集合 近鉄磯城郡宮原駅中央口

コース 磯城郡宮原駅(バス)林

道利梨谷登山口→カラ

オト湖→Pier94→高

塚山→大塚分岐→一の井

→トンネル東口(バス)

→磯城郡宮原駅(自家用車)

費用 約3000円(バス代)

2万5千、登山

地形図 ①同上前掲②前掲登山

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部まで

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、高塚山を経て高塚の雄観を目標とします。雨天中止

(往路)→耳成山→登山

口(サイクリング・藤原

宮跡)→登山口(鞍馬)

→香具山→登山口(サイ

クリング・磯城郡宮原駅

→登山口(鞍馬)→鞍

馬山→登山口(ハイラン

グング・磯城郡宮原駅

→宮原駅(鞍馬宮原)

費用 交通費(往路)自家用車マ

ンター料1200円・自転

車は別途要料)

申込み 761010121

名城市城守丘中14

山口駅前まで

自家用車レンタルし、大塚三山

に立ちます。サイクリングは早稲

道へほとんど坂はありません。

自分の自転車の方は「マイ自転車」

と記入ください。雨天中止

高塚の山49

白山西方・赤坂山(二較向き)

10月4日 日曜日

集合 J.R.関ヶ原駅、時30分

コース 関ヶ原(車)→小塚登山

口→小塚峠→赤坂山→

小塚(往路)→小塚

登山口(車)米原駅/関

ヶ原駅(鞍馬)

費用 約4000円(車代・交

通費)

2万5千・北谷

地形図 ①山田明男

申込み 750310535

海津市南瀬町松山坂の19

山田明男まで

往路には早い方、赤坂山に行

きましよう。希望者は小塚峠から

大塚山のみ可。雨天中止

自家用車山行257

鳥飼・船山(二較向き)

10月4日 日曜日

集合 J.R.鞍馬駅、時15分

コース 鞍馬駅(車)→位山峠→ア

ラケテ分岐→休養舎→

船山(往路)→位山峠

費用 約6500円(鞍馬駅か

らレンタカー代等)

2万5千・位山

地形図 ①養賢寺

申込み 750410628

各務原市鞍馬村南町1の

1805 養賢寺まで

・定員10名(申込状況に

より減員あり)

東山田畑からツナブナの原生林を歩

きます。雨天代行(コース変更あ

り)

鈴鹿を歩く298

鈴ヶ浜・鈴ヶ浜・茶野

10月5日 日曜日

集合 国道306号線大宮マ

バス停8時30分

コース 大宮マ(車)→鞍掛ト

ンネル手前(車)→鈴ヶ浜

元池→お花の池→ヒルコ

バ→鈴ヶ浜→茶野→大宮

費用 交通費(往)

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部まで

鈴ヶ浜・鈴ヶ浜・茶野と歩き、大宮

マ畑にくだります。秋の草花がま

しめます。雨天中止

北谷・牛生の山(二較向き)

10月6日 日曜日

集合 近鉄上本町駅、時10分

コース 上本町駅(車)→中田

→大塚分岐→牛生の山

→北谷→牛生の山→北谷

→石塔峠→田原分岐→北谷

→北谷(往路)→大塚分岐

費用 約6000円(上本町駅

からレンタ

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、北谷山を経て北谷の雄観を目標とします。雨天中止

鞍馬駅→飯島大塚

費用 交通費(往)

2万5千・北

申込み 761010121

大塚市飯島大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

三鷹・飯島峠の山

10月11日 日曜日

集合 近鉄中津川駅、時30分

コース 中津川駅(車)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

→飯島峠(鞍馬)→三鷹

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

大塚市飯島大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

費用 約7000円(タクシー

代・赤山小塚泊は8500

0円アップ)

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

赤山から八枝ヶ岳、鞍馬峠と

大塚の中心部をサント泊と小塚泊

と歩く。サント泊以外の人は

「小塚泊」と記入ください。雨天

中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

※定員20名(会費無)

秋深まる大峰の自然に身をまかせ、飯島山を経て飯島の雄観を目標とします。雨天中止

申込み 761010121

城陽市寺田大塚10の10

新ハイキング倶楽部

費用 約2100円(京都から)
地形図 2万5千：北小松(昭文社)「北山山系」
係 松本 康夫
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

京都尾根を歩天にたどりて琵琶湖に降り、あとはゆるやかな尾根歩きです。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

近江の山シリーズ
朽木・駒ヶ岳から木津山峠
(二較向き)
10月12日 日曜日
集合 J&R京都駅八条口団体系
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス)木津山中
小屋 惣尾分岐 後醍醐
森林公園分岐 駒ヶ岳
Preston Pigeon
8-P8055 木津山峠
林道出合 中小屋(バス)
京都駅(解散16時40分)

費用 約3000円(京都駅からバス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 森脇直義
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名
少し時間がかかりますが、景観は素晴らしいブナ林が残っています。雨天中止
火燧ハイイク47
京都北山・料官坂から貴船山
(二較向き)
10月14日 日曜日
集合 出町柳駅(バス)停8時10分
コース 出町柳駅(バス)大宮
料官坂 P697 貴船山
山一貴船山ノ瀬駅(解散15時40分)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 森脇直義
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

地区に名前の記載がない山(Pr697)ですが、この道は料官坂といふらしい。歩行は入っていないが、片の腰が戻る道です。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

香賀の山・香賀山(二較向き)
10月18日 日曜日
集合 教習所(バス)停8時10分
コース 市役所(車)山一日本
野間 夕暮山 香賀山
(注) 山一(解散)
費用 交通費各自
地形図 コナソウ 教習所、社口
係 森脇直義
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名
秋のブナ林を、京滋尾根(高島トレイル)を歩きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

京都北山歩き28
城陽市から魚谷山(二較向き)
10月19日 日曜日
集合 京都地下鉄北大路駅タワ
シーのりば8時40分
コース 北大路駅(タクシー)組
父谷山 湯車 湯車 湯車
はら谷 魚谷峠 魚谷山
一 湯車 尾根道 湯車
峠 湯車 湯車 湯車
湯車(湯車) 出町柳駅
(解散17時40分)
費用 約2500円(タクシー・

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名
秋のブナ林を、京滋尾根(高島トレイル)を歩きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名
秋のブナ林を、京滋尾根(高島トレイル)を歩きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名
秋のブナ林を、京滋尾根(高島トレイル)を歩きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

は、サララアチー構合山をリタイ
ンして能登ヶ峰へと続いている。
この長大な尾根の稜線にアタマツ
きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

10月22日 日曜日
集合 J&R京都駅八条口団体系
スのりば7時40分
コース 京都駅(バス)美濃町新
庄(バス)岩倉登山口
関道 関道 大日岳 近
江坂 三新坂分岐 へや
ノ谷分岐 熊野文倉林道
終点(バス)京都駅(解
散16時30分)

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名(空席に限り)
*マイカー参加可。その
他記入ください。

若狭大日岳の東北尾根の関道
尾根をたどって登頂し、近江坂の
ブナ美林を歩き、飯沼又谷にく
だります。本志尾根を歩くと、
に余裕があれば近江坂をたどり、
大徳山登山口、ノロ尾を経て能
登ヶ峰にたどり着きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

10月25日 日曜日
集合 J&R京都駅八条口団体系
スのりば7時40分
コース 京都駅(バス)桑原橋
久多 峠 峠 峠 久多
一三郎 岩倉峠 ナメ
トコ谷出合 美濃橋 古
屋(バス)京都駅(解散
16時40分)

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名
秋のブナ林を、京滋尾根(高島トレイル)を歩きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名
秋のブナ林を、京滋尾根(高島トレイル)を歩きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*定員24名
秋のブナ林を、京滋尾根(高島トレイル)を歩きます。雨天中止
申込み 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで

重滝口ー七重滝ー(往路)
 滝口ー小仲坊ー三重滝
 ー(往路)ー小仲坊(◎)
 (2日) 前鬼一本古ノ辻
 ー地蔵橋ー深瀬橋ー延延
 無瀬橋ー持統橋ー平市宿
 (◎)

(3日) 平治宿ー乾法橋
 宿ー行部宿ー笠原山ー高
 川辻ー上高川口(バス)
 大塚温泉(入浴・バス)
 近鉄大和八木駅(解散19
 時頃)
 費用 約9000円(今のシー・
 バス代等・小仲坊泊は8
 500円アップ)
 地 図 昭文社「大峰山脈」
 ◎村田智俊
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 村田智俊まで

前鬼ノ辻道から大峰南部の核心
 部をテント泊と小塚泊で歩く。
 ・テント泊以外の人は「小塚泊」
 と記入ください。雨天が続く予報
 の場合は中止

特別企画
 エベレスト街道トレッキング
 10日間前後 (二校向き)
 2009年3月実施
 行動費約 28000~39000
 最小催行人数 6名
 週末ハイク及び九州・四国方面
 の山歩き企画が今年100回を
 超えました。その節目として、毎
 年新企画登山の会の協力により
 ホテル「エベレストビュー」に泊
 まるトレッキング企画を実施しま
 す。
 ・問い合わせ・参加希望者は、特
 野原まで連絡ください。
 ☎090(4302)0186
 ・ケータイメール
 arukinai.kohama@docomo.
 ne.jp
 haruhiko.kano@yahoo.
 co.jp
 *参加申込み 10月20日まで

山行報告
 (5・6月号)
 新ハイキングクラブ関西

徳在所岳・上水島谷左澤尾根
 (鈴鹿を歩く285)
 5月3日(祝) 晴れ
 (集合) 武庫峠西口広場8・20ー
 一ふく峠8・55ー沢谷合9・30
 ー尾根取付10・30ー西峰1150
 112・05(昼食)13・00ー徳在所
 宿13・30ー徳所神社14・00ー大谷
 14・10ー一ふく峠14・45ー広場15・
 20(解散)
 源流の下りではイワウチワ・エ
 レンイソクの花が咲き、尾根の急
 登90分で西峰に到着。マンネンス
 登の広場で眺望を楽しみながら昼
 食。徳所神社はタムシバ・アカヤ
 シノ・タテヤマリンドウの花がいっ
 ぱい。下山は徳所神社から新ル
 ー(参加者)多田 池 貴彦雅路
 余谷 明 岩本彩子 大西徹郎
 水戸鉄治 栗本敏夫 市井ユリエ
 森本 勝 森本淳子 扇原田幸弘
 池田隆一 森村 守 左近健一朗

北沢・黒崎山から明神ヶ岳
 (地図読み山行87)
 5月3日(祝) 晴れ
 (集合) JR高槻駅8・15(バス)
 樫田駅前8・53ー9・15ー勝手坂
 9・35ー林道出合10・10ー黒崎岳
 10・35ー45ー片尾峠11・35ー明神
 ヶ岳12・10(昼食)13・00ー万寿
 峠13・40ー中畑新道13・50ー14・
 18(バス)高槻駅15・05(解散)
 大阪・京都府境にある二つのピー
 クを結んで歩き、コンパススワー
 クと地形図の勉強をした。万寿峠の
 ワスレササキは開花だった。
 (参加者)金倉勲子 松井明忠
 関田薫章 田口祐生 田中伊勢男
 楠原良彦 須藤淳子 名倉マサ子
 若林文夫 越田 二郎 岩本いすゞ
 松尾 一郎 合津清司 前田孝子
 ◎中村 登 ◎塚元一彦(計16名)
 但馬・三川山
 (ファミリーハイキング119)
 5月7日(祝) 晴れ

集合) JR大阪駅 7・30~40

(バス) 三川権現社11・15~30
 シヤクナゲコースー三川山13・45
 (昼食) 14・25ー奥の院コースー
 三川権現社15・55~17・10(バス)
 新大阪駅21・35(解散)
 由にシヤクナゲ、地にイワカガ
 ミ、山にブナ林が光り輝く道を歩
 いた。古来山岳宗教の行者道の厳
 しさを身を感じ、山頂から日本海
 を眺めた。
 (参加者) 奥田剛夫 中澤ちす子
 村上勇十 木間明恵 木村 豊
 山岸穂穂 小栗大直 栗橋裕子
 平田輝英 志水明美 砂原恵美子
 山根弘美 繁田広英 大園加代子
 精方由子 岩本彩子 沖 伸
 和田直樹 柳川富雄 松村雅子
 大谷孝子 長沢佑美 安田文美江
 岡本和子 渡部和美 濱木美和恵
 中辻勝子 渡辺いく 渡多野恵子
 白岡恵子 松浦 巖 木田久美子
 堅田 弘 木内朝文 小林 桂
 ◎川上久登 ◎松井明忠
 ◎妹尾 正 ◎木村太郎(計26名)

奥美濃・貝月山
 (自然観察山行248)

5月10日(祝) 雨
 (集合) JR大垣駅9・00(バス)
 長者の里9・55ー東尾根分岐12・
 00ー小貝月山12・15ー貝月山12・
 35(昼食)12・55ー小貝月山13・
 20ー東尾根貝月山スキー場日坂ゲ
 レンテ14・30(45(バス)いび川
 温泉15・10(入浴)16・00(バス)
 大垣駅16・50(解散)
 終日雨であったが、予定通り歩
 いた。花期は過ぎていたもののオ
 オバキスミレを確認。シロガネソ
 ウの仲間もいくつかの株を見た。
 積翠に出るとホンシヤクナゲが鮮
 やかに咲き、その林床にはイワウ
 チワが残花をつけていた。
 (参加者) 荒木光雄 池田美恵子
 岩田智樹 岩橋健司 神谷恵美子
 小田妙子 平田輝英 渡部百合江
 堀田輝子 若林文夫 ◎石井照雄
 ◎鷺見守康 (計12名)
 越前・文殊山とみつまた山
 5月10日(祝)11日(祝) ◎森脇直哉
 ・バス定員制での催行最小人数に
 満たず中止しました。

紀北・矢倉岳

5月11日(祝) くもりのち晴れ
 (集合) 近鉄上本町駅8・10(バ
 ス) 小笠本橋(舞川林道口)10・
 30 小笠山10・50ー芝生場11・
 30ー35ー登り口遊覧11・45ー矢倉
 岳13・10(昼食)13・45ー田尻城
 跡14・10ー小笠峠(林道遊覧)14・
 40ー50(旧道)ー一回目林道出
 合15・10(旧道)ー一回目林道
 出合15・20ー30(小笠林道)ー
 小笠橋15・50ー16・00(バス)中
 津温泉「あやめの湯」温泉館16・
 10(入浴)17・10(バス) JR大
 阪駅19・10(解散)
 岩峰の尾根道になるとシヤクナ
 ゲが多く咲いていた。田尻城跡か
 ら小笠峠へくだったが、歩きやす
 い道だった。遊道に近い旧登山道
 をたどって下山した。
 (参加者) 中川節子 岡崎知子
 村井寿和 下郡正幸 野末あや子
 三野 旭 朝倉敏雄 佐々木輝子
 堀内直樹 高橋勝治 宮路ちへ子
 林 慎男 岩橋健司 伊東ナナ子
 小尾末吉 楠原良彦 中嶋日出男
 木村和恵 渡部 幸 西谷真実子
 岩田育士 関田孝雄 船木裕巳子
 小池 一郎 ◎安倉正勝 (計26名)
 ◎村田智俊

白山西方・大嵐山
 (展望の山41)

5月11日(祝) くもり
 (集合) JR関ヶ原駅7・20(電
 車) 百文谷駐車場9・55~10・05ー百
 文谷谷10・20ー大嵐山11・05ー
 ズバシウウの谷12・00(昼食)12・
 40 展望コース百文谷駐車場13・
 25(車) 白鷺温泉線14・00(入
 浴)15・00(車) 米原駅17・20
 (車) 関ヶ原駅17・50(解散)
 残雪があり、靴は泥にまみれた。
 花はけっこう見られ、目玉のミ
 ズバシウウもみずすました。
 (参加者) 山田乙三 馬場博子
 沖 伸 藤野暢子 三井雄一
 鳥居信吾 若林文夫 藤本紀子
 中神恵子 小林一世 長坂佐知子
 林 正義 村田紀生 北村つねみ
 山田康彦 山田妙子 ◎山田明男
 (計17名)
 愛宕山シリーズ18
 愛ヶ岳・愛宕山からツツジ環視
 5月13日(祝) くもり
 (集合) 清滝バス停9・00~10ー
 梨の木林道ー林道終点10・40ー首
 無地蔵11・20ークリンソウ群生地
 ー電の小屋11・40ー電ヶ岳12・35

森村 守 一芝美知子 一芝美知子
寺井博子 加藤純計 馬野太一郎
北村正美 森野暢子 石田真由美
針谷邦夫 針谷孝子 木本美恵子
原光一 原幸子 市井ユリエ
大西節郎 谷守 小林 修
○後藤康幸 ○山田昭三
○岩野 明 (計29名)

比較・栗立山
(北山ちよと歩き99)

5月21日 晴れ
(集合) 坂本親光案内所9・15
22 日吉原駅9・37 鎌倉駅10
05 鎌倉港10・10 17 栗立山11
08 紀貫之墓(音恵) 11 ケーブル
延福寺駅11・45 (昼食) 12・35
弁天堂12・50 13 00 坂本親光
13 46 四ツ谷川林道終点14・15
15 古川公園15・25 JR青崎
駅15・45 (解散)
野天に恵まれ山歩きが楽しめた。
栗立山までは我々だけの静かな山
行、期待したクリンソウは山中や
裾野の林道沿いに咲いていて長く
楽しめた。
(参加者) 林 正義 八江 勲
島田 廣 仲谷弘司 宮路ちへ子
川島勝美 河内正治 中嶋日出男
宮崎紀正 矢谷孝子 原 りとえ

栗野暢子 塚本中次 武蔵美男子
夏山春子 武村千鶴 野村 源
上野信美 若林文夫 藤田トシエ
本間 隆 徳橋純子 佐々木孝子
舟岡 隆 谷守 山本聖二
山崎健児 ○谷 昭 (計29名)

湖西・三國山から赤坂山
(平日ふれあいイタ69)

5月22日 晴れ
(集合) JR京都駅7・30 (バス
マキノ白根林道) 35 中野橋10
10 三國山入口11 10 三國山11
30 明土の巻手前12 10 (昼食)
13 00 赤坂山13 30 45 フナ
ノキ平14 30 40 マキノスキー
場15 20 (バス) 京都駅17 50
(解散)
(参加者) 岡崎知子 中川光郎
小柴大直 志木明美 金森節子
妹尾正 渡辺いく 岡本和子
岡田恵章 関口恵子 佐々木輝子
安良陽子 沖 伸 水見貞妙子
徳彰和美 長谷佑美 佐々木孝子
加藤浩一 今泉 勲 渡野野郎子
山岸勝雄 川上久登 (計23名)

レンタサイクルで大和三山
(サイクリングと登山)

北村正美 森村 守 居原田幸弘
三上邦夫 井口俊介 栗岡克子
小田砂子 ○後藤康幸
○山田昭三 ○岩野 明 (計29名)

湖東・磯山
(北山ちよと歩き100)

6月4日 晴れ
(集合) JR野洲駅8 55 (バス
編野博物館前) 07 15 辻ダム
9 20 城山峠10 10 城山10
25 35 古登山10 52 55 休屋
所11 20 (昼食) 12 05 立石山
12 18 1 城山13 05 12 龍王江
1 城山13 33 奥野台広場14 03
1 野外活動センター14 40 希望
ヶ丘文化公園西ゲート15 35 (解
散)
城山では山城跡の整備にボラン
ティア参加活動中の会員各守氏に
案内してもらい、充実した里山歩
きとなった。
(参加者) 野野東彦 中嶋日出男
仲谷弘司 須藤孝子 今泉 勲
塚本中次 磯部 純 若林文夫
阪上義次 大谷孝子 金森節子
巧名生石 松本忠雄 田中三恵子
川上久登 山根弘美 森野暢子
岩本孝子 青木一雄 渡部和美
栗岡克子 加藤浩一 木下朝子

本間隆 本間孝子 後藤純子
川島勝美 小林 隆 角江朝子
原 啓明 木村 豊 野末あや子
武村千鶴 夏山春子 妹尾正
中川光郎 岩野 明 山本聖二
○谷 守 ○谷 昭 (計40名)

湖西・能登野路から三三三開山
(週末ハイキング)

6月7日 晴れ
(集合) JR京都駅7 30 50
(バス) 能登野林道入口9 45
55 林道終点10 35 45 能登野
越11 45 (昼食) 12 45 P 8 3
8 13 27 35 三三三開山13
46 14 20 大塚橋15 00 15
最後の水場15 25 35 倉賀登山
口駐車場15 55 16 05 (バス)
京都駅19 30 (解散)
林道に出ると風があり、カニテ
からフナへと続く新緑の広葉樹林
を快適に歩き、三三三開山に到着
予定より早く山頂に達したので、
頂上直下の草原で草花を楽しみな
がらゆっくり休憩を入れた。
(参加者) 多田 地 水見貞妙子
繁田ひ美 長谷佑美 徳菜由美子
白根孝子 岡田恵章 船木裕子
藤崎孝子 杉本英一 西谷真孝子
金谷 昭 岡田孝雄 渡辺和美江

5月24日 山口晴明
・雨天のため中止しました。

鈴鹿・三國山
(近江の山シリーズ)

5月25日 晴れ
(集合) JR京都駅7 20 (バス
藤掛トンネル西口登山口9 11
20 1 鞍掛峠9 47 1 徳尾山10 10
17 P 9 11 11 三國山11
11 22 (昼食) 12 15 三國山
11 30 1 百々女鬼橋14 13 30 (バス
京都駅16 24 (解散)
ヤマツジが満開で、すばらし
い風景だった。雨上がりでヤマビ
ルの多い山だった。
(参加者) 奥田明夫 栗崎崇吉
小柴大直 下塚正年 多田 地
金森節子 木村 豊 三野 旭
徳彰和美 高橋純治 後藤純子
山根弘美 松村博子 岡田謙治
宮野純子 紀田信生 岩佐 隆
西原俊彦 針谷邦美 ○若林文夫
○宮野信彦 ○森崎貞美 針谷孝子
丹波・松尾山
5月31日 阪上義次
・雨天のため中止しました。

栗岡克子 林 弘毅 西田俊治
山崎健児 夏山春子 木下朝子
○仲谷弘司 ○野野東彦 針谷孝子
○後藤康幸
○岩野 明 (計29名)

自然観察山行250
(自然観察山行250)

6月7日 晴れ
(集合) JR大塚駅9 00 (車)
博見車庫前10 10 登山口10 15
1 岩尾12 40 (昼食) 13 15 1 登
山口14 45 1 東坂原14 50 (車)
谷登壇の湖15 45 (入会) 16
30 (車) 大塚駅17 30 (解散)
登山道に沿って映くシンパタン
ナミノワやカキノハダサを眺めな
がら登ったが、岩尾への道はやほ
りかなりの急登。登山者は無く、
独り占めの岩場であった。
(参加者) 岩崎健司 岡田輝子
○後藤純子 (計3名)

イブネ・鏡子・深谷山・鏡子ヶ
口 (鈴鹿を歩く287)

6月1日 晴れ
(集合) 紅葉尾神社境内7 50
(車) 藤掛谷田林道入口8 30 1
シテの大木9 40 1 杉峠11 00 1
1 佐目峠11 30 1 イブネ11 50 1 鏡
子12 20 (昼食) 13 10 1 P 10
2 2 1 13 50 1 フナガ14 10 1
大谷の池15 00 1 鏡子ヶ口東峰16
00 1 鏡掛谷林道16 40 1 紅葉尾18
00 (解散)
杉峠から大木、特にイブネの楓生
が一変していた。ヤマは枯れ地肌
が目立ち、マンネンスキ、ヒカゲ
カズラ、スキゴケが急速に増えて
いたが、フナの新鮮の緑は最高
水舟の池、鏡子ヶ口山荘ではタテ
ヤマリンドウ、イワカガミ、アカ
モノなどの花々を愛で、モノレ
ルの急斜面を一気に下りた。
(参加者) 多田 地 岡田謙治
武村千鶴 寺井博子 森野暢子
木下朝子 高橋純治 中澤剛博
野野孝丸 西田明夫 市井ユリエ
貴野孝路 岩本孝子 栗野太一郎
谷 守 水戸鉄治 森 美香子
栗本敏夫 白木良弘 白木やす子
澤崎 實 加藤純計 石田真由美
大西節郎 一芝美雄 一芝美知子

食13 00 谷出合13 30 40 1
伯耆谷観13 50 14 00 1 阿波陀
ヶ森14 25 1 大貫峠15 30 1 車
ノ湖16 35 1 和佐又ヒュンテ17
40 (泊)

(8日) くもりのち晴れ) ヒュン
テ6 40 1 車ノ湖7 45 1 大貫
峠分岐9 05 1 阿波陀ヶ森10
10 1 七塚峠10 50 1 阿波陀分岐
00 (昼食) 12 40 1 行者道小屋13 30 1
1 30 1 行者道トンネル分岐14 25 1
40 1 行者道トンネル西口15 20 1
40 (タクシー) 下市口駅17 10
(解散)
シロヤシオとシヤクナゲが満開
で咲いていた。無反斜よりヒュン
テの往復はタイム的にとても無理
で、大貫峠から定座ノ湖コースを
和佐又へ往復した。翌日、雨予報
だったが朝に回復して予定通り歩
いた。阿波陀と七塚峠間はクサリ
場の路路コースだった。
(参加者) 徳武誠哉 野末あや子
菅村春子 岡崎知子 久保田裕子
高橋純治 岡田洋子 武蔵美男子
栗崎崇吉 加藤浩一 伊東ナナ子
宮野純子 多賀久子 佐々木輝子
川戸せつ 入江 勲 小川孝子
稲津謙治 真比裕美 武蔵由美子

高木忠実 行廉 登 (宮野哲郎)

白山北方・人形山と大笠山 (宮野の山岳)
6月7日(日) 8日(月) 1泊2日
(7日) 晴れ (集合) JR西岐

あつて、二山共300名山で大笠

湖西・駒ヶ岳から池原山 (近江の山シリーズ)
6月8日(日) 晴れ
(集合) JR京橋駅7:20 (バス)

三野 旭 堀江房廣 長坂祐美

伊賀・厄ヶ岳 (サイクリングと登山)
6月8日(日) くもり
(集合) 近鉄青山駅9:00 (サイ

(集合) JR野山駅8:40 (タラ

歌壇山から妙見山 (大塚ハイクル)
6月10日(火) 晴れ
(集合) 熊野池袋妙見口駅9:55

山14・50・15・10ヶヶヶヶヶヶ

梅山の首領中だということに大気
に思いました。おおよそ山岳日誌歩
道を走つての道だか、この長い

台湾・高見峠から大又

6月12日(日) くもり時々晴れ
(集合) 近鉄神宮寺駅8:05
(バス) 高見峠9:30

油日岳・那須ヶ原山・高畑山

6月15日(日) くもり
(集合) 鈴鹿野西御嶽駅8:00
(車) 油日岳登山口9:00

種田・七種山から七種嶺

6月15日(日) 晴れ
(集合) JR新大塚駅8:00 (バ
ス) 七種山登山口9:50

南信州・霧訪山

(自然観察山行25)

6月21日(出) くもり

(集合) JR岐阜駅7:15(車)北小野登山口10:10(かつとり城跡)10:30(霧訪山)11:10(昼食)12:00(登山口)12:40(車)大芝湯原13:30(入浴)14:10(車)岐阜駅17:00(解散)

長野県に入る空間から青空ものぞいたりした。幸い雨にも降られず、山頂ではオキナグサの実が見れた。

(参加者) 国井文男 武藤由美子 佐々木三子代 ○三井証一 ◎鷺見守康 (計5名)

北信州・丹生山

6月21日(出) くもり

(集合) 神戸電鉄箕谷駅9:00(バス)丹生神社口9:25(丹生神社)10:30(昼食)11:30(シレン山)12:10(車道)14:00(新原)14:45(バス)04(バス)箕谷駅(解散)

早朝の雨で不参加者が続出し、2人だけの山行となった。丹生神社口から二丁丁に石右があり、頂上まで二十四丁。頂上には丹生神社があり、ここで昼食にした。

シレン山へ縦走

三角点を経て展望の無い頂上に着く。下山は二つの四等三角点を踏んでつくはる湖畔の自転車道へとくだる。途中の山道にはササユリもたくさん咲いてはいた。

(参加者) 岩本彩子 ◎坂上英次 (計2名)

紀東・一徳防山

(ファミリーハイキング22)

6月22日(出) ◎木村太朗

●雨天のため中止しました。

箕面・六個山

(金曜里山ハイキング6)

6月27日(出) 晴れ

(集合) 阪急箕面駅9:30(50)一の橋10:00(15)一徳防山10:25(30)桜谷コース分岐ベンチ10:50(11)00(ハート広場)11:20(わくわく展望台)12:25(35)六個山11:55(昼食)12:40(石段の滝)13:30(15)府道コンビニ14:30(40)箕面駅15:00(解散)

一徳防山から「教学の森遊歩道」をたどり、「わくわく展望台」で阪神間の大展望を楽しみ、六個山へ登った。整備された山道には雨の中にもササユリ(箕面市の花)

湖北の山・池原山

6月28日(出) くもり

(集合) 高島市朽木支店9:00(車)足谷口登山口9:30(池原山)10:20(ろくろ橋分岐)11:30(昼食)12:10(木地山)13:15(足谷口登山口)30(解散)

梅雨の最中、歩いている間だけ雨は降らず、解散後雨となった。涼しく爽やかな緑のブナ林を堪能した。

(参加者) 萩野暢子 谷内智恵美 森本 鶴 森本淳子 藤元明余志 中橋エルサ ◎高島淳治(杉ノ志)

霧ヶ岳・四方草山・三千山

(約2800歩を歩く)

6月29日(出) ◎岩野 明

●雨天のため中止しました。

北嶺・三草山から堂床山

6月29日(出) ◎村田哲俊

●雨天のため中止しました。

(5・6月の参加 延734名)

入会案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(毎月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、関東を中心に57年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足して17年目に入りますが、すでに数万名の会員で活動しています。

会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。会員には「新ハイキング関西の山」を借りお届けします。

係(リーダー)はすべて無償の奉仕で、各日での切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が例外に参加される場合は、山行運営費として400円を支出していただきます。

四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これ

から始めてみたい方、すでにペナランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円(ラッペン) 年費 3300円(送料共)

入会の申し込み(随時)は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。如何からの送本かを忘れずに記入ください。

なお、定期購読を希望される方々も会員になっていただけます。振替用紙にお手元にお届けします。お友達への住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料でお送りします。

○山行係(リーダー)募集

係は2・月に1回程度の山行例を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「新ハイキングリーダー必携」をご案内にお送りします。

○新入会員(定期購読者)紹介

新しいお仲間のみなさんです。

合計5380番から5394番まで(敬称略)

【福井】 中橋エルサ

【滋賀】 上島秀夫 今村由紀子

【大阪】 福田智之 後藤美恵子

【奈良】 辻中 貞 山下美枝子

【兵庫】 藤井文章 藤井茂代子

【鳥取】 橋野静子 高島とも子

森井 隆 坪田美千代 藤田啓介 (15名)

訂正とお詫ひ

1位の通り訂正します

○100号(初夏)

●53ページ上段文章と行目(全縦)

街道)→「全縦北道」

●54ページ中段8行14行目のカタ

カナ名、地名などは、統一して、

「三川」「金州」「井原」「蔵山

とします。

○101号(盛夏)

●51ページ下段「翠泉口ヒョウ」

及び同53ページ上段「千穂道避難

小屋」は、現在閉鎖・解体され宿

泊はできません。

●74ページ上段付近関中、北山の

標高「341」→「384」同、

橋の水台七丁目×橋なしノノ橋の太い支線は歩道ではなく河川である。

●92ページ三段目終わりから2行

目「三十三間山麓(野登山口)」

「三十三間山麓(登山口)」

●92ページ下段11行「7月28日

(出)28日(出)」→「8月2日(出)4

日(出)」

●94ページ下段最後の説明文は

「先に全体的に珍しい名所「蘇門

門」にいったんたり、水泳や釣

りを楽しんでから、久須後ヶ岳の

あるエンゼルライン頂上へ登り返

す。」が正しい。

●100ページ下段2行目「小山沢」

→「小山沢」

(編集室)

書店でお求めになりたい方へ

前もって発行したい方へ「購読予約」をさせていただきます。どの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃(毎月刊)の発売